

SIEMENS

SIMATIC HMI

HMI デバイス Unified コンフォートパネル

操作説明書



まえがき

概要

1

安全対策注意事項

2

デバイスの取り付けと接続

3

デバイスの操作

4

[コントロールパネル]の操作

5

データの転送

6

装置の保守と修理

7

技術情報

8

技術サポート

A

マークおよびシンボル

B

略語

C

法律上の注意

警告事項

本書には、ユーザーの安全性を確保し製品の損傷を防止するうえ守るべき注意事項が記載されています。ユーザーの安全性に関する注意事項は、安全警告サインで強調表示されています。このサインは、物的損傷に関する注意事項には表示されません。以下に表示された注意事項は、危険度によって等級分けされています。

危険

回避しなければ、直接的な死または重傷に至る危険状態を示します。

警告

回避しなければ、死または重傷に至るおそれのある危険な状況を示します。

注意

回避しなければ、軽度または中度の人身傷害を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。

通知

回避しなければ、物的損傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示します。

複数の危険レベルに相当する場合は、通常、最も危険度の高い事項が表示されることになっています。安全警告サイン付きの人身傷害に関する注意事項があれば、物的損傷に関する警告が付加されます。

有資格者

本書が対象とする製品 / システムは必ず有資格者が取り扱うものとし、各操作内容に関連するドキュメント、特に安全上の注意及び警告が遵守されなければなりません。有資格者とは、訓練内容及び経験に基づきながら当該製品 / システムの取り扱いに伴う危険性を認識し、発生し得る危害を事前に回避できる者をいいます。

シーメンス製品を正しくお使いいただくために

以下の事項に注意してください。

警告

シーメンス製品は、カタログおよび付属の技術説明書の指示に従ってお使いください。他社の製品または部品との併用は、弊社の推奨もしくは許可がある場合に限りです。製品を正しく安全にご使用いただくには、適切な運搬、保管、組み立て、据え付け、配線、始動、操作、保守を行ってください。ご使用になる場所は、許容された範囲を必ず守ってください。付属の技術説明書に記述されている指示を遵守してください。

商標

®マークのついた称号はすべて Siemens AG の商標です。本書に記載するその他の称号は商標であり、第三者が自己の目的において使用した場合、所有者の権利を侵害することになります。

免責事項

本書のハードウェアおよびソフトウェアに関する記述と、実際の製品内容との一致については検証済みです。しかしなお、本書の記述が実際の製品内容と異なる可能性もあり、完全な一致が保証されているわけではありません。記載内容については定期的に検証し、訂正が必要な場合は次の版で更新いたします。

まえがき

この操作説明書の目的

この操作説明書に記載されている情報は、機械工学文書に関する必要条件に基づいています。場所、輸送、保管、設置、使用、および保守に関する情報が記載されています。

これらの操作説明書が対象とする読者は、以下のとおりです：

- ユーザー
- コミッショニングエンジニア
- 保守要員

特に「安全に関する注意事項 (ページ 21)」のセクションの情報をお読みください。

TIA Portal 情報システムで詳細な情報を参照できます。

必要な基礎知識

この操作説明書をご理解いただくためには、オートメーション技術とプロセス通信に関する一般知識が必要です。パーソナルコンピュータおよび Microsoft オペレーティングシステムの知識が必要です。

操作説明書の適用範囲

この操作説明書は、SIMATIC WinCC Unified V18 ソフトウェア以上と併用して、下記の HMI デバイ스에適用されます。

名称	タイプ	商品コード、Siemens ロゴ付き装置	商品コード、Siemens ロゴなし装置
MTP700 Unified Comfort	7 インチ装置	6AV2128-3GB06-0AX0	6AV2128-3GB36-0AX0
		6AV2128-3GB06-0AX1	6AV2128-3GB36-0AX1
MTP1000 Unified Comfort	10 インチ装置	6AV2128-3KB06-0AX0	6AV2128-3KB36-0AX0
		6AV2128-3KB06-0AX1	6AV2128-3KB36-0AX1
MTP1200 Unified Comfort	12 インチ装置	6AV2128-3MB06-0AX0	6AV2128-3MB36-0AX0
		6AV2128-3MB06-0AX1	6AV2128-3MB36-0AX1
MTP1500 Unified Comfort	15 インチ装置	6AV2128-3QB06-0AX0	6AV2128-3QB36-0AX0
		6AV2128-3QB06-0AX1	6AV2128-3QB36-0AX1
MTP1900 Unified Comfort	19 インチ装置	6AV2128-3UB06-0AX0	6AV2128-3UB36-0AX0
		6AV2128-3UB06-0AX1	6AV2128-3UB36-0AX1
MTP2200 Unified Comfort	22 インチ装置	6AV2128-3XB06-0AX0	6AV2128-3XB36-0AX0
		6AV2128-3XB06-0AX1	6AV2128-3XB36-0AX1

<p>通知</p> <p>マニュアルは HMI デバイスの一部</p> <p>このマニュアルは HMI デバイスの一部で、コミッショニングにも必要になります。HMI デバイスの全耐用年数を通じて、供与された文書および補足文書を全て保管してください。</p> <p>HMI デバイスの次の所有者に全ての保管文書をお渡ししてください。</p>
--

商標

商標記号®のついた以下の名称は、すべて Siemens AG の登録商標です。

- HMI®
- SIMATIC®
- WinCC®

スタイルの表記規則

テキスト説明	例	意味
角括弧に挟まれているテキスト: [テキスト]	[画面の追加]	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザーインターフェースに表示される用語。たとえば、ダイアログ名、タブ、ボタン、メニューコマンドなどが挙げられます。 • 限界値、タグ値などの必要な入力。 • パス情報
角括弧に挟まれているテキストで、>の記号で区切られているもの: [テキスト]>[テキスト]:	[ファイル]>[編集]	操作シーケンスです。たとえば、メニューコマンドやショートカットメニューコマンドが挙げられます。
アングルブラケットに挟まれているテキスト: <テキスト>	<F1>、<Alt+P> <ip>、<date>、<time>	キーボード操作 URL、パス情報、フォルダ名、ファイル名のタグ値、またはユーザーインターフェースのラベル値

以下のような注が記載されている場合には、その注に従ってください:

注記

注には、マニュアルに記載された製品とその使用に関する重要情報、あるいは特別な注意を払う必要があるマニュアルの特定のセクションが含まれます。

ネーミングの表記規則

本書には、以下のネーミングの表記規則を使用します。

用語	適用対象
プラント	<ul style="list-style-type: none"> システム 複合作業機械 1台以上の機械
Comfort HMI デバイス、 HMI デバイス、 装置	<ul style="list-style-type: none"> MTP700 Unified Comfort MTP1000 Unified Comfort MTP1200 Unified Comfort MTP1500 Unified Comfort MTP1900 Unified Comfort MTP2200 Unified Comfort
WinCC	SIMATIC WinCC Unified V18 以上

完全な製品名の代わりに、接尾辞「Unified Comfort」の無い短縮した製品名も使用されます。たとえば、

「MTP700」は、「MTP700 Unified Comfort」を表しています

図

このマニュアルには記載されているデバイスの図が含まれています。図は、納入されたデバイスの詳細部分と異なることがあります。

画像の要素には、次のような白い背景に黒い位置番号が付いています：

①、②、③、...

図の手順は、実行する順番に従って黒い背景に白いプロセス番号で識別されます：

①, ②, ③, ...

目次

まえがき	3
1 概要	11
1.1 製品の説明	11
1.2 納品範囲	13
1.3 デバイスの設計	14
1.4 インターフェース	15
1.5 付属品	16
1.6 操作プロセスにおける HMI デバイス	18
1.7 アプリとソフトウェアのオプション	19
2 安全対策注意事項	21
2.1 一般的な安全に関する注意事項	21
2.2 HMI デバイスのセキュリティ管理	23
2.3 データ保護	24
2.4 使用についての注記事項	24
2.5 危険領域での使用	26
3 デバイスの取り付けと接続	27
3.1 設置準備	27
3.1.1 納品の確認	27
3.1.2 動作状況の確認	27
3.1.3 許容取り付け位置	28
3.1.4 クリアランスの確認	30
3.1.5 取り付けカットアウトの準備	31
3.2 装置の取り付け	32
3.2.1 設置に関する注意事項	32
3.2.2 取り付けクリップの位置	33
3.2.3 取り付けクリップを使用した内蔵デバイスの固定	35
3.3 ストレインリリーフの取り付け	36
3.4 デバイスの接続	38
3.4.1 接続に関する注意	38
3.4.2 等電位ボンディング	40
3.4.3 電源の接続	42
3.4.4 設定 PC の接続	44
3.4.5 コントローラの接続	45
3.4.6 USB デバイスの接続	47
3.4.7 プリンタの接続	49
3.4.8 装置の電源投入、テストおよび電源オフ	50
3.4.9 ケーブルの固定	51
3.4.10 危険領域で使用するケーブルの固定	53
3.5 デバイスの削除	54

4	デバイスの操作	55
4.1	オペレータ入力オプション	55
4.2	タッチスクリーンに関する注意事項	55
4.3	サポートされるジェスチャー	58
4.3.1	[コントロールパネル]でサポートされるジェスチャー	58
4.3.2	ランタイムプロジェクトでサポートされるジェスチャー	58
4.4	スクリーンキーボードの使用	61
4.4.1	画面キーボード	61
4.4.2	スクリーンキーボードのコントロールキー	64
4.5	タスクバーの使用	65
4.6	HMI デバイスのコミッショニング	66
4.7	メモリコンセプトおよびメモリカード	67
4.7.1	メモリコンセプト	67
4.7.2	メモリカードの交換	70
4.8	HMI デバイスへの Web アクセス	71
4.9	操作に関する注意	76
5	[コントロールパネル]の操作	77
5.1	設定を開く	77
5.2	機能の概要	79
5.3	System Properties.....	81
5.3.1	Panel information.....	81
5.3.2	Display	82
5.3.3	Screensaver.....	83
5.3.4	Update OS.....	83
5.3.5	Reboot	86
5.3.6	Performance	88
5.3.7	Taskbar	89
5.3.8	Event Logger.....	89
5.4	Runtime Properties.....	91
5.4.1	Project information	91
5.4.2	Automatic runtime start	91
5.4.3	Alarm buffer.....	92
5.4.4	Web client.....	93
5.4.5	Load project from storage	94
5.5	Network and Internet	97
5.5.1	Network settings	97
5.5.1.1	概要	97
5.5.1.2	PN-X1.....	97
5.5.1.3	PN-X2.....	99
5.5.1.4	General.....	101
5.5.2	Remote connection	101
5.5.3	Network drive	103

5.6	Security	107
5.6.1	User management	107
5.6.2	Certificates	115
5.6.3	Control panel access	119
5.6.4	UMAC settings	120
5.7	External Devices and Input	122
5.7.1	Hardware interfaces	122
5.8	Language, Region and Formats	123
5.8.1	Date and time	123
5.9	Service and Commissioning	125
5.9.1	Transfer	125
5.9.2	Update OS	125
5.9.3	Backup	128
5.9.4	Automatic backup	130
5.9.5	Restore	134
5.9.6	Trace forwarder	136
5.10	Apps	137
5.10.1	SIMATIC Apps	138
5.10.2	Add-ons	140
5.10.3	App Management	144
6	データの転送	145
6.1	概要	145
6.2	操作モード	146
6.3	既存プロジェクトの使用	147
6.4	データ送信オプション	147
6.5	PG/PC インターフェースの設定	148
6.6	WinCC を使用したプロジェクトの転送	149
6.7	バックアップと復元	152
6.8	オペレーティングシステムの更新	155
6.8.1	概要および重要な注意事項	155
6.8.2	WinCC によるオペレーティングシステムの更新	156
6.8.3	ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット	158
7	装置の保守と修理	161
7.1	保守とサービスに関する一般情報	161
7.2	HMI デバイスの前面ガラスをきれいにします。	161
7.3	メンテナンスモードの使用	162
7.4	スペアパーツと修理	164
7.5	リサイクルと廃棄処分	164

8	技術情報	165
8.1	ソフトウェア使用許諾契約.....	165
8.2	ラベル、認証、および承認.....	165
8.3	電磁環境適合性.....	171
8.4	機械的環境条件.....	173
8.4.1	保管条件.....	173
8.4.2	動作条件.....	173
8.5	周囲の気候条件.....	173
8.5.1	長期保管.....	173
8.5.2	輸送および短期保管.....	174
8.5.3	動作条件.....	174
8.5.4	天候図.....	175
8.6	絶縁テスト、保護クラス、および保護等級に関する情報.....	175
8.7	寸法図.....	176
8.7.1	MTP700 Unified Comfort の寸法図.....	176
8.7.2	MTP1000 Unified Comfort の寸法図.....	177
8.7.3	MTP1200 Unified Comfort の寸法図.....	178
8.7.4	MTP1500 Unified Comfort の寸法図.....	179
8.7.5	MTP1900 Unified Comfort の寸法図.....	180
8.7.6	MTP2200 Unified Comfort の寸法図.....	181
8.8	技術仕様.....	182
8.8.1	MTP700、MTP1000、MTP1200 Unified Comfort.....	182
8.8.2	MTP1500、MTP1900、MTP2200 Unified Comfort.....	184
8.9	インターフェースの説明.....	186
8.9.1	DC24V X80.....	186
8.9.2	RS422/485 X20.....	186
8.9.3	PROFINET (LAN) X1.....	187
8.9.4	PROFINET (LAN) X2.....	187
8.9.5	USB X61/X62/X63/X64.....	188
8.10	コントローラによる通信.....	188
8.11	WinCC との機能範囲.....	190
A	技術サポート	195
A.1	サービスおよびサポート.....	195
A.2	トラブルシューティング.....	196
A.3	適用例と FAQ.....	196
A.4	システムアラーム.....	197
A.5	製造元に関する情報.....	197
B	マークおよびシンボル	199
B.1	安全関連シンボル.....	199
C	略語	201
	用語集.....	203

概要

1.1 製品の説明

SIMATIC HMI Unified コンフォートパネルは、お客様の革新的な操作コンセプトを実装するのに必要な自由度とオプションをすべて提供します。

性能が著しく向上するのに加え、ユーザーは、SIMATIC WinCC Unified 視覚化ソフトウェアによるパネルの新たな機能、および内蔵された Industrial Edge 機能によるアプリの拡張機能によるメリットを享受できます。

7~22 インチのすべてのデバイスの前面には、産業レベルのマルチタッチガラスが装備され、非常に高品質なディスプレイによりスムーズな操作が実現されます。

以下は最も重要なメリットの一覧です。

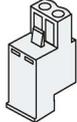
- ディスプレイの視認性の向上、鮮やかな色調および高い輝度に、マルチタッチ技術の著しく向上した耐久性が組み合わせられ、最高の使いやすさを実現。
- 7~22 インチのすべてのデバイスに機能を統合。
- ハードウェアの性能が改善し、システム限度が向上したため、パネルベースシステムを基にした以前よりもはるかに大きなアプリケーションに対応。高レベルな IT セキュリティにより、専有のオペレーティングシステムを通してハッカーの攻撃からシステムを保護。
- Industrial Edge 機能を搭載したことにより、アプリを通して標準機能を簡単に拡張できるため、プロジェクト固有の要件を迅速かつ容易に実装。
- SIMATIC WinCC Unified に基づく視覚化、TIA Portal の新たな Web ベースの視覚化システムにより、機械レベルのアプリケーションから分散型 SCADA ソリューションまで、スケーラブルなソリューションを提供。
- すべてのデバイスは、Siemens ロゴ入りの標準デザインと Siemens ロゴなしのニュートラルデザインで提供可能。

Unified コンフォートパネルの特徴

筐体	頑丈なアルミニウム製ダイキャスト筐体
取り付けフォーマット	横および縦フォーマットでの取り付けおよび操作 ユーザーインターフェースの設定中に、それぞれのフォーマットを選択しなければなりません。画面方向は、HMI デバイスのコントロールパネルでも変更する必要があります。
インターフェース	PROFINET 基本サービスをサポートする 2 つの PROFINET インターフェース: <ul style="list-style-type: none"> • 2 つのポートを備えた PROFINET インターフェース x 1 • 1 つのポートを備えたギガビット PROFINET インターフェース x 2 USB インターフェース USB 3.1 Gen 1 (タイプ A) x 4 RS422/485 インターフェース x 1
ディスプレイ	1600 万色のワイドスクリーンフォーマットの高解像度 TFT ディスプレイ ワイドな表示角度 10~100%で明暗調整可能。
操作	容量性マルチタッチスクリーン
ソフトウェア	インターネットページ表示用の Web ブラウザ PDF ドキュメントのビューワー Word および Excel ドキュメントおよびその他の形式のエディター ファイルマネージャー Media Player ログインおよびスクリプトの機能、SIMATIC コントローラのシステム診断、トレンド(f(x), f(t))の表示などを備えたランタイムソフトウェア。
データの記憶	メモリーカード用スロット x 2 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザーデータ保存用の「データメモリーカード」 x 1 推奨事項:32 GB 以上の容量の SIMATIC SD memory card を使用します。 • サービスのイベントで単純化した再コミッショニングのサービスコンセプトを使用するため「システムメモリーカードスロット」 x 1 プロジェクトのデータおよびデバイスの設定は、システムメモリーカードで連続的に更新されます。32 GB 以上の容量の SIMATIC SD memory card を使用します。
コントローラ	SIMATIC コントローラのシステム診断は、HMI デバイスから読み取り可能であり、追加のプログラミング用デバイスは不要です。

1.2 納品範囲

HMI デバイスの納品範囲には、以下のコンポーネントが含まれています。

名称	☒	数量	
HMI デバイス		1	
インストール説明書 (クイックインストール ガイド)		1	
電源コネクタ		1	
紛失不能なクリップス チールの装着		8	MTP700
		12	MTP1000、MTP1200 MTP1500、MTP1900 MTP2200
ストレインリリーフエ レメント	ストレインリリーフ	1	MTP700 MTP1000 MTP1200
	プラスチック製ストレインリリー フエレメント	3	MTP700 MTP1000 MTP1200
	ストレインリリーフ	1	MTP1500 MTP1900 MTP2200

1.3 デバイスの設計

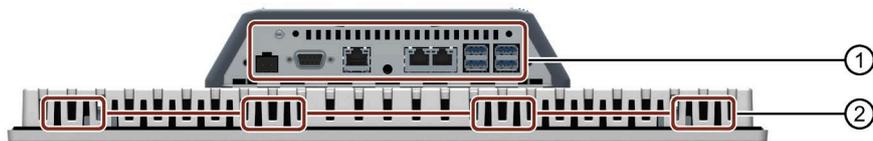
このセクションでは、Siemens のロゴ付きの MTP1900 Unified Comfort を例として使用し、Unified コンフォートパネルの設計について説明します。その他の Unified コンフォートパネルは、前面のサイズが異なりますが、インターフェースはどの Unified コンフォートパネルでも同じです。

正面図と側面図



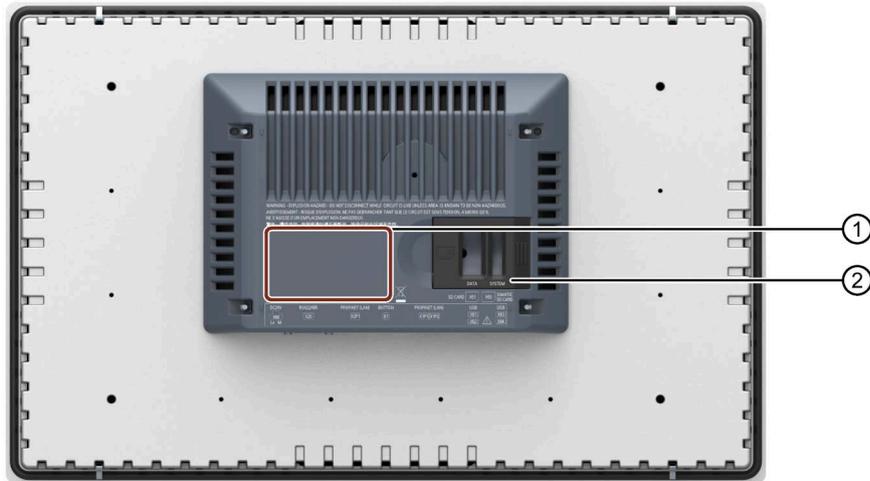
- ① ディスプレイと容量性マルチタッチスクリーン
- ② 取り付けクリップ用凹部
- ③ 取り付けシール

底面図



- ① インターフェース、詳細な説明 (ページ 15)
- ② 取り付けクリップ用凹部

背面図

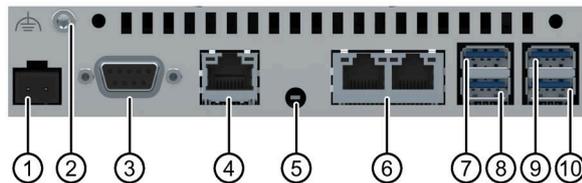


- ① 銘板の位置
- ② SD メモリーカードスロットカバーの安全ロック
 - X51:データメモリーカード用スロット、左
 - X50:システムメモリーカード用スロット、右

詳細な説明については、「メモリコンセプトおよびメモリーカード (ページ 67)」の章を参照してください。

1.4 インターフェース

以下の図は、15 インチ型ディスプレイを備えたデバイスのインターフェースプレート为例にして、Unified コンフォートパネルのインターフェースについて示しています。



- | | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| ① X80 電源コネクタ | ⑥ X1 PROFINET (LAN)、10/100 M ビット |
| ② 機能接地用接続 | ⑦ X61 USB |
| ③ X20 RS422/485 (SUB-D) | ⑧ X62 USB |
| ④ X2 PROFINET (LAN)、10/100/1000 Mb | ⑨ X63 USB |
| ⑤ B1 ボタン[メンテナンス] | ⑩ X64 USB |

12 インチ型以上のディスプレイを備えた装置では、[メンテナンス]ボタンの上にストレーンリリーフプレート固定用のネジ穴がもう 1 つあります。

下記も参照

インターフェースの説明 (ページ 186)

1.5 付属品

必要な付属品を備えた付属品キットが HMI デバイスに付属しています。

注記

このセクションは、HMI デバイスに適した付属品の選択について説明します。インターネット (<https://mall.industry.siemens.com/mall/en/WW/Catalog/Products/10144445>) の Industry Mall で、この選択の追加バージョン、ならびに全付属品ポートフォリオを見つけることができます。付属品の数量や技術仕様などは、Industry Mall のそれぞれの商品コードから検索できます。

付属品ポートフォリオのステータスや互換性の概要は、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/40466415>) の「クロスリスト」で確認できます。

HMI I/O コンポーネント

名称	商品コード
サードパーティ製のコントローラを接続するための RS 422 ~ RS 232 コンバータ	6AV6671-8XE00-....
RS422/RS485 インターフェース用 90°ブラケットアダプタ	6AV6671-8XD00-....
HMI デバイスの電源プラグ、2 ピン、ねじの技術	6AV6671-8XA00-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

保護フィルム

名称	商品コード
MTP700 Unified Comfort 用 7 インチの前面保護フィルム	6AV6881-0GJ22-....
MTP1000 Unified Comfort 用 10 インチの前面保護フィルム	6AV6881-0KJ22-....
MTP1200 Unified Comfort 用 12 インチの前面保護フィルム	6AV6881-0MJ22-....
MTP1500 Unified Comfort 用 15 インチの前面保護フィルム	6AV6881-0QJ22-....
MTP1900 Unified Comfort 用 19 インチの前面保護フィルム	6AV6881-0UJ22-....
MTP2200 Unified Comfort 用 22 インチの前面保護フィルム	6AV6881-0VJ22-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

記憶媒体

以下の HMI デバイス用の記憶媒体のみを使用してください。

名称	商品コード
SIMATIC SD memory card	6AV6881-0AP40-....
SIMATIC HMI USB スティック	6AV6881-0AS42-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

「メモリコンセプト (ページ 67)」のセクションのメモリメディアの使用についての注意事項をお読みください。

ファスナー

名称	商品コード
スチール製取り付けクリップのセット	6AV6881-6AD10-....
メモリカードインターロック	6AV2181-4XM00-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

アダプタフレーム

名称	商品コード
アダプタフレームワイドスクリーン 15"	6AV6881-6QD41-....
アダプタフレームワイドスクリーン 19"	6AV6881-6UD41-....
アダプタフレームワイドスクリーン 22"	6AV6881-6VD41-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

入力ヘルプ

名称	商品コード
タッチペンシステム ELO と V2A	6AV6881-0AV2.-....

「....」は、商品コードの変数キーを表します。

リーダー

名称	商品コード	
RFID リーダーSIMATIC RF1040R (USB 接続ケーブル付き)	6GT2831-6CA50	
RFID リーダーSIMATIC RF1060R (USB 接続ケーブル付き)	6GT2831-6AA50	
RFID リーダーSIMATIC RF1070R (USB 接続ケーブル付き)	6GT2831-6BA50	
モバイルハンドヘルドリーダー(「バーコード スキャナー」)	SIMATIC MV320	6GF3320-0HT01
	SIMATIC MV340	6GF3340-0HT01

追加の USB の付属品

追加の USB の付属品は、インターネットの次のエントリで参照できます。

FAQ 19188460 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/19188460>)

その他の付属品

SIMATIC HMI デバイスの追加の付属品は、インターネットの次のリンクで参照できます。

付属品 (<https://mall.industry.siemens.com/mall/en/WW/Catalog/Products/10144445>)

1.6 操作プロセスにおける HMI デバイス

HMI デバイスは、技術的プロセスの一部です。HMI デバイスを操作プロセスへ統合する方法で、以下の 2 つのフェーズが重要です。

- 設定
- プロセス管理

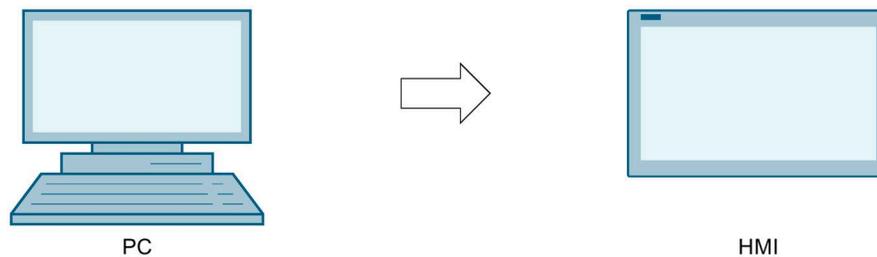
設定

設定フェーズ中に、WinCC を搭載する設定 PC に対する技術的プロセスを操作および監視するユーザーインターフェースを作成します。プロジェクト設計は、次で構成されています。

- プロジェクトデータの作成
- プロジェクトデータの保存
- プロジェクトデータの検証
- プロジェクトデータのシミュレーション

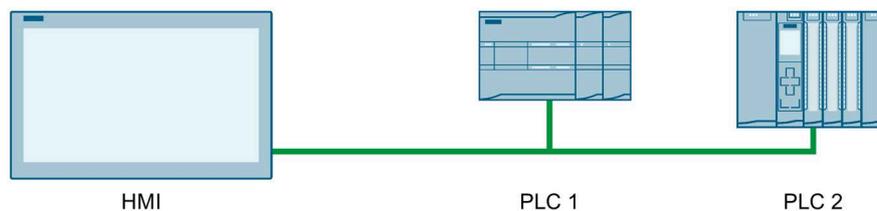
転送

設定のコンパイル後、プロジェクトを HMI デバイ스에ダウンロードします。



プロセス管理

プロセス管理は、HMI デバイスとコントローラ間の双方向通信として表されます。



次に、HMI デバイスを使用してプロセスを操作および監視します。

1.7 アプリとソフトウェアのオプション

SIMATIC Apps

「SIMATIC Apps」の下に、Siemens が HMI デバイス用に特別に開発したアプリがあります。

SIMATIC アプリ	説明
SIMATIC Edge	「SIMATIC Edge」を使って、HMI デバイスでローカルエッジ管理 Web ページを起動します。

Add-ons

「Add-ons」の下には、Siemens が開発したものではないアプリが表示されます。以下のアプリは、HMI デバイスにライセンスフリーで事前にインストールされています。

アプリ	説明
Doc Viewer	「Doc Viewer」では、テキストや Word ファイルなどのドキュメントを表示および編集できます。
E-Mail Client	「E-Mail Client」では、電子メールアカウントを接続して電子メールを送受信したり、別のアプリからメールファイルをインポートすることができます。
File Browser	「File Browser」では、HMI デバイスでファイルの表示および管理が可能です。
Media Player	「Media Player」を使用して音声と動画ファイルを再生できます。
PDF Viewer	「PDF Viewer」を使用して PDF ドキュメントを表示できます。
Printer Configuration	「Printer Configuration」では、事前にインストールしたプリンタの表示および管理が可能です。
Web Browser	「Web Browser」はインターネットへのアクセスを提供します。

「SIMATIC Apps」、「Add-ons」および「App Management」に関するその他の情報は「Apps (ページ 137)」のセクションを参照してください。

ソフトウェアオプション

アプリの他にも、HMI デバイスでは、以下のソフトウェアオプションを使用できます。オプションには通常、バージョンに依存しないライセンスキーがあります。利用可能なソフトウェアオプションについては、インターネット (<https://mall.industry.siemens.com/mall/en/en/Catalog/Products/10360581>) に記載されています。

1.7 アプリとソフトウェアのオプション

安全対策注意事項

2.1 一般的な安全に関する注意事項

このデバイスは、プラントプロセスの操作とモニタリング用に、産業領域で操作するために設計されています。

デバイスのドキュメントの安全情報に加え、お使いのアプリケーションに適用される安全および事故防止指示に従ってください。

オープン型装置



警告

このデバイスは、背面オープン型装置を構成します。

このデバイスは、背面オープン型装置を構成します。つまりデバイスは、デバイスの操作を前面パネルで行う筐体またはキャビネットに統合される必要があります。この筐体またはキャビネットは、感電や火災から保護されている必要があります。この筐体またはキャビネットは、関連する用途において、機械的強度および保護等級の要件を満たす必要があります。

本デバイスが設置されている筐体あるいはキャビネットには、キーまたはツールを使ってのみアクセスすることができ、資格を有する作業員だけがアクセスすることができるようにしてください。



警告

制御キャビネットが開いている場合の感電死のリスク

制御キャビネットを開くと、特定のエリアやコンポーネントに危険な電圧が存在します。

こうしたエリアやコンポーネントに触れると、感電死する恐れがあります。

必ず開く前にキャビネットと主電源を外してください。プラントの動作中に、プラントのコンポーネントを着脱しないでください。

プラントまたはシステムの安全

通知

安全は組立担当者の責任です

プラントまたはシステムの安全機能を機器に導入することは、プラントまたはシステムの組立担当者の責任です。

2.1 一般的な安全に関する注意事項

ESD



静電気に敏感なデバイスには、電子コンポーネントが搭載されています。構造的な理由で、電子コンポーネントは過電圧に対してだけでなく、静電放電に対して敏感です。ESD に対処するときは、対応する規定を順守してください。

Industrial Security

シーメンスは、セキュアな環境下でのプラント、システム、機械およびネットワークの運転をサポートする産業用セキュリティ機能を有する製品およびソリューションを提供します。

プラント、システム、機械およびネットワークをサイバー脅威から守るためには、総体的かつ最新の産業用セキュリティコンセプトを実装し、それを継続的に維持することが必要です。シーメンスの製品とソリューションは、そのようなコンセプトの 1 要素を形成します。

お客様は、プラント、システム、機械およびネットワークへの不正アクセスを防止する責任があります。システム、機械およびコンポーネントは、企業内ネットワークのみに接続するか、必要な範囲内かつ適切なセキュリティ対策を講じている場合にのみ(例：ファイアウォールやネットワークセグメンテーションの使用など)インターネットに接続することとするべきとシーメンスは考えます。

産業用セキュリティ対策に関する詳細な情報は、こちら
(<https://www.siemens.com/industrialsecurity>)をご覧ください。

シーメンスの製品とソリューションは、セキュリティをさらに強化するために継続的に開発されています。シーメンスは、利用可能になったらすぐ製品の更新プログラムを適用し、常に最新の製品バージョンを使用することを強くお勧めします。サポートが終了した製品バージョンを使用すること、および最新の更新プログラムを適用しないことで、お客様はサイバー脅威にさらされる危険が増大する可能性があります。

製品の更新プログラムに関する最新情報を得るには、こちら
(<https://www.siemens.com/cert>)からシーメンス産業セキュリティ RSS フィードを購読してください。

サードパーティ製ソフトウェアの更新に関する免責事項

この製品には、サードパーティ製のソフトウェアが含まれています。Siemens AG は、サードパーティ製ソフトウェアが Siemens ソフトウェアアップデートサービス契約の一部として配布されている場合または Siemens AG によって正式にリリースされている場合のみ、サードパーティ製ソフトウェアの更新/パッチに対する保証を提供します。それ以外の場合は、更新/パッチは、ユーザーご自身の責任で適用することになります。当社のソフトウェアアップデートサービス提供に関する詳細な情報は、インターネットのソフトウェアアップデートサービス
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109759444>)を参照してください。

管理者アカウントの保護に関する注意

管理者権限を持つユーザーは、システムにおける広範囲に及ぶアクセス権および変更権限を有しています。

そのため、承認なく変更が加えられるのを避けるため、管理者アカウントを保護するために適切な措置を講じる必要があります。これを行うため、安全なパスワードを使用し、通常の操作には標準のユーザーアカウントを使用するようにします。その他の措置として、必要に応じて、セキュリティポリシーなどを使用することもできます。

2.2 HMI デバイスのセキュリティ管理

データの安全性

外部ソースからのデータ

HMI デバイスには外部のインターフェースがあり、インターネットに接続できます。エッジ管理では、あらゆるソースからアプリをインストールすることが可能です。

信頼できないソースからのデータには、大きなセキュリティ上のリスクが伴います。

お客様は、信頼できるソースからのデータのみを HMI デバイスに転送すること、および HMI デバイスでは信頼されたファイルおよび Web ページのみを開くことに責任があります。

パスワードの入力

外部のキーボードを使ってパスワードを入力する場合、キーロガーにより知らずにパスワードが記録され、転送される場合があります。

パスワードの入力には、HMI デバイスのスクリーン上のキーボードのみを使用してください。

外部データストレージメディアへのデータのバックアップ

HMI デバイスのデータは、外部インターフェースを使って USB または SD ストレージメディアに保存できます。

お客様は、外部ストレージメディアに保存された HMI デバイスのデータを不正なアクセスから保護する責任があります。たとえば、外部ストレージメディアに対して適切な暗号化またはパスワード保護を使用します。外部ストレージメディアは安全な場所に保管してください。

追加情報

HMI デバイスのセキュリティ管理に関する詳細については、インターネットの次のアドレスで参照できます：

パネルセキュリティガイドライン

<https://support.industry.siemens.com/cs/defen/view/109481300>

2.3 データ保護

2.3 データ保護

Siemens は、データ保護ガイドラインを順守しています。特に、データ最小化に関する要件を順守しています(設計によるプライバシー)。これは、この SIMATIC 製品に従うことを意味しています。この製品は、個人情報を取り扱ったり保存したりすることはなく、技術的な機能データのみを扱います(例、タイムスタンプ)。ユーザーがこのデータを他のデータに関連付ける場合(例、シフト計画)またはユーザーが個人情報を同じメディア(例、ハードディスク)に保存して、プロセスへの個人参照情報を作成する場合、ユーザーはデータ保護に関するガイドラインを順守する必要があります。

2.4 使用についての注記事項

通知
HMI デバイスは屋内使用専用として承認されています。 HMI デバイスは屋外で操作すると損傷することがあります。 HMI デバイスは屋内でのみ操作してください。

注記

通常の大気環境でのみデバイスを操作する

通常の大気条件かつ通常の空気組成でデバイスを操作すると、操作説明書に記載されているデバイスの技術的特性が保証されます。

注記

デバイスは、IEC/EN 61131 または IEC/EN 61010-2-201 に従って乾燥した環境(デバイスの背面の乾燥した環境を意味する)の SELV/PELV 回路の操作向けに設計されています。

その他の情報は「動作条件(ページ 174)」セクションを参照してください。

工業用アプリケーション

HMI デバイスは、工業用アプリケーション向けに設計されています。次の規格に準拠しています。

- 干渉放射に対する必要条件 EN IEC 61000-6-4:2019
- 妨害電波防止に対する必要条件 EN IEC 61000-6-2:2019

混合使用ゾーンでの使用

特定の条件下で、混合使用ゾーンで HMI デバイスを使用できます。混合使用ゾーンは、住居地域への大きな影響を与えないハウジングおよび実機オペレーションに使用されます。

HMI デバイスを混合使用ゾーンで使用する場合、無線周波数妨害電波の放射に関する汎用規格 EN 61000-6-3 の制限事項を順守していることを確認する必要があります。混合

使用ゾーンでの使用のためにこれらの制限を満たすための適切な措置には、次が含まれます。

- 接地された制御キャビネットに HMI デバイスを取り付ける
- 電源ラインにフィルタを使用

個別の承認が必要です。

住宅地域内での使用

注記

HMI デバイスは、住宅地域での使用には適しません

HMI デバイスは、住宅地域での使用には適しません。HMI デバイスを住宅地域で使用すると、ラジオや TV の受信に悪影響を及ぼす恐れがあります。

追加対策を施した使用

以下の場所では、追加の対策なしで HMI デバイスを使用することはできません。

- 電離放射線の放射程度が高い場所
- たとえば以下の原因などで、使用条件が過酷な場所
 - 腐食性蒸気、ガス、油、または化学薬品
 - 高強度の強力な電界または磁界
- 以下のような特殊なモニタリングが必要な場所:
 - エレベータ
 - 危険の高い区域

TFT ディスプレイ

通知

バーンイン効果

2 色またはマルチカラーの画像が永久的に表示されると、バーンイン効果が生じ、画像が特定時間薄暗く表示される場合があります。画像のバーンインが長いほど、画像が長く表示されます。極端な場合は、画像が永久的に表示されます。

通常、スクリーンの電源をしばらく切った状態にすると、画像の輪郭は自然に消えます。バックライトがオンのときにアクティブブラックを使用するスクリーンセイバーは、このバーンイン効果を軽減します。

注記

バックライト

動作期間中に、バックライトの明るさは段階的に暗くなっていきます。次の対策を講じることにより、ディスプレイおよびバックライトの寿命を延長することができます。

- バックライト (ページ 82) を減らします。
- バックライトの動作時間を順守します。「技術仕様 (ページ 182)」のセクションを参照してください。

2.5 危険領域での使用

次の警告は、危険領域での Ex 承認のデバイス进行操作する場合に適用されます。

 警告
<p>爆発する可能性のある環境でコネクタをつなげたり、外したりしないでください。</p> <p>動作中にプラグインコネクタを着脱すると、フラッシュオーバーのリスクがあります。フラッシュオーバーは、危険区域で爆発を発生させ、死亡または重度のけがにつながる恐れがあります。</p> <p>24 V DC の電源コネクタ、またはたとえメモリカードでも、危険領域でプラグインコネクタを着脱することは、禁止されています。</p> <p>次の 2 つの要件のいずれかが満たされるまで、コネクタやメモリカードを着脱しないでください。領域が危険でなくなった場合、あるいはデバイスとそのプラグイン接続の電源が断たれている場合。</p> <p>デバイスの電源を切るには、開いているすべてのアプリまたは実行中のプロジェクトを閉じ、デバイスの電源をオフにします。</p>

UL 認証の範囲内での HMI デバイスの使用に関する注意事項:

 警告
<p>Explosion Hazard</p> <p>Do not disconnect while circuit is live unless area is known to be non-hazardous. Substitution of components may impair suitability for Class I, Division 2 or Zone 2.</p> <p>Risque d'Explosion</p> <p>Ne pas déconnecter pendant que le circuit est sous tension, sauf si la zone est non-dangereuse. Le remplacement de composants peut compromettre leur capacité à satisfaire à la Classe I, Division 2 ou Zone 2.</p>

また、爆発の危険がある区域での使用に関する付属のマニュアル、および「ラベル、認証、および承認 (ページ 165)」のセクションにある Ex 承認の情報を順守してください。

デバイスの取り付けと接続

3.1 設置準備

3.1.1 納品の確認

梱包内容をチェックして、輸送による損傷がないか外観検査し、付属品がすべて揃っていることを確認します。

注記

破損部品

破損部品は、HMI デバイ스에誤動作を発生します。

輸送中に損傷を受けた部品は、取り付けしないでください。部品が損傷を受けている場合には、担当の Siemens 代理店にご連絡ください。

HMI デバイスの納品範囲を確認してください。「納品範囲 (ページ 13)」のセクションを参照してください。

追加の文書が、納品範囲に含まれている場合があります。

その文書は、HMI デバイスの一部であり、今後コミッショニングを実行する際に必要です。同梱されているマニュアルはすべて、HMI デバイスの全製品寿命中、保持してください。HMI デバイスの次の所有者またはユーザーに、同梱の関連資料を一緒に渡す必要があります。受け取った文書の補足資料はすべて、操作説明書と一緒に保管しておく必要があります。

3.1.2 動作状況の確認

HMI デバイスの取り付け前に次の事項を順守してください。

1. HMI デバイスの操作に関する規格、承認、EMC パラメータ、技術仕様を習熟します。この情報は次のセクションで説明されています。
 - 「ラベル、認証、および承認 (ページ 165)」
 - 「電磁環境適合性 (ページ 171)」
2. HMI デバイス操作に関する機械や環境状況については、次のセクションを参照してください。
 - 「機械的環境条件 (ページ 173)」
 - 「周囲の気候条件 (ページ 173)」
3. 「使用についての注記事項 (ページ 24)」のセクションにある HMI デバイスのローカル使用に関する注意事項を順守してください。
4. 許容可能な定格電流を順守してください: +24 V DC

3.1 設置準備

3.1.3 許容取り付け位置

HMI デバイスは、以下の器具への取り付け用に設計されています。

- 取り付けキャビネット
- 制御キャビネット
- スイッチボード
- コンソール

以下の説明では、これらのすべての設置器具を、一般的に"キャビネット"と記述します。

本デバイスは、自己換気型であり、垂直から最大 $\pm 35^\circ$ の角度で傾斜取り付けすることが承認されています。

通知
過熱による損傷 傾斜取り付けを行った場合、HMI デバイスによる対流が減少するため、動作中の最大許容周囲温度も低下します。 十分な強制換気による対流があれば、傾斜取り付け位置でも、HMI デバイスは垂直取り付けの場合の最大許容周囲温度で動作できます。十分な強制換気を行わない場合は、HMI デバイスが損傷することがあり、認証および保証が無効になります。 このセクションに一覧表示されている作業温度範囲は、HMI デバイスの背面と前面に適用されます。

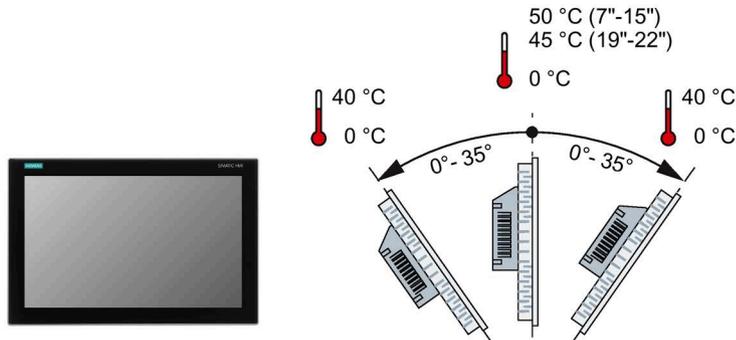
許容周囲温度に関する詳細情報は、「周囲の気候条件 (ページ 173)」セクションを参照してください。

取り付け位置

HMI デバイスは、いずれかの許可された取り付け位置を選択してください。承認された取り付け位置については、MTP1900 Unified Comfort HMI デバイスを例として使用し、以降のセクションで説明します。

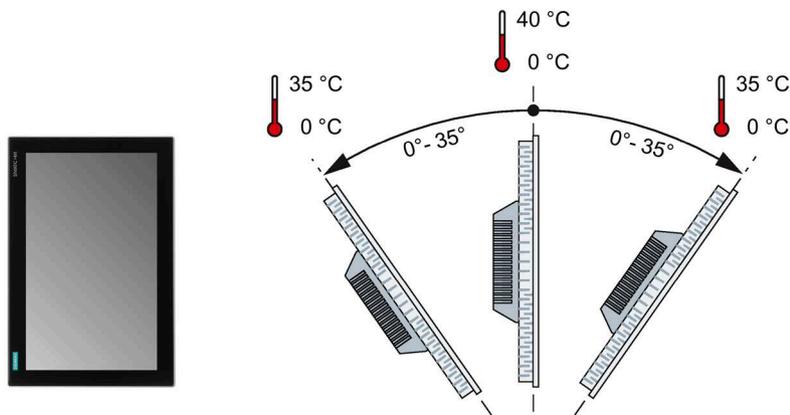
横フォーマット取り付け

Unified Comfort HMI デバイスはすべて、横フォーマットの設置に適しています。



縦フォーマット取り付け

Unified Comfort HMI デバイスはすべて、縦フォーマットの設置に適しています。設定で適切なスクリーンフォーマットを選択します。



下記も参照

天候図 (ページ 175)

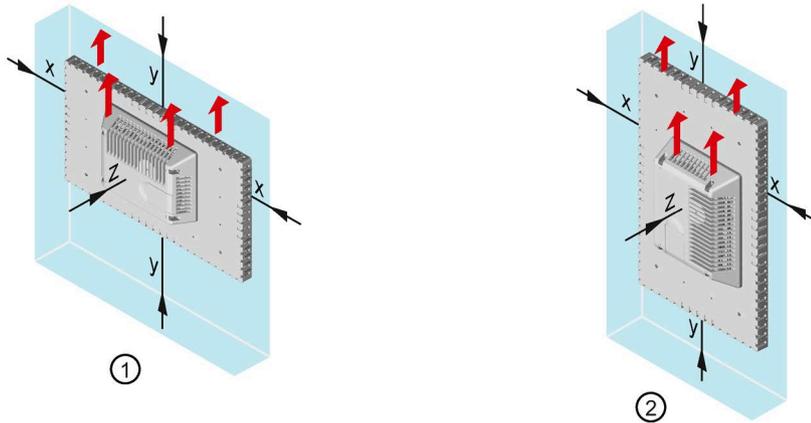
3.1 設置準備

3.1.4 クリアランスの確認

HMI デバイスの周囲に次のクリアランスがないと十分に自己換気できません。

- 取り付け時に取り付けクリップの挿入を可能にするために、取り付けカットアウトの(x 方向の)左右両方に対して少なくとも 15 mm
- 換気用に取り付けカットアウトの上に 50 mm 以上および下に 50 mm 以上(y 軸方向)
- HMI デバイスの背面パネルの裏に最低 10 mm の空間(z 軸方向)

次の図は、MTP1900 Unified Comfort を例として使用し、HMI デバイスを横フォーマットおよび縦フォーマットで取り付ける場合のクリアランスの例です。



- ① 横フォーマットの取り付けクリアランス
- ② 縦フォーマットの取り付けクリアランス
- x 15 mm 以上の距離
- y 50 mm 以上の距離
- z 10 mm 以上の距離

注記

デバイスをキャビネット、あるいは特に密閉された容器内に取り付ける場合は、最高周囲温度を超えていないことを確認してください。

3.1.5 取り付けカットアウトの準備

注記

安定した取り付けカットアウト

取り付けカットアウト周囲の素材には、HMI デバイスの持続的で安全な取り付けを保証する、十分な強度がある必要があります。

以下の保護基準値を達成するために、取り付けクリップの力またはデバイスの操作によって素材の変形が生じないように注意してください。

保護等級と設置領域

HMI デバイスの保護等級は、次の要件を満たした場合に限り保証されます。

- 保護等級 IP65 または Front face only Type 4X/Type 12 (indoor use only) で規定されている取り付けカットアウトでの素材の厚さ: 2 mm ~ 6 mm
- 取り付けカットアウト平面からの許容偏差: ≤ 0.5 mm
この条件は、取り付け HMI デバイスに対しても満たす必要があります。
- シールの領域内の許容表面粗さ: ≤ 120 μm ($R_z 120$)
- 設置領域は乾燥していて、埃や潤滑剤などによる汚染がないものとします。

他の HMI デバイスとの取り付けカットアウトの互換性

Unified Comfort HMI デバイスは、ディスプレイサイズが同一の標準の SIMATIC 産業用 PC、産業用フラットパネルおよび産業用シンクライアントの取り付けが可能です。

取り付けカットアウトの寸法が同じでも、Unified Comfort HMI デバイスの奥行きが互換性のある装置の寸法と異なる場合があることに注意してください。

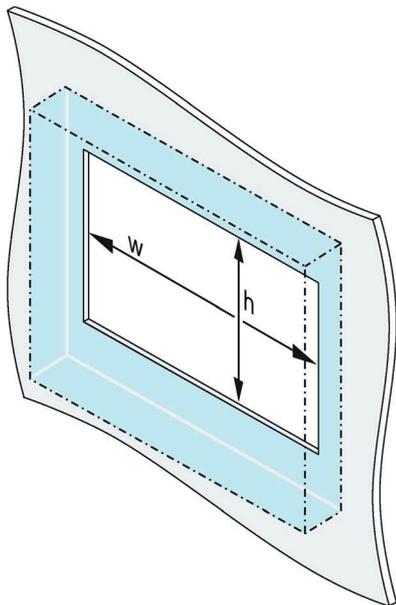
また、旧式のデバイスの設置互換性には、以下が適用されます。

HMI デバイス	互換取り付けカットアウト
MTP700 Unified Comfort	TP700 Comfort
MTP1200 Unified Comfort	TP1200 Comfort

ディスプレイサイズが 15 インチ以上の Unified Comfort HMI デバイスでは、対応するディスプレイサイズの Comfort HMI デバイスの取り付けカットアウトに取り付けるため、アダプタフレームを利用できます。「付属品 (ページ 16)」のセクションを参照してください。

3.2 装置の取り付け

取り付けカットアウトの寸法



	w_0^{+1}	h_0^{+1}
MTP700	197	141
MTP1000	264	189
MTP1200	310	221
MTP1500	382	241
MTP1900	448	278
MTP2200	513	315

幅と高さは、縦フォーマットに取り付けるときは、それに応じて逆にします。

3.2 装置の取り付け

3.2.1 設置に関する注意事項

デバイスを設置するまえに、設置位置が以下に準拠していることを確認してください。

通知
<p>IEC 61010-2-201 による使用の場合、適切な筐体が必要です。</p> <p>内蔵されたデバイスの背面は、産業制御機器での使用に関する IEC 61010-2-201 により、「Open Equipment」に分類されます。</p> <p>IEC 61010-2-201 による承認を受け、使用できるようにするには、デバイスが筐体に設置されているか、またはキャビネットに統合されている必要があります。この筐体またはキャビネットは、感電や火災から保護されている必要があります。この筐体またはキャビネットは、関連する用途において、機械的強度および保護等級の要件を満たす必要があります。</p>

- デバイスは、直射日光を避けた場所に置きます。
- オペレータが使いやすいように、デバイスの位置を決めます。適切な取り付け高さを選択します。
- 設置によって、デバイスの空気口が遮られていないことを確認します。
- 許容された取り付け位置 (ページ 28)に関する事項を順守してください。

3.2.2 取り付けクリップの位置

付属品パックの取り付けクリップ(付属品 (ページ 16)としても利用可能)を使って内蔵デバイスを固定します。

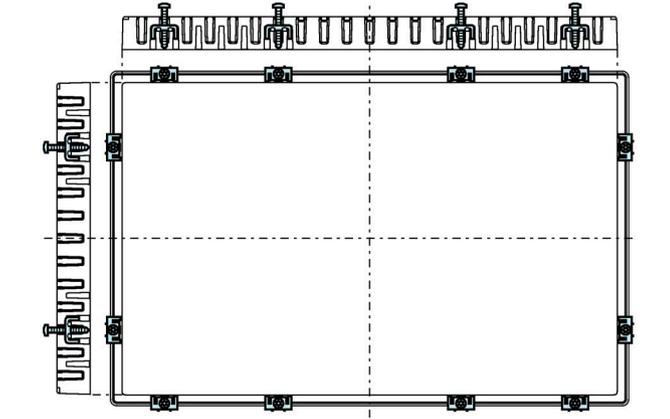
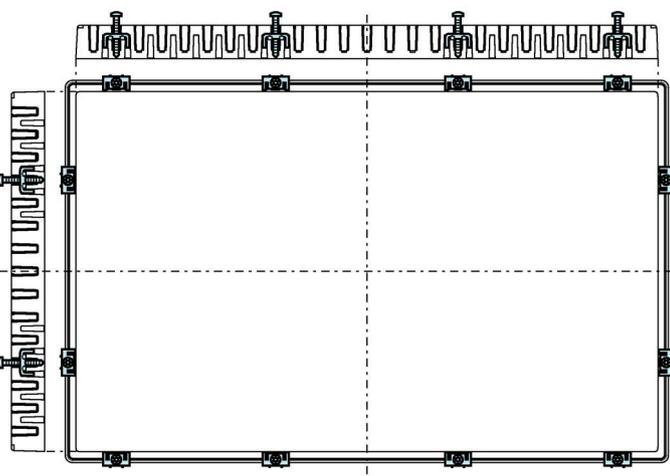
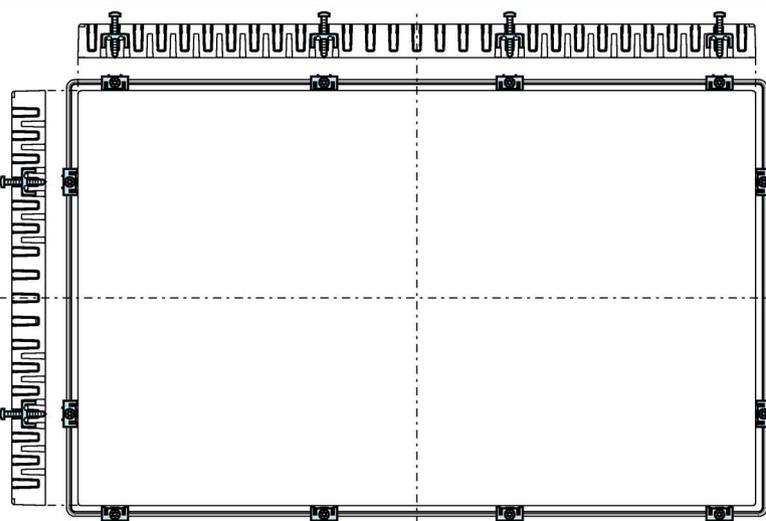


7 インチのデバイス MTP700 Unified Comfort では、取り付けクリップが 7 個、その他のデバイスは 12 個必要です。

IP65 保護等級を個々のデバイスで達成するには、下記に示す位置で、取り付けクリップを取り付ける必要があります。

装置	取り付けクリップの位置
7 インチ装置	
10 インチ装置	
12 インチ装置	

3.2 装置の取り付け

装置	取り付けクリップの位置
15 インチ装置	
19 インチ装置	
22 インチ装置	

3.2.3 取り付けクリップを使用した内蔵デバイスの固定

必要条件

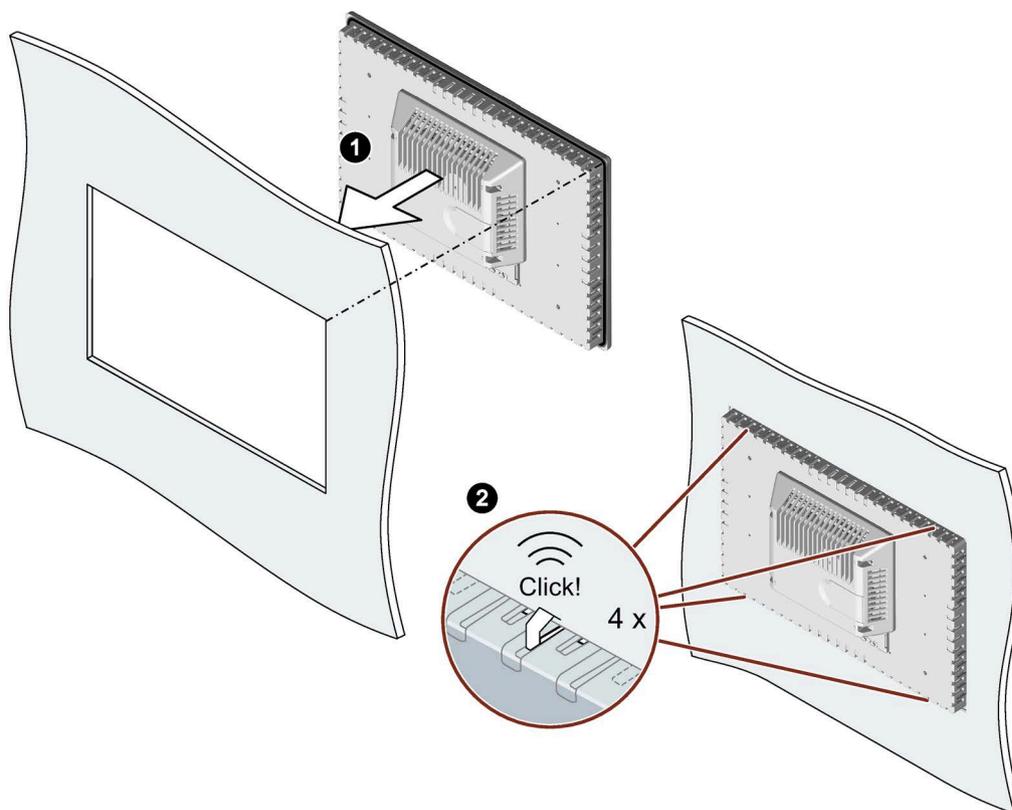
- すべての梱包用部品とカバーホイルが装置から取り外されていること。
- 次の材料とツールを利用できます。
 - 付属品キットの取り付けクリップ
 - 十字インサートサイズ2のトルクスクリュードライバー1本

手順

注記

取り付けシールが破損している場合、保護等級は保証できません。

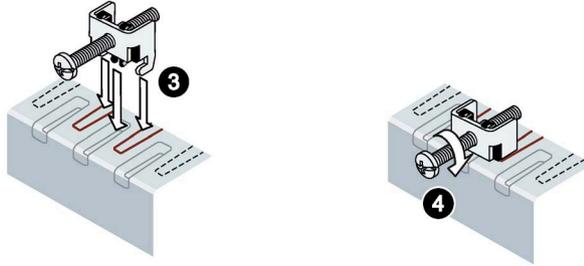
1. 正面から、取り付けカットアウトにデバイスを挿入します。



2. デバイスの上下4つのスプリングロックがすべて完全に噛み合っていることを確認します。必要に応じて、完全に噛み合っていない場合はデバイスをゆっくりと凹部に押し込みます。

3.3 ストレインリリーフの取り付け

3. 取り付けクリップを、デバイスのカットアウトに挿入します。適切な位置にあることを確認してください。「取り付けクリップの位置 (ページ 33)」のセクションを参照してください。



4. 取り付けクリップを固定するには、スクロッドライバを使用して止めネジを締め付けます(トルク 0.5 Nm)。
5. すべてのクランプが固定されるまで、すべての取り付けクランプに対してステップ 3 および 4 を繰り返します。
6. 取り付けシールの状態を確認してください。

3.3 ストレインリリーフの取り付け

デバイスの納品範囲には、必要な数の固定ねじが付いたストレインリリーフプレートが含まれています。

注記

ディスプレイサイズが 12 インチ以下のデバイスにストレインリリーフプレートが装着されている場合、ストレインリリーフプレートは、デバイスの外形寸法から突き出ます。ディスプレイサイズが 12 インチ以下のデバイスのストレインリリーフプレートは、デバイスが設置されてからネジで固定してください。

ディスプレイサイズが 15 インチ以上のデバイスのストレインリリーフプレートは、デバイスの設置前または後にかかわらずネジで固定することが可能です。

必要条件

必要なストレインリリーフプレートの取り付け:

- 納品範囲のストレインリリーフ
- 付属の固定ネジ
- T20 インサートのトルクスクロッドライバー

12 インチ以下のディスプレイを装備した HMI デバイス

付属の 2 本のネジを使って 0.8 Nm のトルクでストレインリリーフプレートをデバイスに固定します。

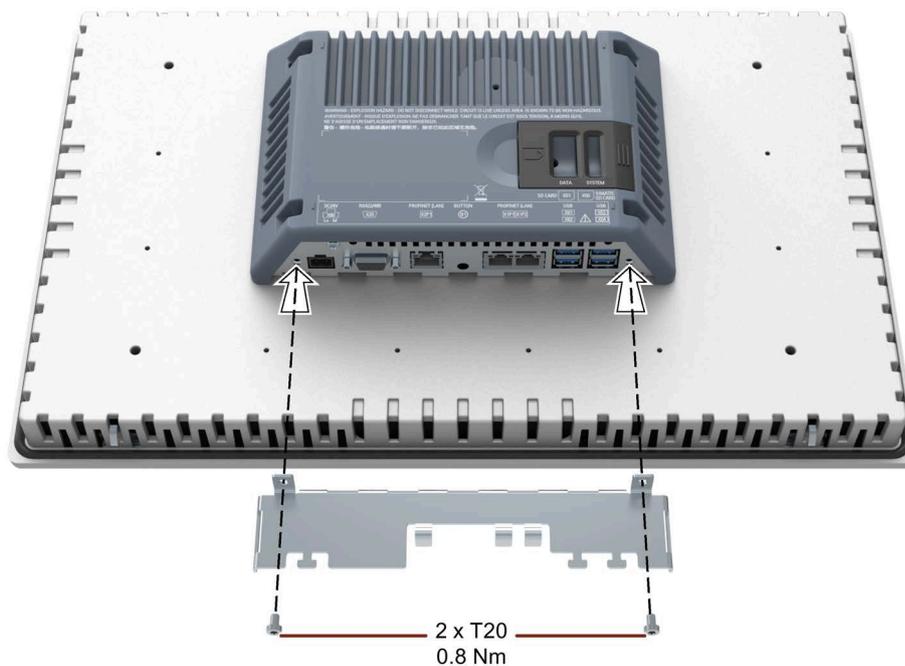
下図は、MTP700 Unified Comfort HMI デバイスを例にした設置を示しています。



15 インチ以下のディスプレイを装備した HMI デバイス

付属の 2 本のネジを使って 0.8 Nm のトルクでストレインリリーフプレートをデバイスに固定します。

下図は、MTP1900 Unified Comfort HMI デバイスを例にした設置を示しています。



3.4 デバイスの接続

3.4 デバイスの接続

3.4.1 接続に関する注意

必要条件

- HMI デバイスは、本操作説明書の記載内容に従って、取り付けなければなりません。

ケーブルの接続

シールド標準ケーブルのみをデータ接続ケーブルとして使用してください。注文情報はインターネット (<https://mall.industry.siemens.com>)で確認できます。

注記

他の電気回路から SELV/PELV 回路を分離するかケーブルを絶縁します

SELV/PELV 回路の配線は、他の非 SELV/PELV 電気回路から分離するか、すべての導体の絶縁を最も高い電圧に対応した定格にする必要があります。または、接地されたシールドまたは追加の絶縁を、IEC 60364-4-41 に準拠して、SELV/PELV 回路または他の電気回路の配線の周囲に設置する必要があります。

UL 認証の範囲内での HMI デバイスの使用に関する注意事項:

注記

Use copper cables at connectors with terminal connections

Use copper (Cu) cables for all supply lines that are connected to the device with terminals, e.g. 24 V DC power supply cables to the 24 V DC power supply connectors.

Utiliser des câbles en cuivre sur les connexions à bornes

Utilisez des câbles en cuivre (Cu) pour tous les câbles d'alimentation qui sont raccordés à l'appareil par des bornes, par exemple les câbles d'alimentation 24 V CC sur le connecteur d'alimentation 24 V CC.

接続順序

通知
<p>HMI デバイスの損傷</p> <p>接続順序に従わない場合、HMI デバイスを損傷することがあります。 以下の順序で、HMI デバイスを接続することは非常に重要です。</p>

1. 等電位ボンディング
 2. 電源
パワーアップテストを実行して、電源が適切な極性に接続されていることを確認します。
 3. コントローラ
 4. 設定 PC (必要な場合)
 5. I/O (必要ば場合)
- 上記の手順の逆順に実行して、HMI デバイスの接続を外します。

ケーブルの接続

通知
<p>地域の設置規則に従ってください</p> <p>ケーブルの接続時には、電源ケーブルの保護配線など、地域の設置規則や地域の設置条件に従ってください。</p>

通知
<p>ケーブルの熱的安定性や絶縁</p> <p>最高周囲温度より少なくとも 20 °C 高い最高許容動作温度でケーブルを使用してください。 ケーブルの絶縁は、動作電圧に適したものである必要があります。</p>

通知
<p>短絡と過負荷保護</p> <p>プラント全体の設定時には、短絡と過負荷保護に対する別の措置が必要です。構成部品のタイプと保護措置の義務レベルは、プラント設定に適用する規則により異なります。</p>

- ケーブルの接続時に、接続ピンを曲げないように注意してください。
- ねじでコネクタをソケットに固定して、ケーブルコネクタを固定します。
- すべての接続ケーブルに適切なストレインリリーフを施します。
- ポートのピン割り付けについては、技術仕様を参照してください。

3.4 デバイスの接続

3.4.2 等電位ボンディング

電位差

プラント用コンポーネントの取り付け位置が離れすぎていると、電位差が発生します。その電位差により、大きな均等化電流がデータケーブルに流れて、ポートを破壊することがあります。ケーブルのシールドが両端で接続され、別々のプラント部品で接地されている場合、均等化電流が発生することがあります。

システムを異なる電源に接続すると、電位差が発生することがあります。

等電位ボンディングの一般必要条件

電子システムの関連コンポーネントを問題なく動作させるには、等電位ボンディングを使用して、電位差を少なくする必要があります。等電位ボンディング回路を取り付ける場合は、以下を遵守してください：

- 等電位ボンディング導線のインピーダンスを小さくするか、断面積を大きくすると、等電位ボンディングの効果が高くなります。
- 2つのプラント部品をシールド付きデータケーブルで相互接続し、両端でシールドを接地/保護導線に接続した場合に、追加設置した等電位ボンディングケーブルのインピーダンスは、シールドインピーダンスの10%を超えてはいけません。
- その等電位ボンディング導線の断面積が、最大均等化電流に対応できる必要があります。最小導線断面積が16 mm²の場合、2つの制御キャビネット間に等電位ボンディングケーブルが必要です。
- 銅または亜鉛メッキ鋼製の等電位ボンディング導線を使用します。等電位ボンディング導線と接地/保護導線間の接触面を大きくし、腐食から保護します。
- 適切なケーブルクランプを使用して、HMI デバイスからのデータケーブルのシールドを、等電位ボンディング端子と同一平面になるように固定します。等電位ボンディング端子は、HMI デバイスにできるだけ近い必要があります。
- 等電位ボンディング導線とデータケーブル間の最低間隔を保って、この両者を平行に配線します。

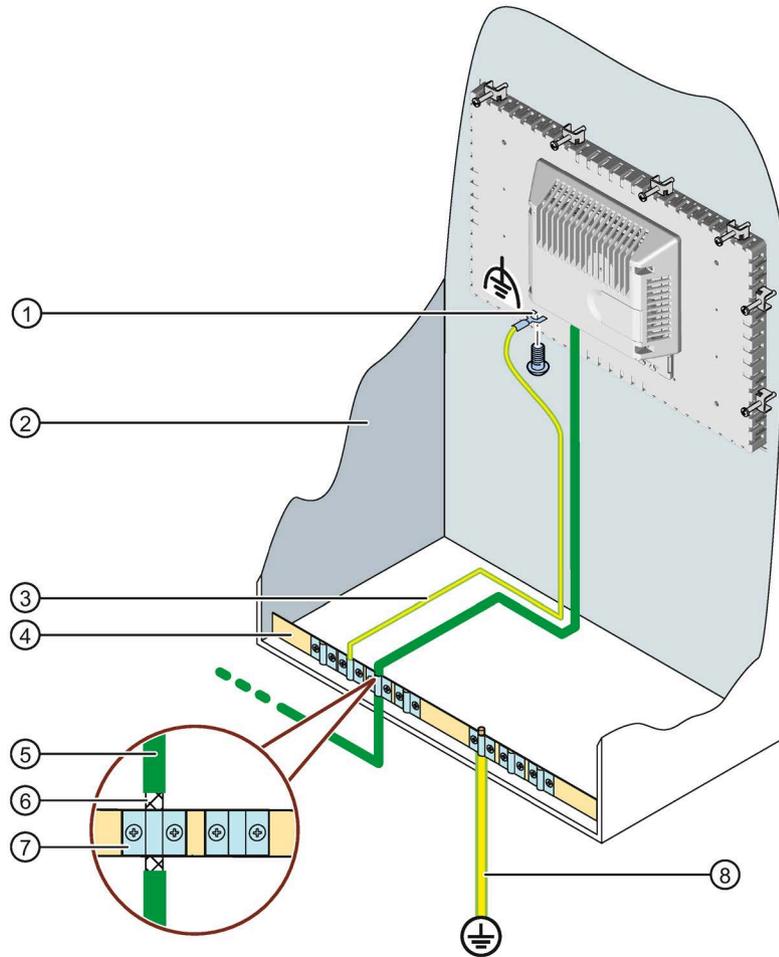
注記

等電位ボンディングケーブル

ケーブルシールドは等電位ボンディングに適していません。これには、所定の等電位ボンディング導線を必ず使用してください。制御キャビネット間の等電位ボンディング導線の断面積は、16 mm²以上である必要があります。アース棒と HMI デバイス間のケーブルの断面積は、4 mm²以上である必要があります。

配線図

次の図は、MTP1900 Unified Comfort との等電位ボンディングに対応する機能接地の接続例を示しており、他の Unified Comfort HMI デバイスに同様に適用されます。



- ① 機能接地用接続
- ② 制御キャビネット
- ③ 等電位ボンディングケーブル(4 mm²)
- ④ 等電位ボンディングケーブルの等電位ボンディング端子、接地接続、データケーブルのシールドサポート
- ⑤ PROFINET データケーブル
- ⑥ PROFINET データケーブルのシールド、等電位ボンディング端子に接続
- ⑦ ケーブルクリップ
- ⑧ アース棒(16 mm²)

3.4.3 電源の接続

通知

安全な電氣的絶縁

24 V DC 電源の場合、IEC 61010-2-201 に準拠した、安全に電気絶縁された電源装置 (SELV/PELV) だけを使用してください。

電源電圧は指定範囲内でなければなりません。そうでないと、HMI デバイスの誤動作を避けることができません。

以下は非絶縁システム設計に適用されます。24 V 電源出力からの GND 24 V 用コネクタを、等電位ボンディングへ接続して、均一な基準電位にします。端子の中央ポイントを常に選択します。

配線図

次の図は、電源とディスプレイサイズが 15 インチ以上の Unified Comfort Panel を装備した HMI デバイスの接続例を示しています。



接続時の注意事項

電源コネクタは、付属品キットに含まれています。電源コネクタは、導体断面積 1.5 mm²以下のケーブル用に設計されています。ネジのトルク:0.5~0.6 Nm。

電源コネクタの接続

通知

ソケットに損傷を与えないでください。

電源コネクタが HMI デバイスにプラグ接続された状態で、電源コネクタのネジを締めないでください。ドライバからの圧力によって、HMI デバイスソケットが破損することがあります。

電源コネクタが HMI デバイスから外されているときは、電源ケーブルを接続します。

1. 電源をオフにします。
2. 上の図のように(0.5~0.6 Nm のトルクで)、電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
3. 上の図のように、電源コネクタを HMI デバイスの対応するソケットに接続します。HMI デバイスの背面にマークされているインターフェースを使用して、ケーブルの正しい極性を確認します。

逆極性保護

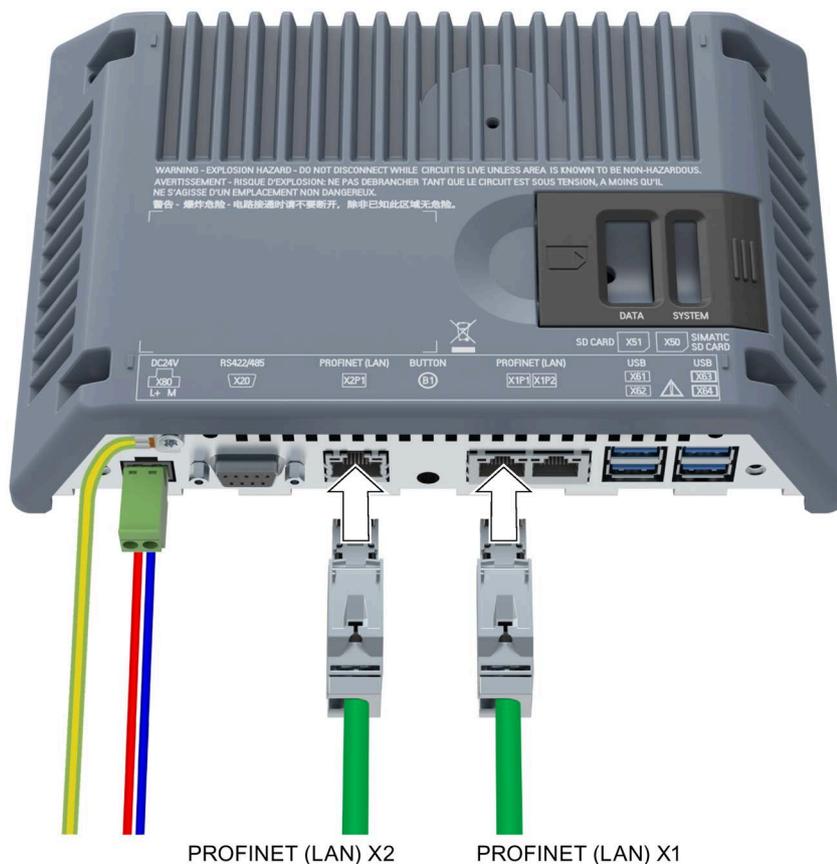
HMI デバイスは電子逆極性保護が施されていて、これにより、電源ケーブルが不適切に接続されている場合に、デバイスが損傷されるのを防ぐことができます。

3.4 デバイスの接続

3.4.4 設定 PC の接続

配線図

次の図は、HMI デバイスをディスプレイサイズが 15 インチ以上の Unified Comfort Panel を備えた設定 PC に接続する方法を示しています。



手順

以下のように実行します。

1. HMI デバイスをオフにします。
2. 設定 PC の電源スイッチを入れます。
3. HMI デバイスを X1 または X2 インターフェースで設定 PC に接続します。

注記

X2 に搭載された技術は、X1 インターフェースよりも速いデータ転送速度を実現します。

4. HMI デバイスの電源を入れます。

結果

設定 PC と HMI デバイスが接続されます。接続時に、IP アドレスを HMI デバイ스에割り付けます。

注記

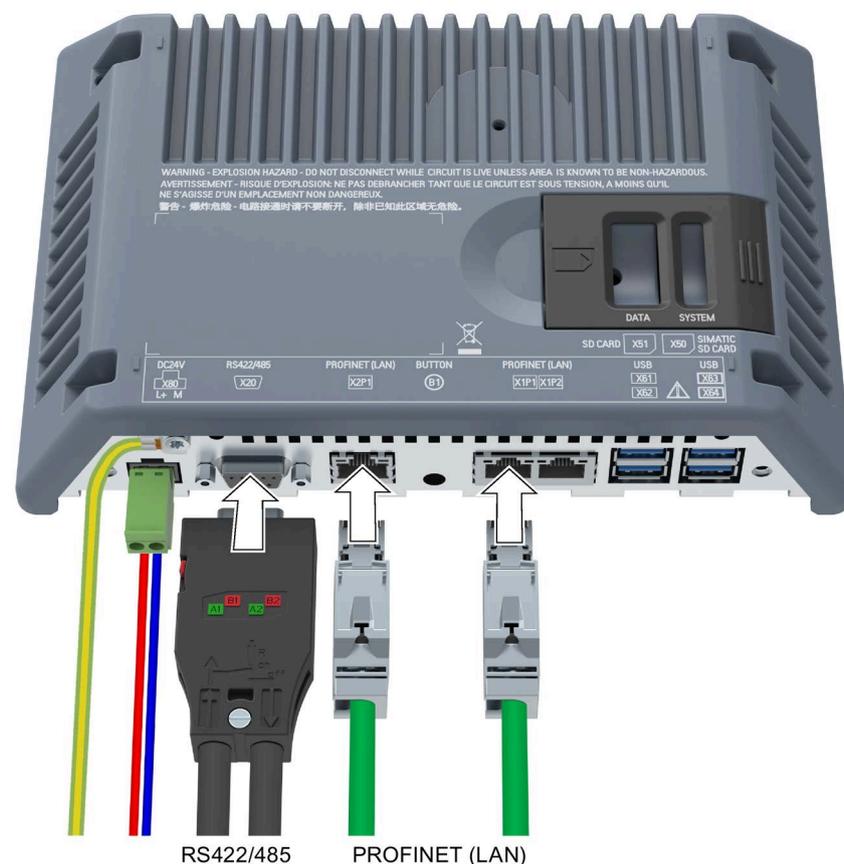
オペレーティングシステムの更新

使用可能な HMI デバイスイメージが HMI デバイ스에存在しない場合、オペレーティングシステムを更新するには、2つの PROFINET (LAN) インターフェースのいずれかにより、出荷時設定を復元する必要があります。

3.4.5 コントローラの接続

配線図

次の図は、ディスプレイサイズが 15 インチ以上の Unified Comfort Panel を例として、HMI デバイスをコントローラに接続する方法を示しています。



3.4 デバイスの接続

SIMATIC プロセス接続には、PROFINET (LAN) X1 または X2 インターフェースを使用します。シリアルインターフェースで接続されている他のメーカーのコントローラには、RS 422/485 インターフェースを使用します。互換性のあるコントローラに関するその他の情報は「コントローラによる通信 (ページ 188)」のセクションを参照してください。

注記

承認を受けたケーブルのみを使用

SIMATIC S7 コントローラの接続用に承認されていないケーブルを使用すると、誤動作が発生することがあります。

SIMATIC S7 コントローラとの接続には、認可されたケーブルを必ず使用してください。

注記

ストレート型コネクタのみを使用

可能な場合は常にストレート型ケーブルのみを使用してコントローラに接続します。湾曲したコネクタは隣接するインターフェースを覆ってしまうことがあります。

接続には、標準ケーブルを使用できます。注文情報については、Industry Mall (<https://mall.industry.siemens.com>)を参照してください。

PROFINET

注記

「PROFINET システムの説明

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/19292127>)」マニュアルに記載された、PROFINET ネットワークの設置に関する指示を順守してください。

インターフェース X1 および X2 は両方とも PROFINET 基本サービスをサポートしています。

HMI デバイスには、内部スイッチがあります。例えば外部スイッチなしで HMI デバイスでリングトポロジを設定できます。インターフェース X1 を使ってリングトポロジを設定します。

3.4.6 USB デバイスの接続

HMI デバイスの USB タイプ A インターフェースに接続できる産業レベルのデバイスの例は、以下のとおりです。

- 外部マウス
- 外部キーボード
- プリンタ
- USB スティック
- 産業用 USB Hub 4、商品コード 6AV6671-3AH00-0AX0
- モバイルハンドヘルドリーダー(「バーコードスキャナー」):
 - SIMATIC MV320、商品コード 6GF3320-0HT01
 - SIMATIC MV340、商品コード 6GF3340-0HT01
- RFID リーダー:
 - SIMATIC RF1040R、商品コード 6GT2831-6CA50
 - SIMATIC RF1060R、商品コード 6GT2831-6AA50
 - SIMATIC RF1070R、商品コード 6GT2831-6BA50

注記

USB ケーブルの最大長 1.5 m

1.5 m より長い USB ケーブルでは、安全なデータ転送が保証されません。
ケーブルの長さが 1.5 m を超えないようにする必要があります。

注記

USB インターフェースの機能障害

独自の電源のある USB デバイスを USB ポートにつなぐ場合は、外部デバイスの USB アース端子が地面につながれていることを確認してください。

注記

USB インターフェースの過剰な定格負荷

電力負荷が高すぎる USB デバイスを使用すると、機能障害の原因になることがあります。

USB インターフェースの最大負荷定格値を必ず守ってください。「技術仕様 (ページ 182)」のセクションを参照してください。

注記

データ消失の危険性

USB 記憶媒体が取り外されたときに、HMI デバイスはそのデータにアクセスしようとすると、記憶媒体のデータの読み書きが完全に行えず、また破損する場合があります。

プロセスにより、動作中に USB 記憶媒体を交換する必要がある場合、このことを考慮して、設定に適切なメカニズムを採用する必要があります。

データへのアクセス中には、USB 記憶媒体を取り外さないでください。

USB スティックのフォーマット

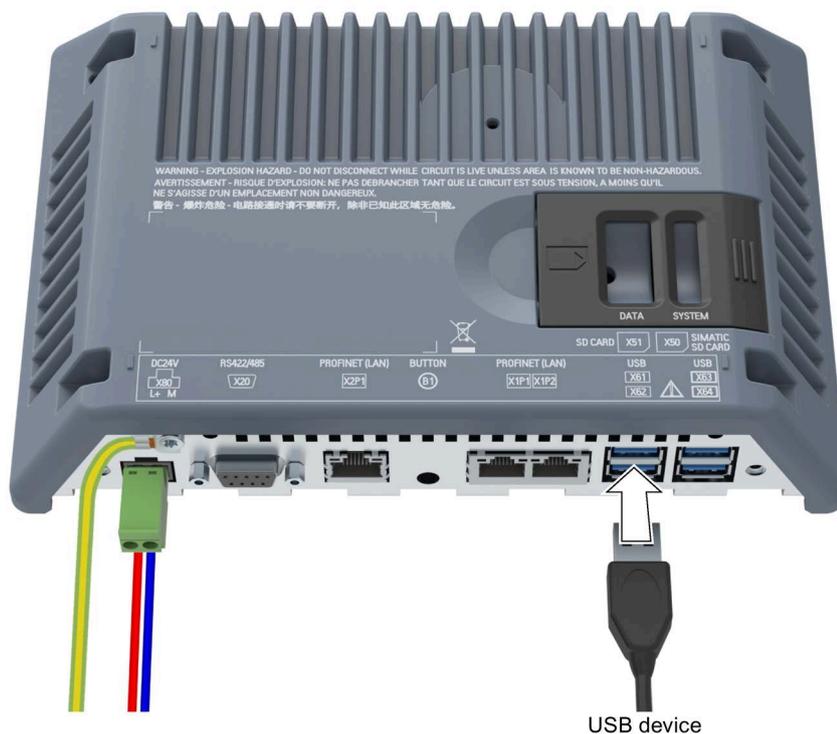
以下のファイルシステムは USB スティックに対応しています。

- NTFS
- FAT32

「NTFS」フォーマット法は、保存されたファイルのサイズに関してデータの均一性および柔軟性に優れているため推奨します。

配線図

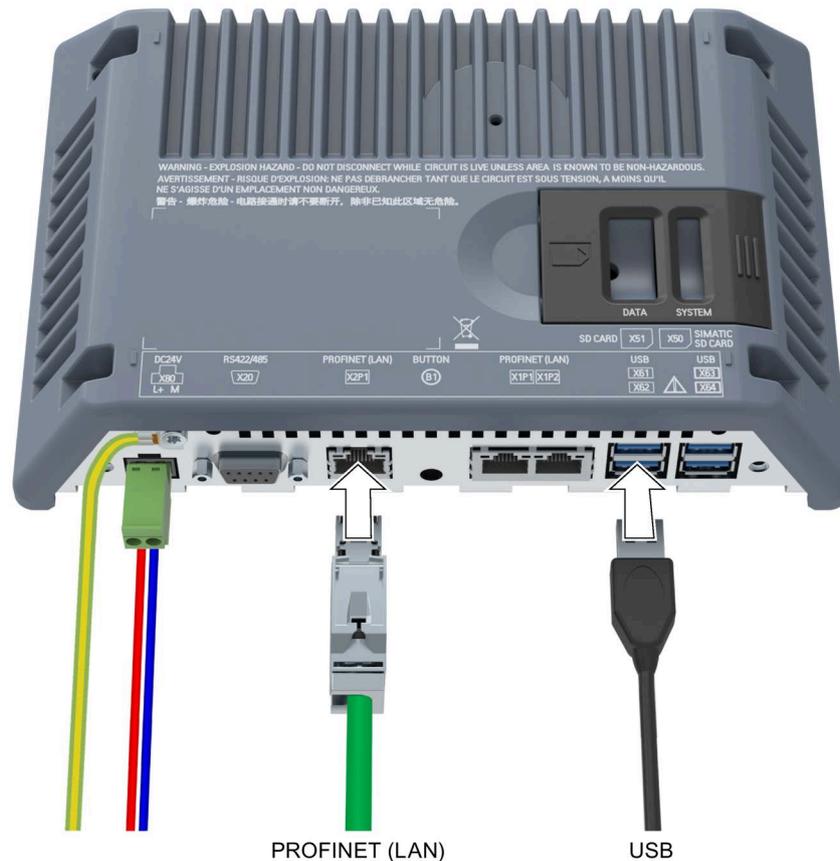
以下の図は、USB デバイスを接続するときの、15 インチ以上のスクリーンを装備した Unified Comfort Panel の例を示しています。



3.4.7 プリンタの接続

配線図

次の図は、ディスプレイサイズが 15 インチ以上の Unified Comfort Panel を例として、HMI デバイスをプリンタに接続する方法を示しています。



接続時の注意事項

注記

データ交換用ケーブル

金属ネットシールドのないケーブルを、HMI デバイスとプリンタ間に使用すると、機能障害が発生することがあります。

HMI デバイスとプリンタの接続には、両端を接地した金属ネットシールド付きケーブルのみを使用します。

注記

プリンタによっては、プロジェクトで使用する ASCII 文字セットをプリンタ上でも設定することが必要な場合があります。

プリンタを接続するときは、プリンタに付属しているマニュアルに従ってください。

3.4 デバイスの接続

プリンタの管理

接続プリンタは、「Printer Configuration」アプリを使用して管理します。セクション「Add-ons (ページ 140)」を参照してください。

3.4.8 装置の電源投入、テストおよび電源オフ

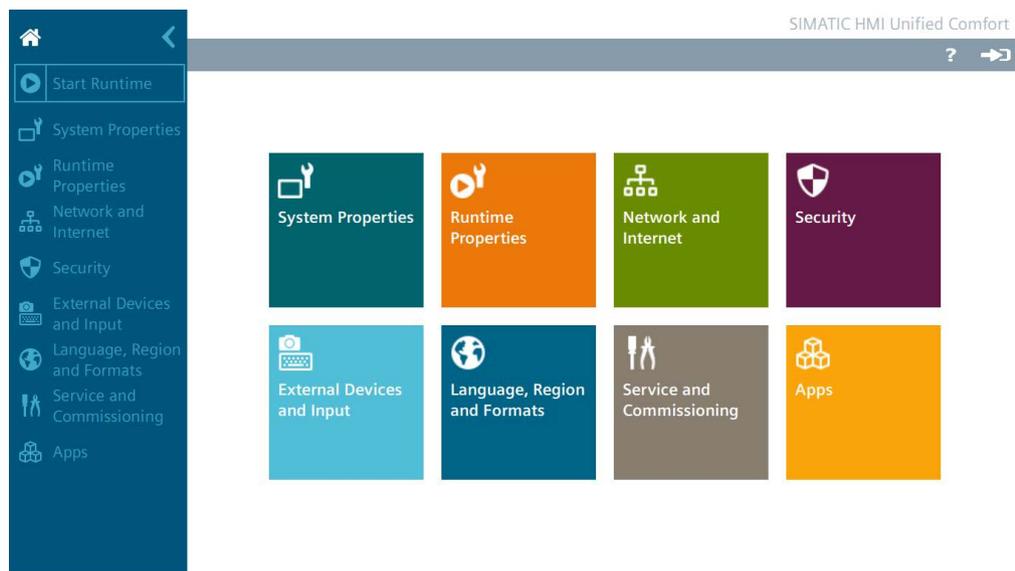
HMI デバイスの電源を入れる

1. 電源を投入します。ディスプレイが点灯します。

長期間経過した後に HMI デバイスの起動に失敗する場合、電源コネクタのケーブルが混線している可能性があります。接続ケーブルを確認し、必要に応じて、極性を修正します。

プロジェクトが HMI デバイスで使用できる場合、定義された遅延時間後にプロジェクトが開始されます。

HMI デバイス上にプロジェクトがない場合、[コントロールパネル]が表示されます。



2. 希望する場合、[コントロールパネル]を介してプロジェクトを操作するか、HMI デバイスを設定します。

HMI デバイスが不要になった場合は、電源を切ります。

HMI デバイスの電源を切る

1. HMI デバイスでプロジェクトを閉じます。
2. 電源をオフにします。

3.4.9 ケーブルの固定

起動時テストの後、接続されたケーブルをストレインリリーフで固定します。

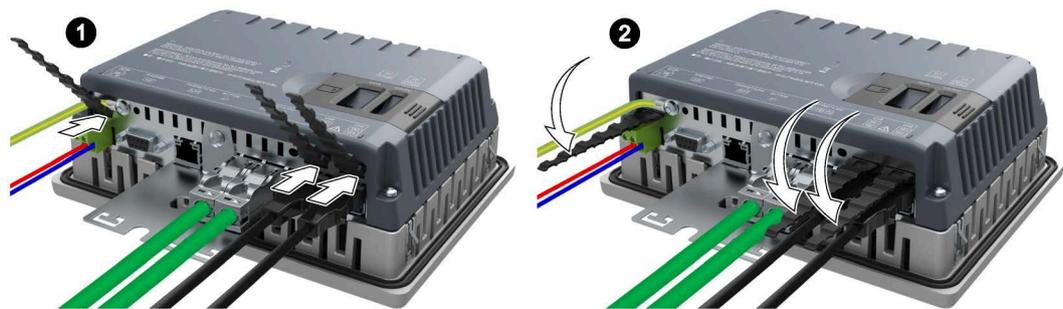
必要条件

ストレインリリーフプレートが取り付けられていること(「ストレインリリーフの取り付け(ページ 36)」セクションを参照)。

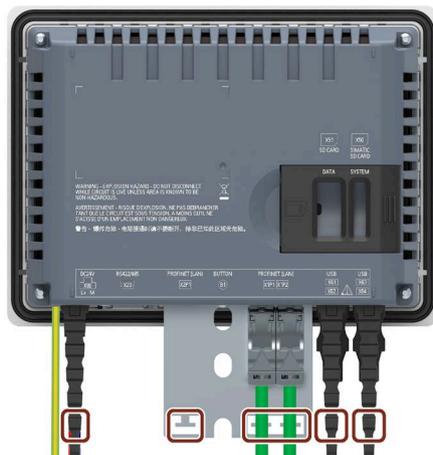
12 インチ以下のディスプレイを装備した HMI デバイス

12 インチ以下のディスプレイを装備したデバイスの場合、ケーブルをストレインリリーフプレートおよび提供されたプラスチックのストレインリリーフエレメントに固定します。

下記の図では、MTP700 Unified Comfort を例として使用して、プラスチックのストレインリリーフエレメントを取り付ける方法を示しています。



次に、ケーブルタイを使用してケーブルをマークされた固定ポイントに固定します。

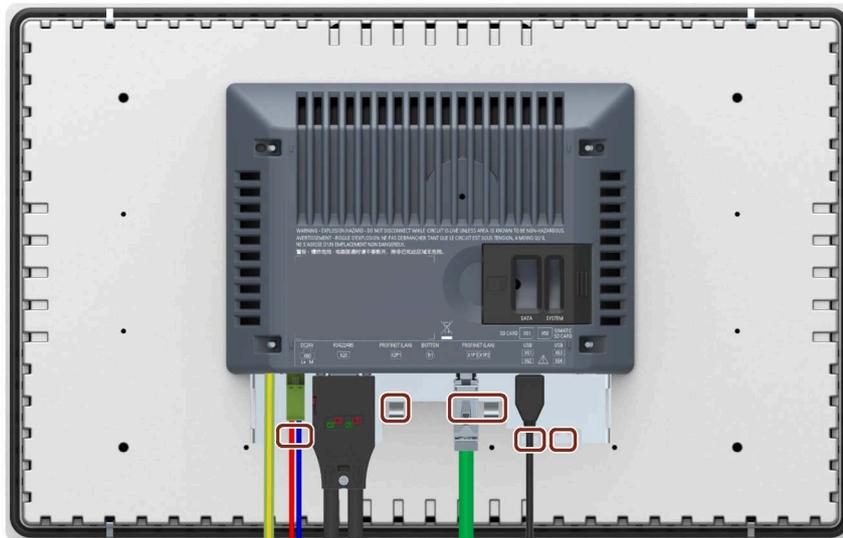


3.4 デバイスの接続

15 インチ以下のディスプレイを装備した HMI デバイス

15 インチ以上のディスプレイを装備したデバイスの場合、ケーブルをストレインリリーフプレートにマークされた固定ポイントに固定します。

下記の図では、MTP1900 Unified Comfort を例として使用して固定ポイントを示しています。



3.4.10 危険領域で使用するケーブルの固定

危険領域で Ex (防爆) 認証のある装置を使用するとき、コネクタは、インターフェースに係留する仕方固定される必要があることに注意してください。



警告

コネクタが緩んだときに火花によって爆発が発生する危険があります

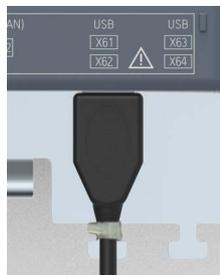
危険領域での操作中に、関連する装置インターフェースからプラグコネクタが外れた場合、インターフェースに発生した火花によって爆発が引き起こされる可能性があります。死亡事故や重傷事故、さらには所有物の損傷を引き起こすことがあります。

危険領域で使用する場合には、ケーブルのプラグコネクタが対応するインターフェースに完全に接続され、どんな場合にもインターフェースから緩むことがないようにする必要があります。SIMATIC HMI Unified コンフォートパネルでは、このリスクは USB インターフェースでのみ存在します。

プラグとケーブルの間の連結部分に直接接続されているすべての USB ケーブルは、ケーブルタイを使用して直近の取り付けエレメントに固定します。すべてのケーブルタイを締め付けて、対応するケーブルを完全に巻き付けるようにしながらも、ケーブルを損傷ないようにします。

接続された USB ケーブルを固定するには、前の章で説明されているように、適切な取り付けエレメントを使用します。

下記の図は、係留する仕方 USB プラグを固定する方法の例を示しています。



3.5 デバイスの削除

3.5 デバイスの削除

HMI デバイスは通常、設置や接続に使用される順序とは逆の順序で削除されます。

手順

以下のように実行します。

1. HMI デバイス上でプロジェクトを実行している場合、この目的のために設定されている HMI デバイスでプロジェクトを閉じます。[コントロールパネル]が表示されるまで待ちます。
2. HMI デバイスの電源をオフにします。
3. HMI デバイスを危険領域で使用する場合、次の要件のいずれかを満たすようにしてください。領域が危険でなくなった場合、あるいはデバイスとそのプラグイン接続の電源が断たれている場合。
4. ストレインリリーフに使用される HMI デバイスでのケーブルタイをすべて取り外します。
5. すべてのプラグインコネクタと等電位ボンディングケーブルを HMI デバイスから取り外します。
6. HMI デバイスを固定し、取り付けカットアウトから落下しないようにします。
7. 取り付けクリップのねじを緩め、すべての取り付けクリップを取り外します。
8. 取り付けカットアウトから HMI デバイスを取り出します。

下記も参照

デバイスの接続 (ページ 38)

取り付けクリップを使用した内蔵デバイスの固定 (ページ 35)

デバイスの操作

4.1 オペレータ入力オプション

接続されている周辺機器に応じて、次のオペレータ入力オプションが使用可能です。

- 容量性マルチタッチスクリーン
- スクリーンキーボード
- 外部キーボード、USB 経由で接続
- 外部マウス、USB 経由で接続

操作中に外部キーボードまたはマウスが必要な場合、工業グレードの機器を使用します。工業グレードではない機器は、コミッショニングのみに許可されています。

代替策として、リモートアクセス経由でデバイスを操作またはモニタすることもできます。

- SmartClient アプリケーションまたは VNC クライアント経由でアクセスします。
「Remote connection (ページ 101)」セクションを参照してください。
- ブラウザ経由でアクセスします。「HMI デバイスへの Web アクセス (ページ 71)」セクションを参照してください。

4.2 タッチスクリーンに関する注意事項

1 本指または 2 本指のジェスチャーで容量性マルチタッチスクリーンを操作します。



警告

アース接続がされていないことが原因の人身傷害または物的損傷

接地接続が不適切であるか欠落しているため、容量性マルチタッチスクリーンの誤動作を招くことがあります。機能が適切に動作しないことがあります。その結果、人身傷害や物的損傷が発生することがあります。

- 必ず HMI デバイスを接地導体に接続します。
- HMI デバイスからの接地導体は、低インピーダンスの地面に直接接続される必要があります(短い接続、最小断面積 4 mm²)。

アース導体の接続に関する詳細情報は、「等電位ボンディング (ページ 40)」のセクションを参照してください。

4.2 タッチスクリーンに関する注意事項

 警告
誤動作による人身傷害または物的損傷 タッチデバイスの誤操作を避けられなくなります。その結果、人身傷害や物的損傷が発生することがあります。 以下の予防策を講じる必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• プラントを設定して、タッチスクリーンで安全関連の機能が操作されないようにする。• プラントスクリーンが HMI デバイススクリーンに表示されている場合、オペレータ操作のみを実行します。• クリーニングおよびメンテナンスの際は HMI デバイスのスイッチを切ります。

通知
タッチスクリーンの損傷 次のような操作は、タッチスクリーンの耐用年数を大きく縮め、全体的な故障につながることもあります。 <ul style="list-style-type: none">• 先の尖った物やよく切れる物で、タッチスクリーンに触れる• 硬い物で接点に衝撃を与える タッチスクリーンに触れる場合には、指かタッチペンのみを使用します。

 警告
タッチスクリーンでの不適切なジェスチャーの実行による誤動作の危険 マルチタッチ機能を使用したタッチスクリーンに対して不適切なジェスチャーを実行した場合、これらのジェスチャーは認識されないか、誤って認識される可能性があります。結果として、実行されたエントリがタッチ装置によって実行されないか、誤ってまたは意図しない方法で実行されることがあります。 マルチタッチ機能の不適切な実行は、プラントの操作のエラーを招き、結果として人身傷害を招くことがあります。 容量性マルチタッチスクリーンの操作時の注意事項： <ul style="list-style-type: none">• タッチスクリーンは、圧力ではなく、表面への接触に反応します。• タッチペンを使用するとき:容量性タッチ用タッチペンのみを使用して、タッチスクリーンを操作してください。• 意図しないマルチタッチを回避してください(指関節など)。 HMI デバイスを使用する前に、オペレーティングシステムおよびアプリケーションのサポートされているマルチタッチ機能に精通してください。マルチタッチスクリーンでユーザーが実行するジェスチャーがアプリケーションで認識されることを確認してください。あらかじめ特定のジェスチャーを練習することが必要な場合があります。

操作に関する注意

注記

起動中には容量性マルチタッチスクリーンに触れないでください

起動中に、HMI デバイスは容量性マルチタッチスクリーンを自動的にキャリブレーションします。キャリブレーション中は、タッチスクリーンがロックされます。

起動中にはタッチスクリーンに触れないでください起動中に、手のひらをタッチスクリーンの上に置かないでください。

起動中に、タッチスクリーン上に導電性の液体がないようにしてください。

容量性マルチタッチスクリーンの操作時の注意事項:

- オペレータ操作が検出されるには、直径 5 ~ 20 mm の表面への接触が必要です。
- 材質の厚さが 2 mm 未満の手袋での操作は、ほとんどの場合検出されます。ただし、使用する手袋が使いやすいか確認してください。
- 正しくない操作を避けるため、特定の入力は無視され、引き続きのエントリがブロックされます。
 - 5 本以上の指を使用した同時操作
 - 直径 3 cm 以上の表面接触。例えば、タッチスクリーン上に手を置いた場合
 - タッチスクリーンに触れなくなるとすぐに入力が再度可能になります。

容量性マルチタッチスクリーンの機能

一般機能

- 一度に最高 5 本の指のタッチを検出します。
- オペレーティングシステムおよびランタイムソフトウェアによってサポートされるジェスチャーの認識。
- 容量性マルチタッチスクリーンをキャリブレーションする必要はありません。

工業環境でのセキュリティ機能

容量性マルチタッチスクリーンは、次の障害が発生した場合に、セキュリティ上の理由でロックされます。

- 接地されているタッチスクリーン上に筐体やオペレータによって導電性の液体が付けられた。
- デバイスの技術データの仕様を超過する電磁妨害が影響を及ぼした(「電磁環境適合性 (ページ 171)」セクションを参照)。

妨害がなくなると、容量性マルチタッチスクリーンはロックされなくなります。

4.3 サポートされるジェスチャー

4.3 サポートされるジェスチャー

4.3.1 [コントロールパネル]でサポートされるジェスチャー

次のタッチジェスチャーは、[コントロールパネル]で使用できます。

アイコン	ジェスチャー	動作
	タップ	入力オブジェクト(入力ボックス、オプションボタン、ドロップダウンリストなど)を有効にするには、入力オブジェクトをタップします。
	1本の指で垂直にドラッグ	ウィンドウペインまたはリストで垂直にスクロールするには、1本の指で対応する領域を垂直にドラッグします。
	1本の指で水平にドラッグ	ウィンドウペインまたはリストで水平にスクロールしたりスライダを設定したりするには、1本の指で対応する領域を水平にドラッグします。

Apps

HMI デバイスにインストールされたアプリを開くとき、「Web Browser」の「ズーム」および「長押し」機能などの、アプリでサポートされているジェスチャーも使用可能になります。

4.3.2 ランタイムプロジェクトでサポートされるジェスチャー

さまざまなタッチジェスチャーがランタイム操作に使用可能です。一部のタッチジェスチャーは、プラント画面と操作エレメントで効果が異なります。

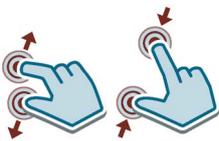
注記

3 本以上の指での操作はありません。

タッチジェスチャーを使用して操作するとき、1 本または 2 本の指のみを使用します。タッチジェスチャーで 2 本以上の指を使用する場合、誤操作を引き起こすことがあります。

複数の指でのマルチタッチ操作を行う場合、個別に設定されたオブジェクトのみを操作します。

プラント画面でサポートされるタッチジェスチャー

アイコン	ジェスチャー	機能
	タップ	オブジェクトを選択するには、プラント画面で対応する位置をタップします。
	ズーム	プラント画面の表示を拡大または縮小するには、操作エレメントのない領域を2本の指でドラッグします。
	1本の指でドラッグ	プラント画面のズーム領域を移動するには、操作エレメントが配置されていない領域に指でドラッグします。
		画面と一緒にオブジェクトを移動するには、タイトルバーを使用して希望する方向にオブジェクトをドラッグします。
	スワイプ	プラント画面間を切り替えるには、1本の指で水平または垂直にスワイプします。タッチ領域は、この機能に対して設定されている必要があります。
	押したまま保持	機能は右クリックに相当します。 右クリックに対して設定されているイベントをトリガするには、オブジェクトまたはリンクを1秒以上長押しします。

操作エレメントでサポートされるタッチジェスチャー

アイコン	ジェスチャー	動作	サポートされる WinCC 操作エレメント
	タップ	行を選択するには、行をタップします。 操作エレメントの対応する設定を使用して:セルを選択します。	アラームコントロール
	2本の指でドラッグ	ズームされた表やトレンドなどの画面コンテンツを動かすには、2本の指で操作エレメントの画面をドラッグします。	<ul style="list-style-type: none"> トレンドコントロール プロセス制御 ルーラーウィンドウ ブラウザ

4.3 サポートされるジェスチャー

アイコン	ジェスチャー	動作	サポートされる WinCC 操作エレメント
	垂直スワイプ	リストエントリを使用している垂直スクロール	ドロップダウンリストボックス
	1本の指でドラッグ	X軸またはY軸を動かします。リストまたは表内を移動します。	<ul style="list-style-type: none"> トレンドコントロール プロセス制御 ルーラーウィンドウ
		複数の行を選択するには、行をタップしてから、指を上または下にドラッグします。操作エレメントの対応する設定を使用して:複数のセルを選択します。	アラームコントロール
		列幅を調整するには、列のグリッドラインをタップし、指で右または左にドラッグします。	
		列の順序を変更するには、列ヘッダーをタップし、指を別の列ヘッダーにドラッグします。	
		ズームされた画面コンテンツを動かすには、1本の指でそれらをドラッグします。	ブラウザ、画面ウィンドウ
	ズーム	操作エレメントの表示範囲内または範囲外をズームするには、2本の指で操作エレメントの画面をドラッグします。	トレンド表示、ブラウザ、画面ウィンドウ
	両手操作	<p>操作エレメントは、両手操作用に設定できます。つまり、同時に有効化ボタンが押されているときに、オブジェクトのみを操作できることを意味しています。</p> <p>WinCCでの両手操作の場合、次を設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> プラント画面のセキュリティプロパティで有効化ボタンとして定義されているボタン。 有効化ボタンが押されているときにのみ操作可能になる必要がある、すべての操作エレメントに対応する[明示的な有効化が必要]セキュリティプロパティ。 	1本の指で有効化ボタンを押したまま、2本目の指でオブジェクトを操作します。

4.4 スクリーンキーボードの使用

4.4.1 画面キーボード

HMI デバイスのタッチスクリーンでランタイムまたは[コントロールパネル]の入力が必要な操作エレメントにタッチすると、スクリーンキーボードが表示されます。

データ入力中にスクリーンキーボードが自動的に表示されない場合、このセクションの最後で説明されているフローティングスクリーンキーボードを使用します。

英数字スクリーンキーボード

スクリーンキーボードのキーレイアウトは、対応する言語の PC キーボードのレイアウトに基づいています。下記の図では、英語レイアウト([QWERTY])を例として使用してスクリーンキーボードの異なるレベルを示しています。

小文字レベル



<SHIFT>ボタンを使用して大文字レベルに切り替えます。

<&123>ボタンを使用して、特殊文字レベルに切り替えます。

<ポリライン>ボタンを使用して、グラフィック入力レベルに切り替えます。

大文字レベル



<SHIFT>ボタンを使用して小文字レベルに切り替えます。

<&123>ボタンを使用して、特殊文字レベルに切り替えます。

<ポリライン>ボタンを使用して、グラフィック入力レベルに切り替えます。

特殊文字レベル 1



<1/2>ボタンを使用して、特殊文字レベル 2 に切り替えます。

<ABC>ボタンを使用して、最後に使用した文字レベルに切り替えます。

特殊文字レベル 2



<2/2>ボタンを使用して、特殊文字レベル 1 に切り替えます。

<ABC>ボタンを使用して、最後に使用した文字レベルに切り替えます。

グラフィック入力レベル



グラフィック入力レベルは、[British English]言語設定と併用したときのみ使用可能です。

グラフィック入力レベルでは、大きなタッチ領域で数字や文字を描画することができます。描画した数字や文字が認識され、有効な入力ボックスに転送されます。

<ABC>ボタンを使用して、タッチ領域への文字の入力に切り替えます。

<123>ボタンを使用して、タッチ領域への数字の入力に切り替えます。

<Aa>ボタンを使用して、最後に使用した文字レベルに切り替えます。

数字スクリーンキーボード

入力ボックスに数値を入力する場合、数字スクリーンキーボードが表示されます。

コントロールパネルの数値スクリーンキーボード



たとえば、PIN に数値のみを入力する場合は、スクリーンキーボードのテンキーのみが表示されます。



ランタイムの数値スクリーンキーボード



数値の限界の確認

タグには、限界値を割り付けることができます。この限界値を外れて入力すると拒否されます。アラーム表示を設定すると、システムアラームがトリガされ、元の値が再び表示されます。

数値の小数点以下桁数

設定エンジニアは、数字テキストボックスの小数点以下の桁数を指定できます。このフィールドに値を入力すると、小数点以下の桁数がチェックされます。

- 限界値を越える少数点以下の桁は、無視されます。
- 小数点以下が入力されない場合、「0」で埋められます。

4.4 スクリーンキーボードの使用

フローティングスクリーンキーボード

フローティングスクリーンキーボードは、アプリでのデータ入力に使用されます。フローティングスクリーンキーボードは、必要な表示領域がより少なく、画面内で動かすことができます。HMI デバイスのタスクバーの次のアイコンをクリックして、フローティングスクリーンキーボードを開くこともできます。



フローティングキーボードのレベルおよびキーは、英数字キーボードのレベルおよびキーに対応しています。



フローティングスクリーンキーボードを動かすには、フローティングキーボードの左側のバーを希望する位置にドラッグします。

フローティングスクリーンキーボードを使用して、グラフィック入力レベルのタッチ領域にデータを入力することはできません。

4.4.2 スクリーンキーボードのコントロールキー

次のコントロールキーは、スクリーンキーボードに対して使用できます。

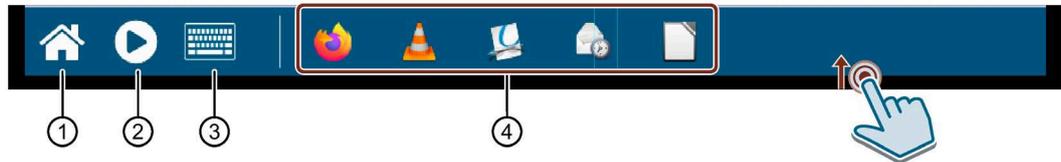
	小文字レベルに切り替えます		任意の文字レベルで特殊文字レベル 1 に切り替えます
	大文字レベルに切り替えます		特殊文字レベル 1 で特殊文字レベル 2 に切り替えます。
	言語の切り替え		特殊文字レベル 2 で特殊文字レベル 1 に切り替えます。
	カーソルの左側の文字を削除します		特殊文字レベルで最後に使用した文字レベルに切り替えます グラフィック入力レベルで文字入力レベルに切り替えます
	グラフィック入力レベルに切り替えます		グラフィック入力レベルで数値入力に切り替えます
	グラフィック入力レベルで最後に使用した文字レベルに切り替えます。		スクリーンキーボードを閉じます。入力を確定します
	有効な入力ボックスで「顔文字」を作成します		入力を確定します。スクリーンキーボードを閉じます
	有効な入力ボックスでエプシロン(省略記号)を作成します		

4.5 タスクバーの使用

タスクバーは、機能やアプリに素早くアクセスするために使用できます。

[Taskbar (ページ 89)]の下にある[コントロールパネル]の設定に応じて、タスクバーが使用可能になり、画面の下、上、左または右に表示されます。

画面の縁から中央にスワイプジェスチャーを行うことでタスクバーを開きます。タスクバーで2秒以上操作が行われないと、タスクバーは再度非表示になります。次の図は、画面の下側の縁にあるデフォルト設定[タスクバー有効化]の例を示しています。



- ① ランタイムプロジェクトから[コントロールパネル]を開くためのアイコン。
 - ② ランタイムプロジェクトを起動するための[Start Runtime]アイコン。
 - ③ フローティングスクリーンキーボードを開くためのアイコン。
 - ④ 現在開かれているすべてのアプリのシンボル。例では、左から右に[Web Browser]、[Media Player]、[PDF Viewer]、[E-Mail Client]および[Doc Viewer]アイコンを示しています。
- ①から③のボタンは常にタスクバーに表示されます。アプリアイコンの数は、開かれているアプリの数に応じて異なります。

ボタンまたはアイコンをタッチして、対応する機能を有効にするか、対応するアプリを前面に移動します。

HMI デバイスを工業グレードのマウスを使用して操作しているか、マウス付きのクライアントマシンを使用して HMI デバイスをリモートで操作している場合、タスクバーのアプリを右クリックしてそれらを再度閉じることができます。マウスを使用せずに HMI デバイスを操作している場合、対応するメニュー機能かアプリのタイトルバーの右端にある[x]アイコンを使用してアプリを閉じます。

注記

ベストパフォーマンス

各アプリは、ある程度の量の作業メモリを占有します。アプリの数や[Web Browser]アプリで開かれるタブの数が増えるほど、使用可能な作業メモリの量が少なくなります。HMI デバイスでベストパフォーマンスを実現するため、下記の推奨事項に留意してください。

- 同時に開くアプリの数は、できるだけ少なくしてください。
- 使用しなくなったアプリは閉じてください。
- 可能な場合、[Web Browser]アプリでは、1つのタブのみを開いてください。

フローティングスクリーンキーボードはアプリでのデータ入力用に設計されています。その他の情報は「スクリーンキーボードの使用 (ページ 61)」セクションを参照してください。

4.6 HMI デバイスのコミッショニング

必要条件

HMI デバイスが、操作説明書に従って設置され接続されていること。

手順

次の手順は、操作中に HMI デバイスを標準的に含める方法を説明しています。

1. 自動バックアップ付きのサービスコンセプトを使用したい場合、32 GB 以上の SIMATIC SD memory card を[X50 SYSTEM]スロットに挿入します。
[コントロールパネル]の[Service and Commissioning] > [Automatic Backup]にある [Start]ボタンを使用して、自動バックアップを有効にします。
2. WinCC の HMI デバイスを設定します。設定するとき、セキュリティ設定でセキュリティコンセプトを検討します。ユーザー管理を設定します。HMI デバイスを未許可の [コントロールパネル]へのアクセスから保護可能なコントロールパネルアクセス機能権限を持つユーザーを設定します。
3. HMI デバイスのネットワークアドレスが設定されているネットワークアドレスと一致していることを確認します。
4. WinCC を介したユーザー管理を含め、プロジェクトを設定 PC から HMI デバイスに転送します。
5. 必要な場合、HMI デバイス管理者が、[Security] > [Control panel access]で、[コントロールパネル]を未許可のアクセスから保護するようにします。
6. [コントロールパネル]の[Security] > [User management]でオペレータの権限を確認し、必要に応じて設定を調整します。
7. 必要に応じて、[Devices And Input] > [Hardware interfaces]で、ストレージメディアに 1 つまたは複数のインターフェースを無効にします。
8. [Language, Region and Formats] > [Date and time]で日付と時刻を確認します。
9. [Runtime Properties] > [Automatic runtime start]でプロジェクトの開始のために必要な遅延時間を設定します。
10. [コントロールパネル]の[Apps]で、操作に必要なアプリがすべて使用可能かどうか確認します。
追加のアプリが必要な場合、これらを[Apps] > [App Management]からインストールします。

結果

コミッショニングが完了すると、HMI デバイスの使用準備ができています。アプリケーションによっては、上記で説明した手順に加えて、さらに個人設定を行うことが必要になる場合があります。

4.7 メモリコンセプトおよびメモリカード

4.7.1 メモリコンセプト

HMI デバイスは、以下のタイプのメモリを使用しています。

- 内部メモリ
- ユーザーデータとログ用のデータメモリカード
- 「自動バックアップ」用のシステムメモリカード
- データを持つ **USB** 記憶媒体用の USB ポート

注記

ログ用のメモリカードの使用

読み取り/書き込みサイクル数が多いため、ログ用に USB インターフェースではなくメモリカードを使用することを推奨します。

内部メモリ

以下のデータは内部メモリに保存されます。

- オペレーティングシステム
- プロジェクトファイル
- ユーザー管理
- パラメータセット
- その他のデータ(ドキュメントやメディアファイルなど)

注記

内部メモリへのサイクリック書き込みアクセスは許可されません

内部メモリへの周期的な書き込みアクセスは許可されていません。これは、永続的なシステムアラームやカスタマイズメッセージがメッセージバッファに生成される設定などの場合に、内部メモリと HMI デバイスの耐用年数を低下させるためです。

アラームウィンドウを設定し、発生するアラームの数と頻度を確認します。アラームから内部メモリに永続的な負荷がかかると予想される場合は、それに応じて設定を調整します。

アラームを永続的に保存する必要がない場合、メッセージバッファの保持型アドレスエリアを無効にできます。セクション「Alarm buffer (ページ 92)」を参照してください。

HMI デバイスの耐用年数を延ばすために、データの保存や記録には、32 GB 以上の SIMATIC SD Memory Card などの外部メモリカードを使用することが推奨されています。

さらに、内部フラッシュメモリのモニタを有効にすることができます(「Performance (ページ 88)」セクションを参照)。

4.7 メモリコンセプトおよびメモリカード

データメモリカード

以下のデータを、データメモリカードに保存できます。

- ログ
- データバックアップ
- ユーザーデータ
- パラメータセット¹
- レポート用データ

¹パラメータセットをメモリカードに保存するには、WinCC でパスとして「\Storage Card SD\」を選択します。

データメモリカードとして、「SD(IO/HC)」のフォーマットの市販のメモリカードを使用することができます。データの整合性の理由から、Siemens ではデータメモリカードとして 32 GB 以上の SIMATIC SD memory card の使用を推奨しています。「付属品 (ページ 16)」セクションを参照してください。

注記

データの整合性

HMI デバイスの電源を切ると、保存されているデータの整合性は、32 GB 以上の SIMATIC SD memory card の場合のみ保証されます。

市販のメモリカードの場合、デバイスの電源を切ると、例えば電源障害の場合などに保存しているデータが失われることがあります。

注記

周波数

ログは約 0.2 Hz の周波数で保存されます。これにより、停電の直前に少量のデータが保存されない可能性があります。

UPS を使用すると、停電の直前のデータ損失を回避します。

システムメモリカード

システムメモリカードは、HMI デバイスのサービスコンセプトの一部です。[自動バックアップ (ページ 130)]機能を有効にすると、HMI デバイスの内部メモリのすべてのデータがシステムメモリカードへ転送されます。HMI デバイ스에 障害がある場合は、システムメモリカードを交換装置に挿入します。交換装置を起動すれば、プロジェクトの作業を続行することができます。こうして、プロセスセルのダウンタイムを最低限度に低減できます。

システムメモリカードが HMI デバイスのユーザーインターフェースに表示されていない場合、データ記憶には使用できません。HMI デバイ스에 システムメモリカードを認識させるには、システムメモリカードを専用に設計されているスロットに挿入する必要があります。

注記

システムメモリカードのタイプ

32 GB 以上の SIMATIC SD memory card がシステムメモリカードとして使用することができます。その他のメモリカードは、HMI デバイ스에 よってシステムメモリカードとして認識されません。

データおよびシステムメモリカードのスロット

データメモリカードおよびシステムメモリカード用のスロットは、HMI デバイスの背面にあります。メモリカードは、安全キャッチで保護されています。

下図に安全キャッチ付きのスロットを示します。



- ① 「SD(IO/HC)」フォーマットのデータメモリカード用のスロット X51 は、次のカード用に推奨されています: SIMATIC SD memory card \geq 32 GB
- ② システムメモリカード用のスロット X50 は、次のカード用に許容されています: SIMATIC SD memory card \geq 32 GB
- ③ 安全キャッチ、2段階

データメモリカードのフォーマット

データメモリカードのフォーマットには、次のファイルシステムがサポートされています。

- FAT32
- NTFS

データメモリカードをフォーマットするとき、いずれかのサポートされるファイルシステムを使用します。

注記

システムメモリカードをデータメモリカードとして使用する

[自動バックアップ]機能を併用してシステムメモリカードとして既に使用されているメモリカードは、データメモリカードとしては使用できません。データメモリカードとしてシステムメモリカードを使用するには、そのメモリカードをいずれかのサポートされるファイルシステムを使用してフォーマットする必要があります(NTFSを推奨)。

システムメモリカードのフォーマット

32 GB 以上の SIMATIC SD memory card をスロット X50 に挿入して[自動バックアップ(ページ 130)]機能を有効にすると、メモリカードは自動的にフォーマットされます。

注記

データメモリカードをシステムメモリカードとして使用する

データメモリカードとして使用されているメモリカードは、システムメモリカードとして使用できるようにする前にフォーマットされる必要があります。フォーマットは、[自動バックアップ(ページ 130)]機能を有効にしたときに、自動的に実行されます。フォーマット中に、メモリカードの全てのデータが失われます。必要な場合、このメモリカードをシステムメモリカードとして使用する前に、データメモリカード内のデータのバックアップを取ります。

4.7 メモリコンセプトおよびメモリカード

4.7.2 メモリカードの交換

メモリカードは、安全キャッチで保護されています。



警告

危険領域でメモリカードをつなげたり、外したりしないでください。

操作中にメモリカードをつなげたり、外したりすると、フラッシュオーバーが発生するリスクがあります。フラッシュオーバーは、危険区域で爆発を発生させ、死亡または重度のけがにつながる恐れがあります。

危険領域でメモリカードをつなげたり、外したりすることは禁止されています。

次の2つの要件のいずれかが満たされるまで、メモリカードをつなげたり、外したりしないでください。領域が危険でなくなった場合、あるいはデバイスとそのプラグイン接続の電源が断たれている場合。

注記

データ消失の危険性

メモリカードが取り外されているときに HMI デバイスはそのデータにアクセスする場合、メモリカードのデータの完全な読み取り、書き込みが行われず、データが破壊されてしまう場合もあります。

プロセスで、操作中にメモリカードを交換する必要がある場合、設定に適切な機構を導入して、これを考慮しておくことが必要です。

データにアクセスしている間は、操作中にメモリカードを取り外してはなりません。画面上の対応するアラームに注意してください。

注記

「自動バックアップ」用のシステムメモリカードを操作中に取り外さないでください。

[自動バックアップ (ページ 130)]機能が有効になっている場合、システムメモリカードは HMI デバイスの電源が切られているときのみ取り外しできます。

注記

プロジェクト実行中のシステムメモリカードの取り外し

プロジェクト実行中にシステムの記憶カードを取り外すと、プロジェクトは終了します。

必要条件

現在メモリカードに読み取りまたは書き込みアクセスが行われていないこと。

手順

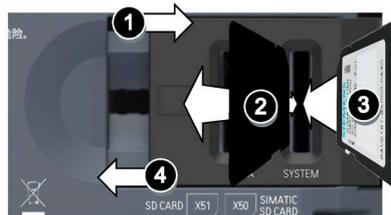
注記

システムメモリカードとして、**32 GB 以上の SIMATIC SD memory card** を使用します

32 GB 以上の SIMATIC SD memory card がシステムメモリカードとして使用することが許可されています。その他のすべてのメモリカードは、HMI デバイスによってシステムメモリカードとして認識されません。

次の手順は、例として、システムメモリカードを交換する場合を説明しており、データメモリカードにも同じように当てはまります。

1. 安全キャッチを望む位置にスライドさせて、対応するメモリカードを交換します。
2. メモリカードを取り外すには、対応するカードを少し押し込みます。
カードが解除され、取り外しできます。



3. 新しいメモリカードを挿入して、音がして所定の位置に確実にハマり込むようにします。
4. 安全キャッチを元の位置にスライドさせて戻します。

システムメモリカードを挿入した場合、[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、[コントロールパネル]を開き、[自動バックアップ]機能を有効にするために使用されます。

4.8 HMI デバイスへの Web アクセス

デバイスへの直接操作の代替手段として、ブラウザ経由で HMI デバイスの次のアプリケーションにアクセスできます。

- ランタイムプロジェクト
- ユーザー管理
- ローカル[SIMATIC Edge]エッジ管理
- [SIMATIC Extensions]

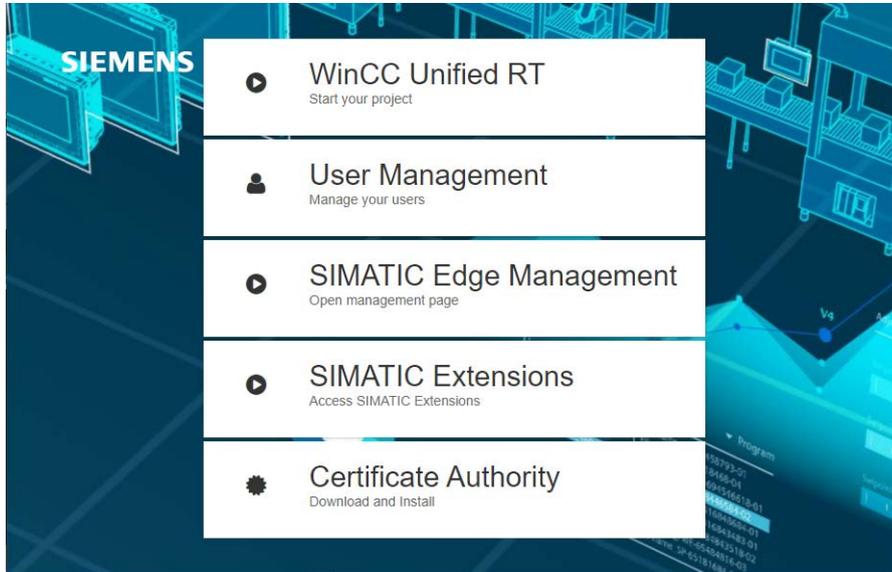
必要条件

- ブラウザが動作しているデバイスは、同一のサブネットの HMI デバイスに接続されています。
- 使用するブラウザは、HTML5 をサポートしており、自己署名証明書を受け入れません。
- アクセスしようとしているアプリケーションに応じて、下記が適用されます。
 - [WinCC Unified RT]:ランタイムプロジェクトへの Web アクセスが有効にされています。「Web client (ページ 93)」セクションを参照してください。ランタイムソフトウェアが停止されています。
 - [User Management]:ユーザー管理の設定が HMI デバイスに読み込まれました。「User management (ページ 107)」と「UMAC settings (ページ 120)」セクションを参照してください。
 - [SIMATIC Edge Management]、[SIMATIC Extensions]:HMI デバイスのコントロールパネルで関連するサービスが有効化されます。「SIMATIC Apps (ページ 138)」セクションを参照してください。

ホームページ経由でアプリケーションを開く

HMI デバイスには、Web アクセスを使用するアプリケーションに対応した便利なホームページがあります。

ホームページを開くには、次の URL をブラウザに入力します。「<https://<ip>>」プレースホルダ「<ip>」ではなく、HMI デバイスの IP アドレスを使用します。HMI デバイスで直接実行するブラウザを使用するとき、IP アドレスではなく「localhost」も使用します。



- [WinCC Unified RT]:ランタイムに対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。
- [User Management]:ユーザー管理に対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。

ブラウザ経由の Web ベースのユーザー管理に関する詳細情報は、[可視化プロセス (RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)] > [Unified コンフォートパネルのユーザー管理の使用] > [ローカルユーザーの管理] > [ランタイムでのローカルユーザーの管理]にある TIA 情報システムで参照できます。

- [SIMATIC Edge Management]:[SIMATIC Edge]アプリケーションに対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。
- [SIMATIC Extensions]:[SIMATIC Extensions]アプリケーションに対して[Sign in]ダイアログを開くためのボタン。
- [Certificate Authority]:安全な接続のために HMI デバイス証明書をダウンロードするためのボタン。

ホームページなしでアプリケーションを開く

次の URL を使用して、ホームページなしで対応するアプリケーションの[サインイン]ダイアログを開きます。

- [WinCC Unified RT]: 「https://<ip>/device/WebRH」。大文字/小文字の入力に注意してください。
- [User Management]: 「https://<ip>/umc」
- [SIMATIC Edge Management]: 「https://<ip>/device/edge」
- [SIMATIC Extensions]: 「https://<ip>/device/simatic-extensions」

プレースホルダ「<ip>」ではなく、HMI デバイスの IP アドレスを使用します。HMI デバイスで直接実行するブラウザを使用するとき、IP アドレスではなく「localhost」も使用します。

証明書のインストール

ブラウザ経由で始めて Web アクセスを使用するアプリケーションを開くとき、次が適用されます。ブラウザとアプリケーション間の安全な接続をセットアップするため、アプリケーションの証明書をダウンロードし、それをお使いのブラウザで[信頼済み]としてインストールする必要があります。

通知

WinCC Unified Certificate Manager 経由で生成された CA 証明書を使用します

信頼できないソースからの自己署名証明書を使用すると、データ転送は、攻撃から保護されません。

HMI デバイスへの Web アクセスの場合、WinCC Unified Certificate Manager で生成された CA 証明書を使用します。次の手順にしたがって、これを実行します。

1. WinCC Unified Certificate Manager を使用して CA 証明書を生成します。
2. CA 証明書を USB フラッシュドライブにコピーします。
3. 「Security」>「Certificates」経由で「Trusted Certificate Authority」としてコントロールパネルに CA 証明書をインポートします。
4. 次のセクションで説明するように、ブラウザに証明書をインストールします。

証明書のダウンロード

証明書のダウンロードには、次のオプションが用意されています。

- ホームページで[Certificate Authority]ボタンを使用する。
- [Certificate]リンクを、[SIMATIC Edge]アプリケーションおよび[SIMATIC Extensions]アプリケーションの[Sign in]ダイアログで使用する。
- ブラウザのアドレスバーにあるアイコンまたは[安全でない]メッセージをクリックする。

証明書を「Web ブラウザ」で[信頼済み]としてインストールする

アプリケーションの証明書をインポートし、それを[信頼済み]として分類するために、ブラウザドキュメントの指示に従ってください。

Web サイトへの安全な接続は、信頼済み証明書を使用するとすぐにセットアップできます。

注記

証明書は、Web アクセスを使用するすべてのアプリケーションに対して有効

Web アクセスを使用するアプリケーションへの安全なアクセスのため、HMI デバイス証明書を一度のみダウンロードし「信頼済み」として分類します。

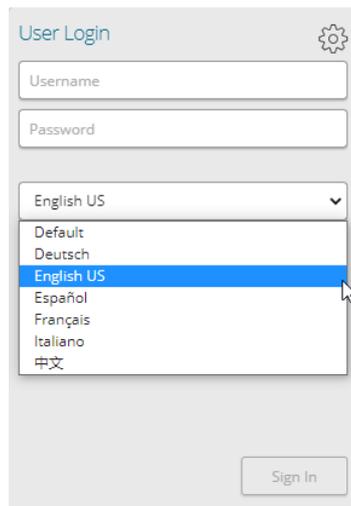
[Sign in]ダイアログを使用したサインイン

[Sign in]ダイアログを使用して、Web アクセスを使用するアプリケーションにサインインします。

ランタイム関連のアプリケーション用の[Sign in]ダイアログ

次の図は、下記のアプリケーションに対応する[Sign in]ダイアログを示しています。

- [WinCC Unified RT]
- [User Management]



手順:

1. 必要なランタイム言語を選択します。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. [サインイン]をクリックします。

選択された言語がランタイムプロジェクトで使用可能でない場合、デフォルトの言語が使用されます。

「SIMATIC アプリ」用の[Sign in]ダイアログ

次の図は、下記のアプリケーションに対応する[Sign in]ダイアログを示しています。

- [SIMATIC Edge Management]
- [SIMATIC Extensions]

A screenshot of a 'Sign in' dialog box. It has a light blue header with the text 'Sign in'. Below the header are two input fields: 'Username' and 'Password'. The 'Password' field has a small eye icon to its right. At the bottom left, there is a blue button with a certificate icon and the text 'Certificate'. At the bottom right, there is a grey button with the text 'Sign in'.

手順:

1. まだ実行していない場合、[Certificate]ボタンを使用してアプリケーションの証明書をダウンロードし、その証明書をブラウザにインストールします。このセクションの「証明書のインストール」サブセクションを参照してください。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。
3. [サインイン]をクリックします。

Web アクセスに関する注意事項

サインイン後、さまざまなアプリケーションでの Web アクセスに関する下記の注意事項をお読みください。

[WinCC Unified RT]

ログインに成功した後、ユーザーセッションが有効になります。ユーザーセッションに関する次の注意事項に注意してください。

- HMI デバイスでは、最大 3 ユーザーセッションが許可されています。
- ユーザー管理は、サインイン時のユーザーセッションで使用されます。HMI デバイスのユーザー管理に加えた変更は、進行中のセッションには影響しません。
- ユーザーセッションを完全に閉じるには、次のオプションがあります。
 - システム機能[ログオフ]を使用して操作エレメントを設定します。
 - すべてのインスタンス、つまり開いているブラウザウィンドウをすべて閉じます。

[Web client]経由のリモートアクセスに関する詳細については、下記の TIA 情報システムを参照してください。「可視化プロセス(RT Unified)」 > 「リモートアクセスの設定」 > 「Web クライアント」。

[User Management]

- ユーザーリストは、[ユーザー管理]機能権限が割り付けられているユーザーのみが表示し編集することができます。
- ユーザー管理への Web ベースのアクセスに関する詳細情報は、[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)] > [Unified コンフォートパネルのユーザー管理の使用] > [ローカルユーザーの管理] > [ランタイムでのローカルユーザーの管理]にある TIA 情報システムで参照できます。

4.9 操作に関する注意

[SIMATIC Edge Management]

- アプリケーションへのアクセスには、「HMI 管理者」権限を持つユーザーが必要です。
- ローカルの Edge Management に関する詳細情報は、Edge Management ウェブサイトのプログラミングおよび操作マニュアル「Siemens Industrial Edge (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109773259>)」で参照できます。

[SIMATIC Extensions]

- アプリケーションへのアクセスには、「HMI 管理者」権限を持つユーザーが必要です。
- SIMATIC Extensions の使用に関する詳細な情報は、SIMATIC Extensions ウェブサイトのヘッダーの左上にある[UserManual]リンクを使用して参照できます。

4.9 操作に関する注意

記憶媒体

注記

複数回表示される記憶媒体

HMI デバイスのオペレーティングシステムは、複数のマウントポイントをサポートしています。これは、ファイルブラウザダイアログで、USB および SD 記憶媒体が複数回表示される可能性があることを示しています。これは、HMI デバイスやアプリの機能には影響しません。

注記

ランタイム内およびアプリ内の記憶媒体のディレクトリ

同じファイルブラウザダイアログを使用するランタイムソフトウェアのファイルブラウザダイアログとアプリでは、「/media」の下に記憶媒体があります。

SIMATIC Edge

注記

SIMATIC Edge の有効化

[Apps] > [SIMATIC Apps] > [SIMATIC Edge] > [Enable SIMATIC Edge] オプションは、始動プロセスが完了したときに、HMI デバイスの初めての起動時にのみ有効化することができます。始めて HMI デバイスを起動した後、約 1~2 分待機します。その後、[Enable SIMATIC Edge] オプションを有効にできます。

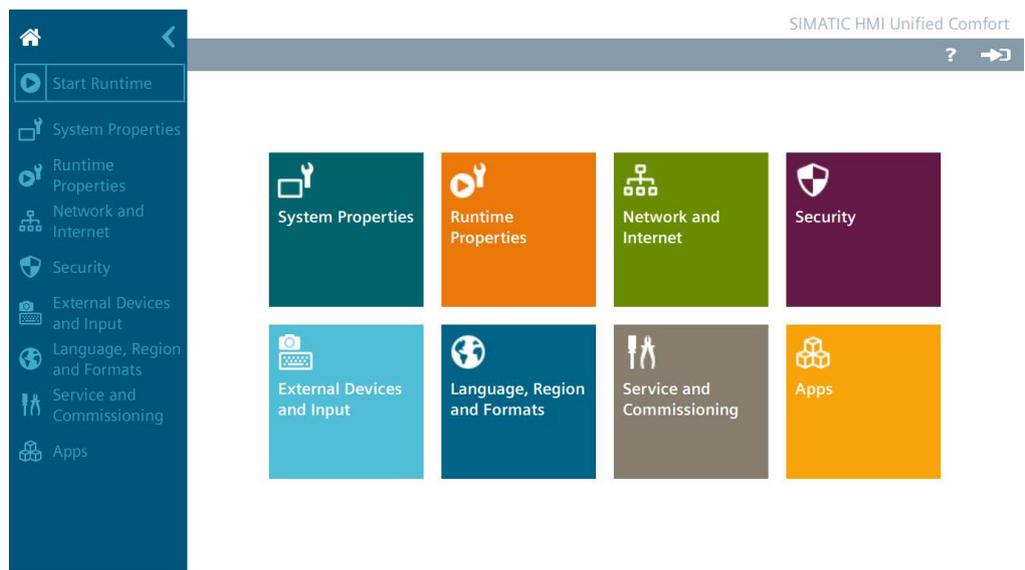
[コントロールパネル]の操作

5.1 設定を開く

コントロールパネルは、次のようにして開くことができます：

- デバイスの電源を入れた後、HMI デバイスにプロジェクトがない場合。
- プロジェクトの適切な設定操作エレメントを使用する。
- HMI デバイス上で実行されているプロジェクトを終了する。

下記の図に、[コントロールパネル]のメインウィンドウが開かれている状態を示しています。



対応する設定を行うには、ナビゲーションエリアのエントリまたはウィンドウペインのタイルを選択します。

注記

[コントロールパネル]のパスワード保護を有効にする

[コントロールパネル]のパスワード保護は、HMI デバイスが納入されたときは無効にされています。つまり、すべてのユーザーが[コントロールパネル]に変更を加えることができることを意味しています。

HMI デバイスを未許可の変更から保護するため、[コントロールパネル]に対するパスワード保護を有効にできます(「Control panel access (ページ 119)」セクションを参照)。

通知

設定 PC の通信中に設定を変更しないでください

HMI デバイスに設定 PC がアクセスしているときにコントロールパネルの設定を変更すると、不具合が発生する可能性があります。

プロジェクトダウンロード中や[LED の点滅]機能による通信の場合など、HMI デバイスに設定 PC がアクセスしているときは設定を変更しないでください。

5.1 設定を開く

[コントロールパネル]へのログオン

[ログイン]ボタンは、[コントロールパネル]タイトルバーの右側にあります。



ユーザー管理が HMI デバイス用に設定されており、HMI デバイスに転送されている場合、[ログイン]ボタンを使用してログインできます。ログイン後、設定でログイン用に定義された権限を持つようになります。[コントロールパネル]ですべての機能にアクセスするには、ユーザーには[コントロールパネルアクセス]機能権限が必要です。

注記

ログインの試行回数

ログインの試行回数は 19 回です。19 回目試行して失敗した後、次の試行ではユーザーの操作がロックされます。そのユーザーを削除し、再度作成するか、ユーザー管理を HMI デバイスに再ロードする必要があります。

ログイン資格情報を正しく入力していることを確認してください。

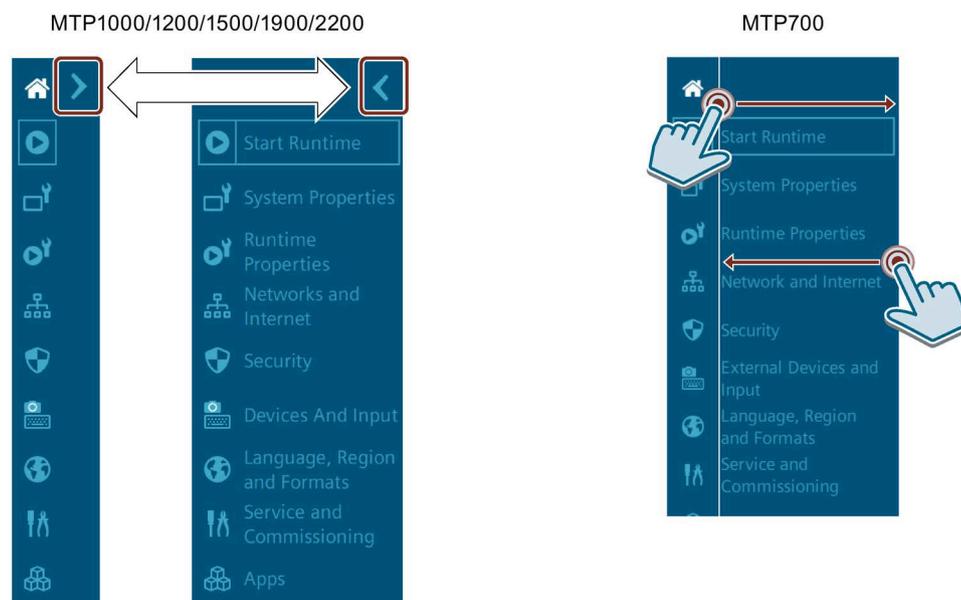
または、ユーザーに RFID ログインが割り当てられていれば、RFID カード経由でログインできます。RFID カードを RFID リーダーの直前にかざし、必要に応じて PIN を入力します。

ログインした後、[ログアウト]ボタンが[ログイン]ボタンの代わりにタイトルバーに表示されます。



ナビゲーションエリアの切り替え

ナビゲーションエリアを、最大表示から最小表示まで、次のように切り替えることができます。



コントロールパネルのヘルプ

タイトルバーで、[ログイン]ボタンの左側には[ヘルプ]ボタンがあります。



[ヘルプ]アイコンを使用して、[Unified Comfort Panels Help]ダイアログを開きます。



コントロールパネルヘルプを開くためには、[Unified コンフォートパネルヘルプ]ダイアログの次のオプションが利用できます。

- QR コードをスキャンするか、インターネット接続がある外部デバイスのブラウザに QR コードの下にあるリンクを入力します。
ヘルプが外部デバイスで開かれます。外部デバイスでヘルプを読み込み、同時に HMI デバイスのコントロールパネルで移動できます。
- HMI デバイスがインターネットに接続されている場合、QR コードの下にあるリンクをクリックします。
ヘルプが HMI デバイスで開かれます。

5.2 機能の概要

下記の表に、コントロールパネルのアイコンおよび対応する機能の適切なセクションの説明へのリンクを示します。

アイコン	名称	割り付けられた機能
	-	[コントロールパネル]のメインウィンドウを開く
	Start Runtime	HMI デバイスでプロジェクトを開始する 「Automatic runtime start (ページ 91)」を参照してください

5.2 機能の概要

アイコン	名称	割り付けられた機能
	System Properties	Panel information (ページ 81) Display (ページ 82) Screensaver (ページ 83) Update OS (ページ 83) Reboot (ページ 86) Performance (ページ 88) Taskbar (ページ 89) Event Logger (ページ 89)
	Runtime Properties	Project information (ページ 91) Automatic runtime start (ページ 91) Alarm buffer (ページ 92) Web client (ページ 93) Load project from storage (ページ 94)
	Network and Internet	Network settings (ページ 97) Remote connection (ページ 101) Network drive (ページ 103)
	Security	User management (ページ 107) Certificates (ページ 115) Control panel access (ページ 119) UMAC settings (ページ 120)
	External Devices and Input	Hardware interfaces (ページ 122)
	Language, Region and Formats	Date and time (ページ 123)
	Service and Commissioning	Transfer (ページ 125) Update OS (ページ 83) Backup (ページ 128) Automatic backup (ページ 130) Restore (ページ 134) Trace forwarder (ページ 136)
	Apps	Apps (ページ 137)

インターフェースパラメータ、ランタイム設定、リモートアクセスの設定やユーザー管理などの一部の設定は、WinCC で設定し、HMI デバイスに読み込むことができます。読み込み後、必要に応じて、HMI デバイスのコントロールパネルで設定を変更できます。

5.3 System Properties

5.3.1 Panel information

[Panel information]で、お使いの HMI デバイスに固有の情報を参照できます。この情報は、例えば、技術サポートに問い合わせる場合などに必要になります。



Properties

次の図に、例を示します。さまざまな表示値をワイルドカード文字「#」を使用したり、山括弧「<>」で挟んで表示します。

Device type:	MTP1500 Unified Comfort
Article number:	6AV2128-3QB06-0AX0
Serial number:	V-00000015
Firmware/Image version:	V18.00.00.01_0#.0#
Runtime version:	18.0.0.#
Bootloader version:	V05.0#.00.00_01.01.01.01
Bootloader release date:	<dd>/<mm>/<yyyy>
PN-X1 MAC address:	08-00-06-00-02-b0
PN-X2 MAC address:	08-00-06-00-00-b0

- [Device type]:HMI デバイスタイプ名称
- [Article number]:HMI デバイスの商品コード
- [Serial number]:HMI デバイスのシリアル番号
- [Firmware/Image version]:ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン
- [Runtime version]:HMI デバイスにあるランタイムソフトウェアのバージョン
- [Bootloader version]:ブートローダーのバージョン
- [Bootloader release date]:ブートローダーのリリース日
- [PN-X1 MAC address]:HMI デバイスインターフェース X1 の MAC アドレス
- [PN-X2 MAC address]:HMI デバイスインターフェース X2 の MAC アドレス

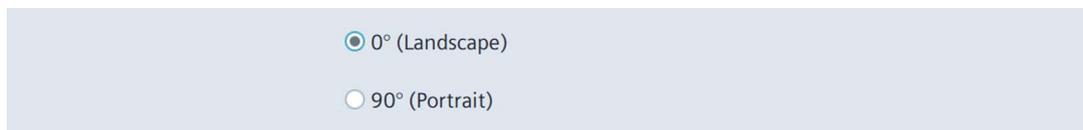
5.3.2 Display

[Display]で、画面方向と画面輝度をバックライトの強度によって設定します。



通知
バックライトの低減 バックライトの輝度を低減すると、運転寿命を長くすることができます。 バックライトの耐用年数を不必要に短くすることを避けるため、バックライトの低減を設定します。

Orientation



- [0° (Landscape)]:横フォーマットで設置および設定されている HMI デバイスに対してこのオプションを選択します。
- [90° (Portrait)]:縦フォーマットで設置および設定されている HMI デバイスに対してこのオプションを選択します。

注記

画面方向およびランタイムプロジェクト

コントロールパネルでの画面方向は、WinCC 設定での HMI デバイスの画面方向と一致している必要があります。コントロールパネルの方向を切り替えた後、設定を調整し、プロジェクトを HMI デバイスに再ロードします。

HMI デバイスで実行されているランタイムプロジェクトがない場合にのみ、コントロールパネルの画面方向を切り替える必要があります。

HMI デバイスでランタイムプロジェクトが実行されているときに画面方向を切り替えると、プロジェクトは、切り替え後に HMI デバイス画面で正しく表示されなくなる場合があります。プロジェクトを正しく表示するには、ランタイムソフトウェアまたは HMI デバイスを再起動します。

Brightness



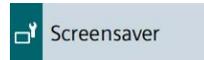
スライダを使用して希望する画面輝度を設定します。

値範囲:10～100%。初期設定:70%

画面輝度は、設定から、値範囲内で設定することもできます。

5.3.3 Screensaver

[Screensaver]で、スクリーンセイバーが自動的に有効になる時間と、スクリーンセイバーが有効になったときのバックライトの輝度を設定します。



通知

スクリーンセイバーの有効化

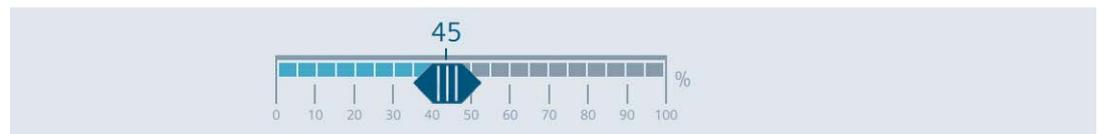
画像が画面に長時間表示されると、輪郭が画面に薄く残ってすることがあります。スクリーンセイバーを使用すると、この効果を元に戻すことができます。

General Settings



- [Enable screensaver]:このオプションを選択してスクリーンセイバーを有効にします。初期設定: [無効]。
 - [Wait time]:スクリーンセイバーが有効になるまでの時間です。1~120 分の範囲で設定します。初期設定は、[1 min.]です
- 指定された時間内に HMI デバイスが操作されないと、スクリーンセイバーが自動的に作動します。

Brightness of screensaver



スライダを使用して、スクリーンセイバーの希望する画面輝度を設定します。値範囲は0~100%です。初期設定は、[30%]です。

スクリーンセイバーを解除するには、タッチスクリーンに少しタッチします。安全上の理由で、このタッチはオペレータアクションとして評価されることはありません。したがって、意図しない機能がトリガされることはありません。

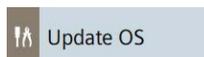
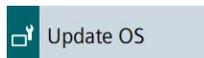
スクリーンセイバーは、SmartClient や設定 PC などを通して、HMI デバイスにリモートでアクセスされた場合にも解除されます。

5.3.4 Update OS

HMI デバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされている WinCC ソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。

[Update OS]を使用して HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新します。オペレーティングシステムは複数のファームウェアファイルに含まれています。マスタファイルには、拡張子「.fwf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

[Update OS]機能は、[System Properties]および[Service and Commissioning]の両方で使用できます。



通知

オペレーティングシステムを更新すると、HMI デバイスのデータが削除されます。プロジェクト、パラメータセットおよびユーザー管理は、HMI デバイスでオペレーティングシステムを更新したときに削除されます。

オペレーティングシステムを更新する前に、必要に応じて、HMI デバイスのデータのバックアップを取ります。

オペレーティングシステムを更新する前に[コントロールパネル]で変更した次の設定以外のすべての設定内容は、オペレーティングシステムの更新後も保持されます。

- 外部インターフェースは再度有効にされます(初期設定)。「Hardware interfaces (ページ 122)」セクションを参照してください。
- タイムゾーンは初期設定[(UTC) Coordinated Universal Time]にリセットされます。「Date and time (ページ 123)」セクションを参照してください。
- 接続されているネットワークドライブの認証情報を再度入力する必要があります。「Network drive (ページ 103)」セクションを参照してください。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMI デバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

- [自動バックアップ]機能を無効にします。
- オペレーティングシステムを更新します。
- [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードを HMI デバイスに挿入されたままにします。

32 GB 以上の SIMATIC SD memory card または工業用 USB フラッシュドライブを使用して、ファームウェアを読み込みます。

HMI デバイスのファームウェアファイルは、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109746530>) からダウンロードできます。ダウンロード内容に含まれている取扱説明書に従います。

注記

ファームウェアファイルの名前を変更しないでください。

ファームウェアファイルの名前を変更すると、オペレーティングシステムをこれらのファームウェアファイルを使用して更新できなくなります。ファームウェアファイルは使用不能になります。ファームウェアファイルの名前を変更しないでおきます。

注記

ファームウェアファイルを完全にコピーする

ファームウェアファイルをコピーする場合、マスタファイル「.fwf」とすべての関連ファームウェアファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

ファイルが欠けていると、オペレーティングシステムを読み込めなくなります。

[コントロールパネル]で[Update OS]機能を使用する別の方法として、WinCC で [Update OS]機能を使用できます。

Panel Information

Device type:	MTP1500 Unified Comfort
Image version:	V18.00.00.01_04.01

- [Device type]:HMI デバイスタイプ名称。
- [Image version]:ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

Select storage media for OS update

X61 (Size:7.6 GB/Free:5.04 GB) ▼

選択リストを使用して、ファームウェアファイルが保存されている記憶媒体を選択します。

Firmware files on external storage

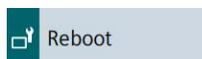
Name	Path	Image Version
UCP_7_22_V18_0.fwf	/media/simatic/data-s...	V18.00.00.00_04.01....

Update OS

- リストは、HMI デバイスに読み込み可能なすべてのファームウェアファイルを示しています。
リストから希望するファームウェアマスタファイル(.fwf)を選択します。
- [Update OS]:読み込みプロセスを開始するためのボタン。
[Update OS]ボタンを押すと、HMI デバイスが再起動されます。その後、読み込みプロセスが開始されます。
各ファームウェアファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが HMI デバイスに表示されます。
HMI デバイスは、読み込みプロセスが完了した後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。HMI デバイス上のオペレーティングシステムが更新されました。

5.3.5 Reboot

[Reboot]で手動で HMI デバイスを再起動できます。再起動は、通常どおり、または保守モードで実行できます。



次の場合は、確定後に HMI デバイスが自動的に再起動されます。

- [Ethernet parameters Port 1]または[Ethernet parameters Port 2]で PN-X1 インターフェースに変更を加えました(「PN-X1 (ページ 97)」セクションを参照)。
- [General network settings]で変更を加えました(「General (ページ 101)」セクションを参照)。
- [Enable alarm buffer]オプションを切り替えました(「Alarm buffer (ページ 92)」セクションを参照)。

HMI デバイスの手動での再起動は、以下の場合に必要になります。

- 設定で、[メディア冗長性]の下にあるインターフェースパラメータを変更し、プロジェクトを HMI デバイスに再び読み込みます。

通知**データの損失**

再起動すると、すべての揮発性データが失われます。

HMI デバイス上でプロジェクトが実行されていないこと、フラッシュメモリにデータが書き込まれていないことを確認してください。

Reboot panel

By carrying out this function panel will be restarted

Reboot panel

[Reboot panel]:HMI デバイスの単純な再起動のためのボタン(「ソフトリブート」)。

Reboot in maintenance mode

By carrying out this function panel will be restarted and booted in device maintenance mode

Reboot in maintenance mode

[Reboot in maintenance mode]:保守モードで再起動するためのボタン。保守モードでの再起動は、HMI デバイスを出荷時設定にリセットするために必要です。

[Reboot in maintenance mode]ボタンを押すと、HMI デバイスが再起動されます。

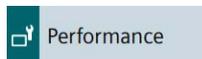
[Maintenance Mode]ダイアログボックスが 10 分間表示されます。この期間中、HMI デバイスを設定 PC に接続し、ProSave ソフトウェアを使用して HMI デバイスを出荷時設定にリセットできます。

下記も参照

ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)

5.3.6 Performance

[Performance]で、内部フラッシュメモリのモニタを有効にすることができます。

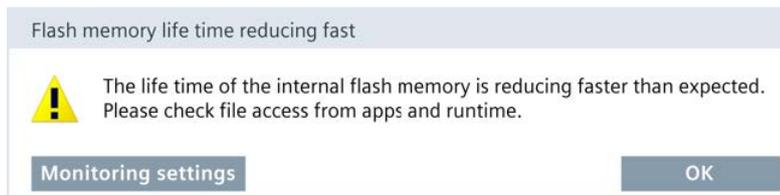


Flash Memory Monitoring Section

Show Alarm if life of flash memory is reducing fast

[Show Alarm if life of flash memory is reducing fast]:フラッシュメモリモニタを有効にするためのオプション。デフォルト設定は、[有効]です。

このオプションが有効にされていると、フラッシュメモリの状態が周期的にチェックされます。周期的チェックがフラッシュメモリの高負荷を引き起こす場合、メッセージ [Flash memory life time reducing fast]が定期的に表示されます。



- [Monitoring Settings]:[コントロールパネル]で[Performance]設定を開くためのボタン。このボタンを押します。[Source]で特定されている原因を書き留め対応する管理者またはプロジェクトエンジニアに問い合わせます。
- [OK]:アラームを確認するためのボタン。

Last alarm

Alarm:

Source:

- [Alarm]:フラッシュメモリのステータスについて表示した最後のアラームが含まれるパネルを表示します。
- [Source]:最後のアラームの原因に関する情報が含まれたフィールドを表示します。この情報を管理者やプロジェクトエンジニアに渡します。これにより、対応するアプリの設定または HMI デバイスの設定に変更を加えて、[Flash memory life time reducing fast]アラームが表示されないようにすることができます。
- [Reset alarm]:定期的に発生する[Flash memory life time reducing fast]アラームを無効にするボタン。このボタンは、[Control Panel Administrator]権限を持つユーザーのみが操作できます。このボタンを押すと、[Flash memory life time reducing fast]アラームは、次の周期的チェックがフラッシュメモリの高負荷を引き起こすときのみ再度表示されます。

5.3.7 Taskbar

[Taskbar]で、タスクバーが HMI デバイスで表示されるかどうか、および表示される位置を指定します。

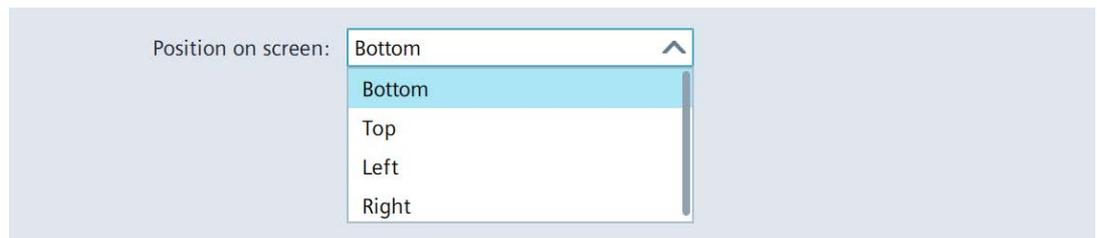


General Settings

Enable taskbar

[Enable taskbar]:タスクバーを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は [有効] です。

Position of taskbar



[Position on screen]:画面のタスクバーの位置を指定するドロップダウンリストです。ドロップダウンリストは、[Enable taskbar]オプションが指定されているときのみ有効になります。

選択オプション:

- [Bottom]:タスクバーは、画面の一番下に表示されます。
- [Top]:タスクバーは、画面の一番上に表示されます。
- [Left]:タスクバーは、画面の左端に表示されます。
- [Right]:タスクバーは、画面の右端に表示されます。

初期設定は、[Bottom]です。

5.3.8 Event Logger

[Event Logger]機能により、記憶媒体で完全なランタイムオペレーティングシナリオを記録するオプションが提供されます。



記録済みのデータには、すべての「トレース」情報、画面の内容、画面の変更、オペレータのアクションが含まれます。テクニカルサポートでエラーの原因を分析するときなどに、記録済みのデータを使用できます。

General Settings



- [Enable Event logger]:[Event Logger]機能を有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
- [Storage Medium]:記録済みのデータが保存される記憶媒体(USB 記憶媒体または SD カード)。

記録の開始および停止

1. HMI デバイスへ外部記憶媒体を接続します。

注記

[Event Logger]機能を有効にする前に、外部記憶媒体を HMI デバイスに接続する必要があります。

2. [Storage Medium]から、記録用記憶媒体を選択します。
3. [Enable Event logger]オプションを選択します。
メッセージが、ランタイムの再起動が必要であることを、ユーザーに通知します。
4. HMI デバイスでプロジェクトをまだ実行中である場合、ランタイムを閉じます。
5. ランタイムを起動します。以下のデータが記録に含まれています:
 - すべての「トレース」情報
 - すべての画面の内容と画面の変更
 - すべてのオペレータアクション

記録済みのデータは、記憶媒体のルートディレクトリのファイルに暗号化されて保存されます。

記録のファイル名の構文: 「telemetry_<date>_<time>_<id>」

- <date>: 「yyyymmdd」(年、月、日)の形式の日付
- <time>: 「hhmmss」(時間、分、秒)の形式の時間
- <id>:記録のための一意の数字

記録されるデータ量によっては、記録は複数のファイルで構成されることがあります。

記憶媒体の容量が記録のために不十分である場合、記録は終了されます。記憶媒体に空き容量が十分あることを確認してください。

6. 記録を停止するには、[Enable Event logger]オプションを選択解除します。

別の記憶媒体への切り替え

複数の記憶媒体が HMI デバイ스에接続されていて、別の記憶媒体で記録を続行する場合、次のように進んでください:

1. [Enable Event logger]オプションをクリアします。
2. [Storage Medium]で別の記憶媒体を選択します。
3. [Enable Event logger]オプションを選択します。
4. ランタイムを起動します。

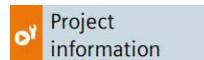
下記も参照

Trace forwarder (ページ 136)

5.4 Runtime Properties

5.4.1 Project information

[Project information]で、HMI デバイ스에서プロジェクトを一意に識別するプロジェクト固有の情報を表示できます。



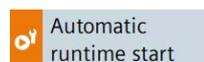
Project information

Name:	Line 1 Station 1
Device name:	HMI_RT_1
Project ID:	fc949e4a-aaf1-493d-8d6e-01e9883052ae

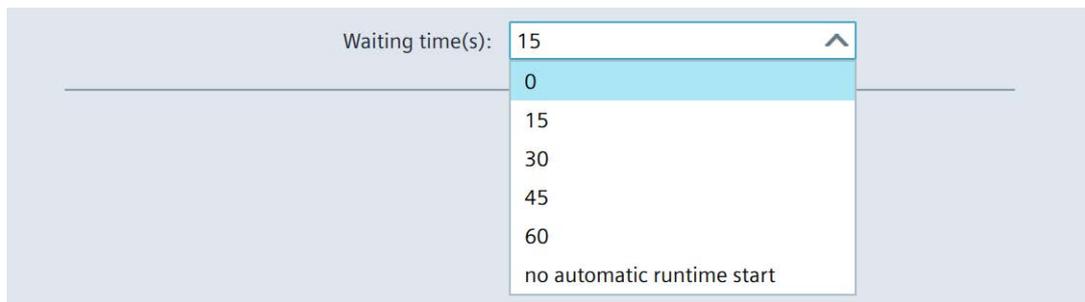
- [Name]:プロジェクトの名前は、WinCC (TIA Portal)のプロジェクト名と同一です。
- [Device name]:HMI デバイ스에서ランタイムプロジェクトに対して自動生成された名前です。
- [Project ID]:ランタイムプロジェクトの一意の識別情報は、WinCC (TIA Portal)の[ランタイム ID]と同一です。

5.4.2 Automatic runtime start

[Automatic runtime start]で、定義された遅延時間後に、HMI デバイ스에서プロジェクトが自動的に起動されるかどうかを設定します。



Automatic runtime start



[Waiting time(s)]:定義された遅延時間後に、HMI デバイスでプロジェクトが自動的に起動されるかどうかを決定するドロップダウンリスト。

選択オプション:

- [0]:オペレーティングシステムの後直接プロジェクトが起動されます。
- [15]~[60]:15~60 秒の遅延時間後にプロジェクトが起動されます。遅延時間中、カウントダウンと次のボタンとともにダイアログ[Runtime Start]が表示されます。
 - [Cancel]:ダイアログが閉じ、ランタイムは起動しません。
 - [Skip]:遅延時間がスキップされ、ランタイムが起動します。
- [no automatic runtime start](初期設定):プロジェクトは自動的に開始されませんが、[コントロールパネル]の[Start Runtime]ボタンで起動できます。

ランタイムの始動

ランタイムが HMI デバイスで起動している間、ダイアログボックス[Runtime Start]が初期化メッセージとともに表示されます。ランタイム始動中は、コントロールパネルを操作できません。

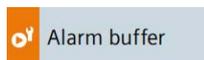
注記

プロジェクトが起動されていると、[コントロールパネル]を開くための次のオプションを使用できます。

- タスクバー (ページ 65)の使用。
- [ShowControlPanel]または[StopRuntime]機能が設定されている操作エレメントの使用。

5.4.3 Alarm buffer

[Alarm buffer]で、保持型アラームバッファを有効化または無効化できます。デフォルト設定は、[無効]です。



注記**保持型を無効にする前にデータのバックアップを取る**

メッセージバッファの保持型アドレスエリアを無効にしたが、メッセージバッファでデータを必要とする場合、ログで保持型アドレスエリアを無効にする前にこのデータをバックアップしてください。

Alarm buffer configuration

- [Storage media]:保持型アラームバッファの記憶媒体を定義するための選択リスト。選択オプション:
 - [Internal Memory]:内部フラッシュメモリに書き込まれるアラーム。
- [Enable alarm buffer]:保持型アラームバッファを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は、[無効]です。

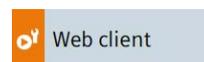
アラームバッファの保持が有効化されると、保持型アラームデータが選択された記憶媒体に2秒ごとにバックアップされます。アラームの数が多いと、その記憶媒体の読み取り/書き込みサイクルの回数が同じように高くなります。

メッセージバッファの保持型アドレスエリアが無効の場合、メッセージバッファは空になり、保持型アラームデータが選択された記憶媒体にバックアップされなくなります。これは、アラーム数が多いときに、記憶媒体があまり使用されなくなることを意味します。

[Enable alarm buffer]オプションの切り替えには再起動が必要です。[Enable alarm buffer]ダイアログが表示されます。[OK]ボタンを使用してシステムを再起動します。

5.4.4 Web client

[Web client]で、ランタイムプロジェクトへのWebベースのクライアントアクセスを有効にできます。クライアント経由のランタイムのオペレータ制御は同期されていません。つまり、サーバーの表示コンテンツは、クライアントがランタイムで操作されている間は変更されません。

**Web client configuration**

- [Enable web access to runtime]:ランタイムプロジェクトへのWebアクセスを有効にするオプションです。

ランタイムプロジェクトへの Web アクセス

Web アクセスが有効にされていると、ブラウザ経由でランタイムプロジェクトにアクセスできます。「HMI デバイスへの Web アクセス (ページ 71)」セクションを参照してください。

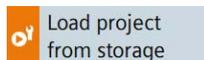
[Web client]経由のリモートアクセスに関する詳細については、下記の TIA 情報システムを参照してください。「可視化プロセス(RT Unified)」 > 「リモートアクセスの設定」 > 「Web クライアント」。

5.4.5 Load project from storage

[Load project from storage]で、WinCC (TIA Portal)の外部記憶媒体にバックアップされているプロジェクトを HMI デバイスに読み込むことができます。

HMI デバイスを設定してから、ドラッグアンドドロップを使用して HMI デバイスのフォルダ(例、「HMI_1」 [<DeviceType>])を[カードリーダー/USB メモリ]の下にある外部記憶媒体(📁アイコン)に移動することで、必要なプロジェクトデータを WinCC で生成します。

推奨事項:プロジェクトのランタイムバージョンおよびファームウェアバージョンは、HMI デバイスのバージョンと一致している必要があります。



Select storage media for project transfer



バックアップされたプロジェクトが保存されている記憶媒体を選択します。

Projects on external storage

Project Name	Device Type	RT Version
HMI_RT_1[Line 1 Station 1]...	MTP1500 Unified Comfort	18.0.0.0
HMI_RT_1[Line 1 Station 2]...	MTP1900 Unified Comfort	18.0.0.1
HMI_RT_1[Line 2 Station 1]...	MTP2200 Unified Comfort	18.0.1.1

Show details Load project

- 外部記憶媒体にあるすべてのプロジェクトが一覧に含まれます。
- [Show details]:選択されたプロジェクトの追加情報を表示するためのボタンです。
- [Load project]:選択されたプロジェクトを読み込むためのボタンです。

詳細表示および互換性確認

プロジェクトを選択した場合、[Show details]ボタンを使用して選択されたプロジェクトに関する詳細情報を表示し、そのプロジェクトが HMI デバイスに読み込み可能かどうかを確認できます。

Project details	
Name:	Line 1 Station 1
Device:	HMI_RT_1
RT Version:	18.0.0.0
Project path:	/media/simatic/X61/Simatic.HMI/RT_Projects/HMI_RT_1[Line 1 Station 1] - Full 2022-11-22 - 11.11.11.zip
Project ID:	fc949e4a-aaf1-493d-8d6e-01e9883052ae
Date created:	22/11/2022 11:11:11
Size:	4419 Kbs
Compatibility:	Compatible
Close	

- [Name]:プロジェクトの名前。
- [Device]:プロジェクトでの HMI デバイスの名前。
- [RT Version]:プロジェクトのランタイムバージョン。
- [Project path]:外部記憶媒体でのプロジェクトのパス。
- [Project ID]:ランタイムプロジェクトの一意の識別情報は、WinCC (TIA Portal)の[ランタイム ID]と同一です。
- [Date created]:WinCC (TIA Portal)のプロジェクトが記憶媒体に保存された日付。
- [Size]:記憶媒体でのプロジェクトのサイズ。
- [Compatibility]:プロジェクトの互換性に関するメッセージ。HMI デバイスはこの出力フィールドに表示されます。互換性の程度に応じて、メッセージが色分けされず。

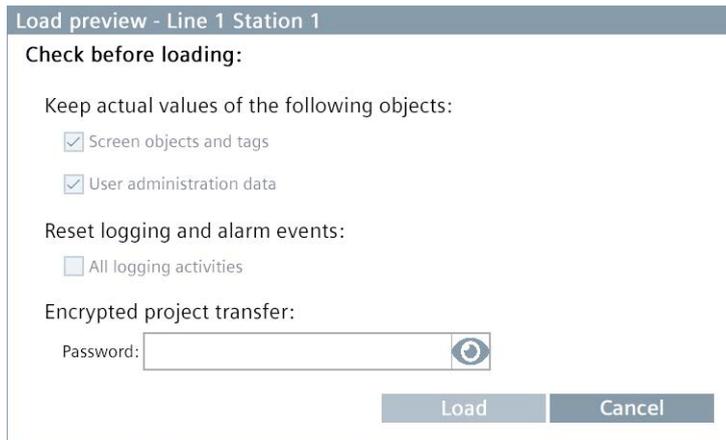
次のメッセージが[Compatibility]出力フィールドに表示されることがあります。

- メッセージ[Compatible]:プロジェクトおよび HMI デバイスに互換性があります。プロジェクトは問題なく読み込むことができます。
- [警告]タイプのメッセージはオレンジ色に強調表示されます:プロジェクトおよび HMI デバイスのファームウェアおよび/またはランタイムバージョンが異なります。それらのバージョンには互換性があります。[Upgrade]または[Downgrade]はオプションです。プロジェクトを読み込むことができます。
- [エラー]タイプのメッセージは赤色に強調表示されます:下記のいずれかの理由で、プロジェクトを読み込むことができません。
 - プロジェクトおよびデバイスタイプに互換性がありません。例えば、プロジェクトが異なるデバイスタイプに対して作成されました。プロジェクトを読み込むには、WinCC のデバイスを交換します。
 - プロジェクトおよび HMI デバイスのファームウェアおよび/またはランタイムバージョンに互換性がありません。[Upgrade]または[Downgrade]が必要です。プロジェクトを読み込むには、HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新します。

オペレーティングシステムの更新に関する情報は、このセクションの末尾および「参照項目」を参照してください。

プロジェクトの読み込み

[Load preview]ダイアログが[Load project]ボタンによって表示されます。



- [Keep actual values of the following objects]で、次のオブジェクトのプロセス値が保持されるかどうかを指定します。
 - [Screen objects and tags]:HMI デバイスの画面オブジェクトおよびタグのプロセス値を保持するオプションです。
 - [User administration data]:HMI デバイスのユーザー管理を保持するオプションです。

[Reset logging and alarm events]で、ログおよびアラームイベントのデータが削除されるかどうかを指定します。

- [All logging activities]:すべてのログおよびアラームイベントを削除するためのオプションです。

[Encrypted project transfer]領域は、選択されたプロジェクトに対して、暗号化された転送が有効なときに表示されます。この場合、暗号化された転送に対して WinCC で設定されたパスワードを入力します。

- [Load]ボタンによって、選択された設定を考慮に入れて、プロジェクトが HMI デバイスに読み込まれます。

読み込みプロセス後、HMI デバイスで[Start Runtime]機能を使用してプロジェクトを起動できます。

現在グレイ表示されているオプションの有効化は、今後のファームウェアバージョンで想定されています。

下記も参照

Update OS (ページ 125)

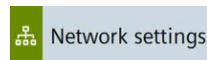
オペレーティングシステムの更新 (ページ 155)

5.5 Network and Internet

5.5.1 Network settings

5.5.1.1 概要

[Network settings]で、ネットワークおよびネットワークインターフェース X1 と X2 の設定を変更します。両方のインターフェースは、PROFINET 基本サービスをサポートしています。



次のボタンによって、対応する設定に移動されます。



- [PN-X1]:X1 インターフェースの設定 (ページ 97)
- [PN-X2]:X2 インターフェースの設定 (ページ 99)
- [General]:全般設定 (ページ 101)

[Network settings]の設定は、オペレーティングシステムの再起動や更新後に保持されます。

次の場合、[Network settings]の設定は保持されません。

- HMI デバイスが出荷時設定にリセットされた場合、すべての設定が初期設定にリセットされます。
- 変更されたネットワーク設定を使用するプロジェクトを HMI デバイスに読み込むとき、プロジェクトからの値が適用されます。

5.5.1.2 PN-X1

[PN-X1]で、X1 インターフェースおよび X1P1 と X1P2 コネクタの両方のパラメータを設定します。



PROFINET

Device name:	<input type="text" value="mtp1500.x1"/>
Converted name:	<input type="text" value="mtp1500.x1"/>
MAC address:	<input type="text" value="08-00-06-00-02-b0"/>

- [Device name]:このインターフェースの PROFINET 名には、スペースは含まれていてはならず、ローカルネットワークで一意である必要があります。

5.5 Network and Internet

- [Converted name]:このインターフェースの PROFINET 名のある表示フィールドには、[Device name]にエントリが含まれ、PROFINET の名前表記規則に基づいて自動的に変換されます。
- [MAC address]:HMI デバイスの X1 インターフェースの MAC アドレスの含まれるフィールドを表示します。

IP address

- [Specify an IP address]:IP アドレスを手動で割り付けるオプション。
- [IP address]:X1P1 および X1P2 ポートの X1 インターフェースの IP アドレス。IP アドレスはローカルネットワーク内で一意でなければなりません。これに当てはまらない場合、HMI デバイスの IP アドレスは自動的に値「0.0.0.0」に設定されます。X1 および X2 インターフェースの IP アドレスは、異なるサブネットに配置されている必要があります。
- [Subnet mask]:X1 インターフェースの IP アドレスのサブネットマスク。
- [Default gateway]:複数の異なるローカルネットワークが使用される場合のゲートウェイの IP アドレス(ルータ)。
- [Set IP address]:指定された IP アドレスパラメータを保存するボタン。

Ethernet parameters Port 1、Ethernet Parameters Port 2

- [Activate this port for use]:X1P1 または X1P2 ポートを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は、[有効]です。
- [Mode and speed]:インターフェースの伝送タイプおよび伝送速度を選択するためのリスト。選択オプション: [Automatic](初期設定)または[100Mbps / FDx](100 Mbps、全二重)。初期設定の[Automatic]を使用することを推奨します。

- [Boundaries]:
 - [End of detection of accessible nodes]:使用可能なノードを検出するための DCP フレームは転送されません。このインターフェースを超えるノードは、もはやアクセスできません。
 - [End of topology discovery]:トポロジー検出用の LLDP フレームは転送されません。

[Ethernet parameters Port 1]および[Ethernet parameters Port 2]で変更を加えると再起動が必要です。[PROFINET Port Settings]ダイアログボックスが表示されます。[Restart]ボタンを使用してシステムを再起動します。

5.5.1.3 PN-X2

[PN-X2]で、X2 インターフェースのパラメータを設定します。



PROFINET

Device name:	<input type="text" value="mtp1500.x2"/>
Converted name:	<input type="text" value="mtp1500.x2"/>
MAC address:	<input type="text" value="08-00-06-00-00-b0"/>

- [Device name]:このインターフェースの PROFINET 名には、スペースは含まれていてはならず、ローカルネットワークで一意である必要があります。
- [Converted name]:このインターフェースの PROFINET 名のある表示フィールドには、[Device name]にエントリが含まれ、PROFINET の名前表記規則に基づいて自動的に変換されます。
- [MAC address]:HMI デバイスの X2 インターフェースの MAC アドレスの含まれるフィールドを表示します。

IP address

Obtain an IP address via DHCP
 Specify an IP address

IP address:	<input type="text" value="169.254.139.199"/>
Subnet mask:	<input type="text" value="255.255.0.0"/>
Default gateway:	<input type="text"/>

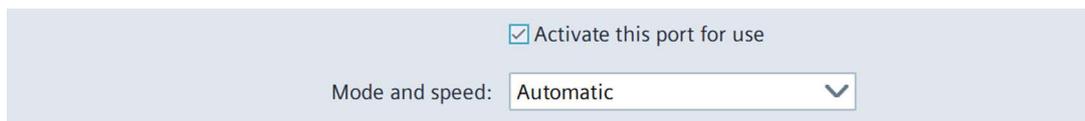
- [Obtain an IP address via DHCP](初期設定):DHCP サーバーを介して IP アドレスを自動的に割り付けるオプション。
- [Specify an IP address]:IP アドレスを手動で割り付けるオプション。

- [IP address]:X2 インターフェースの IP アドレス。IP アドレスはローカルネットワーク内で一意でなければなりません。X2 および X1 インターフェースの IP アドレスは、異なるサブネットに配置されている必要があります。
- [Subnet mask]:X2 インターフェースの IP アドレスのサブネットマスク。
- [Default gateway]:複数の異なるローカルネットワークが使用される場合のゲートウェイの IP アドレス(ルータ)。
- [Set IP address]:指定された IP アドレスパラメータを保存するボタン。

注記

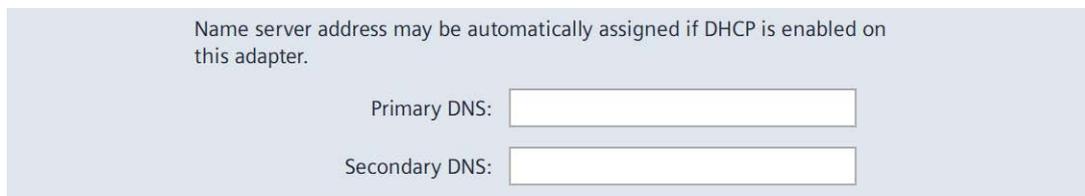
[Specify an IP address via DHCP]オプションを選択すると、プロジェクトが読み込まれたときに、この設定が上書きされません。[Specify an IP address]オプションを選択すると、WinCC デバイス設定のネットワークアドレスを設定し、それをプロジェクトと一緒に HMI デバイスに読み込むこともできます。

Ethernet parameters Port



- [Activate this port for use]:ポートを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は、[有効]です。
- [Mode and speed]:ポートの伝送タイプおよび伝送速度を選択するためのリスト。
選択オプション:
 - [Automatic](初期設定)
 - [10Mbps / HDX](10 Mbps、半多重)
 - [10Mbps / FDX](10 Mbps、全二重)
 - [100Mbps / HDX](100 Mbps、半多重)
 - [100Mbps / FDX](100 Mbps、全二重)初期設定の[Automatic]を使用することを推奨します。

Name servers



- [Primary DNS]:DNS サーバーのアドレス。
- [Secondary DNS]:セカンダリ DNS サーバーのアドレス。

[Obtain an IP address via DHCP]オプションを[IP address]で有効にすると、[Name servers]の仕様が選択可能になります。

5.5.1.4 General

[General]で一般的なネットワークパラメータを定義します。



General network settings

Enable simple network management protocol (SNMP)

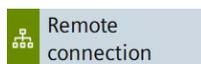
- [Enable simple network management protocol (SNMP)]:データ転送のために簡易ネットワーク管理プロトコルポートを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は[有効]です。

注記

このオプションを無効にすると、ネットワークで他のデバイスとやり取りする情報が少なくなるため、情報セキュリティが向上します。

5.5.2 Remote connection

[Remote connection]で、HMI デバイスへのリモートアクセスの設定を変更します。リモートアクセスに対して2つのパスワードを設定できます。例えば、[操作]権限に対して1つのパスワード、[モニタ]権限に対して1つのパスワードを設定します。コントロールパネルまたはランタイムでのオペレータ制御は同期されています。つまり、サーバーの表示コンテンツは、クライアントのコンテンツの表示が変更されたときに同時に変更されます。



設定を変更するとすべてのクライアント接続が切断されるため、SmartServer に接続しているクライアントがない場合のみ[Remote connection]の設定を変更します。

Smart Server

Enable Smart Server

[Enable Smart Server]:HMI デバイスの SmartServer を有効化または無効化するオプション。初期設定は、[無効]です。このオプションは、[Users]で、2つの異なるパスワードが設定されている場合にのみ有効にできます。

SmartServer が HMI デバイス上で起動されると、SmartClient アプリケーションまたは Tigervnc などの VNC クライアントを介して HMI デバイスにアクセスできるようになります。[Users]の設定に応じて、クライアントはサーバーデバイスの操作またはモニタを行うことができます。

注記

接続の帯域幅および接続されているクライアントの数に応じて、クライアントのパフォーマンスが SmartServer のパフォーマンスと異なってくる場合があります。

SmartServer に接続し、ランタイムプロジェクトを操作またはモニタする各クライアントは、SmartServer デバイスのリソースを使用します。リソースのパフォーマンス向上および消費の低減のため、同時に SmartServer に接続されているクライアント数をできるだけ少なくする必要があります。

Users

この領域では、2人のユーザーに対してパスワードとアクセス権を定義します。2人のユーザーのパスワードを同じにしてはなりません。複数のユーザーは、1つのパスワードを使用して同時に SmartServer にアクセスできます。

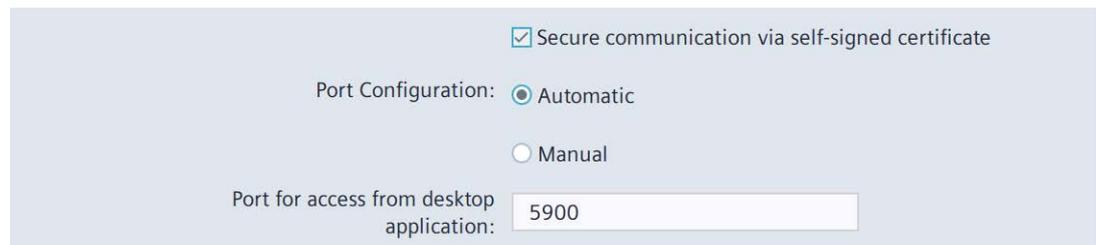
- [Password for user1]:HMI デバイスへのアクセス用の最初のパスワード。初期設定: [空]。
 - [User1 is allowed to remote control the panel]:パスワード 1 を使用してログインしたユーザー用の[操作]権限を有効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
- [Password for user2]:HMI デバイスへのアクセス用の 2 番目のパスワード。パスワードは[Password for user1]と区別する必要があります。初期設定: [空]。
 - [User2 is allowed to remote control the panel]:パスワード 2 を使用してログインしたユーザー用の[操作]権限を有効にするオプション。初期設定は、[無効]です。

SmartServer のパスワードのガイドライン

[Users]のパスワードは、ちょうど 8 文字の長さであり、次の文字が含まれている必要があります。

- 大文字 1 文字以上(A~Z)
- 小文字 1 文字以上(a~z)
- 数字 1 文字以上(0~9)
- 特殊文字 1 文字以上(! \$ % & () * + , - . / : ; < = > ? @ [\] _ { | } ~ ^)

Communication



- [Secure communication via self-signed certificate]:SSL 暗号化を介した安全な通信を有効にするオプション。初期設定: [有効]。
クライアントアクセスは、クライアントアプリケーションが SSL 暗号化をサポートしている場合のみ可能になります。
SmartClient アプリケーションを介したアクセスの場合、このオプションは選択解除される必要があります。
- [Port Configuration]
 - [Automatic](初期設定):自動ポート割り付けを有効にするオプション。ポート番号の初期値[5900]は変更されないままになります。
 - [Manual]:手動ポート割り付けを有効にするオプション。
- [Port for access from desktop application]:SmartClient アプリケーションを介したアクセス用のポート番号。初期値は[5900]です。

5.5.3 Network drive

[Network drive]で、HMI デバイスがアクセスできるネットワークドライブを管理します。



ネットワークドライブは HMI デバイスのサブネットのサーバーPC に配置され、アクセスに対して有効にされている必要があります。サーバーPC のオペレーティングシステムは、ネットワークプロトコル SMB 3.0 をサポートする必要があります。

ネットワークドライブは、サーバーPC と HMI デバイスの間のデータ交換のみに対して使用できます。

これは、ネットワークドライブを次の機能などに使用できないことを意味します。

- オペレーティングシステムの更新、バックアップ、復元
- プロジェクトの転送
- ファイルからユーザー管理をインポートするか、ファイルへそれをエクスポート
- ログインやレポートなどのランタイム機能
- 証明書のインポート

Network Drive



Network Path	User Name	Local Path	Status

- 次の機能のある次のようなボタンがリストの上にあります:
 - [Add]:ネットワークドライブの追加
[Add]ボタンは、ネットワークドライブがリストに入力されるとすぐに無効になります。
 - [Edit]:ネットワークドライブのプロパティの編集
 - [Remove]:ネットワークドライブの切断
 - [Refresh]:ネットワークドライブのステータスの更新
[Status]列のエントリは約 60 秒間表示されます。[Refresh]機能を利用して、最新のステータス情報を再度インポートします。
- ネットワークドライブの次のプロパティがリストに表示されます:
 - [Network Path]:ネットワークドライブのパス
 - [User Name]:ネットワークドライブに接続するために使用されるユーザー名
 - [Local Path]:ネットワークドライブにアクセスするためのローカルパス。例えば、「/net/mount」。
 - [Status]:ネットワークドライブの接続ステータスの情報。セクションの最後にある「ステータスのアラーム」の段落を参照してください。

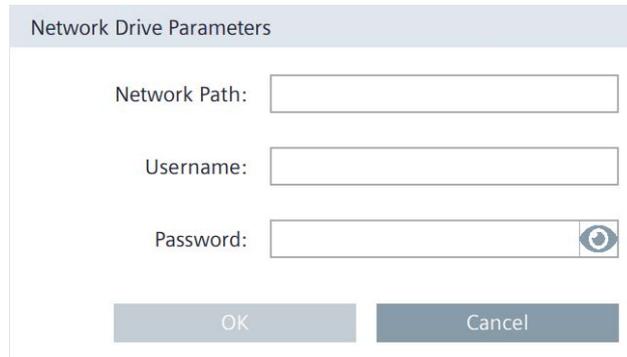
注記

[Reboot]と[Update OS]

ネットワークドライブは、HMI デバイスの再起動後に、リストに保持されます。オペレーティングシステムを更新する際、[Network Path]のエントリが保持されます。セキュリティの理由のため、[Username]と[Password]の認証情報を再度入力する必要があります。

ネットワークドライブの追加

1. [Add]を押して、[Network Drive Parameters]ダイアログを開きます。



The screenshot shows a dialog box titled "Network Drive Parameters". It has three text input fields: "Network Path:", "Username:", and "Password:". The "Password:" field has a small eye icon to its right, which is currently closed. At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "Cancel".

3つの入力フィールドの最大許容文字数は、255です。

入力フィールド[Network Path]と[Username]は必須フィールドです。次の文字をこれらの入力フィールドで使用できます：

- 大文字(A~Z)
- 小文字(a~z)
- 数字(0~9)
- 特殊文字(_.-)

特殊文字/を入力フィールド[Network Path]で使用できます。

特殊文字\を入力フィールド[Username]で使用できます。

入力フィールド[Password]には文字制限がありません。

2. [Network Path]で、HMI デバイスのサブネットの有効なネットワークドライブに対するパスを入力します。

構文: 「//<サーバーPCのIPアドレス>/<ネットワークドライブの有効名>」

例: 「//169.254.139.190/mounttest」

常にIPアドレスを使用してください。コンピュータ名の仕様はサポートされていません。

3. [Username]と[Password]に、ネットワークドライブにアクセスのあるユーザーの認証情報を入力してください。

次のボタンを使用して、ダイアログが表示されている間、パスワードを可視状態で表示されるようにすることができます。



4. [OK]をクリックして、エントリを確定します。

[Network Drive Parameters]ダイアログボックスが閉じられます。

接続のセットアップに成功すると、[Connected]情報が[Network Drive]リストの[Status]列の下に表示されます。

接続のセットアップができなかった場合、[Failed]情報が[Status]の下に表示されます。この場合、サーバーPCへの接続、およびネットワークドライブの有効化プロパティを確認します。

ステータスメッセージ

次の表に、ステータスメッセージ、意味、およびエラー発生時に講じることができる対策を示します。

ステータスメッセージ	意味	対策
Connecting	ネットワークドライブへの接続を確立中です。	-
Connected	ネットワークドライブの接続に成功しました。	-
No such file or directory	[Network Path]で指定されているパスは存在しません。	指定したネットワークのパスが存在すること、そして入力フィールド [Network Path]のスペリングが正しいことを確認してください。
Authentication failed	認証情報が間違っています。	指定したユーザーがネットワークドライブにアクセスできることを確認してください。入力フィールド [Username] と [Password]のスペリングが正しいことを確認してください。
Input/Output error	ネットワークドライブに接続できません。	PC と HMI デバイス間の接続を確認してください。 ネットワークドライブへの接続を再度確立してください。
Timeout	追加されたネットワークドライブに同期の問題があります。	PC と HMI デバイス間の接続を確認してください。 [Edit]と[OK]で、ネットワークドライブへの接続を再試行してください。

5.6 Security

5.6.1 User management

[User management]で、便利なユーザー管理を使用できます。ユーザー管理は、WinCCで設定され、HMI デバイ스에 転送され、HMI デバイスで管理されます。

Web アクセスは、ユーザー管理に対しても使用できます。「HMI デバイスへの Web アクセス (ページ 71)」を参照してください。RFID 割り付けの機能は、Web アクセス経由では利用できないことに注意してください。

注記

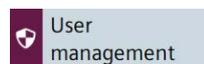
設定およびプロジェクト転送に関する重要な情報

- ユーザーに役割を割り付けていないか、設定に機能権限がない場合、ユーザーまたは役割はデバイスに読み込まれません。

WinCC では、HMI デバイスに必要な機能権限を持つ HMI デバイスに必要なすべての役割を設定します。HMI デバイスに必要な各役割を少なくとも 1 人のユーザーに割り付けます。

- WinCC から HMI デバイスにユーザー管理を転送するには、プロジェクト転送中 (ページ 149)に、[プレビューを読み込み]ダイアログボックスで、[ランタイムで現在のユーザー管理データを保持する]オプションを選択解除する必要があります。

設定に関する詳細情報は、[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定 (RT Unified)]にある TIA 情報システムで参照できます。



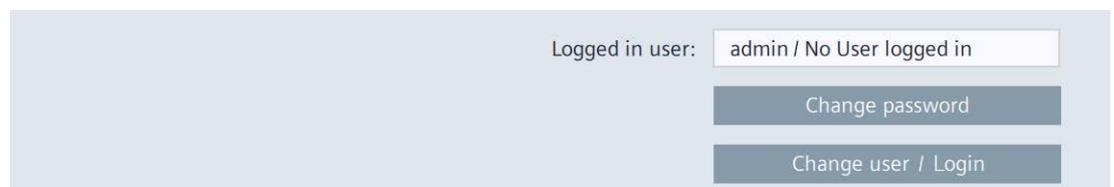
完全なユーザーリストは、設定で[ユーザー管理]機能権限が割り付けられているユーザーのみが表示し編集することができます。

他の機能権限のあるユーザーは、ユーザーリストの自分のエントリを表示し、[Current user]領域のボタンのみ使用すること。

パスワード保護が[コントロールパネル]に対して有効にされていると、[コントロールパネルアクセス]機能権限のあるユーザーのみが[コントロールパネル]にアクセスできます。

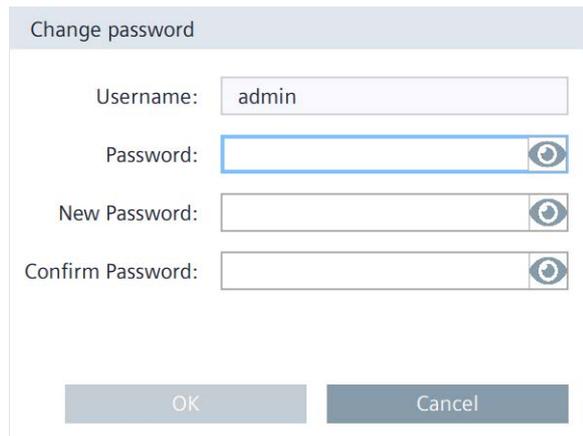
設定中にパスワードガイドラインが指定されます。ユーザーの機能権限は、コントロールパネルおよびランタイムソフトウェアに対して有効です。

Current user



- [Logged in user]:現在ログインしているユーザーのログイン名を表示します。ログインしているユーザーがまだいない場合、[No User logged in]が表示されます。
- [Change password]:現在ログインしているユーザーのパスワードを変更するためのボタン。

ボタンを押した後、[Change password]ダイアログが表示されます。



The image shows a 'Change password' dialog box. It has a title bar 'Change password'. Below the title bar, there are four input fields: 'Username:' with the value 'admin', 'Password:', 'New Password:', and 'Confirm Password:'. Each password field has a small eye icon to its right, indicating a toggle for visibility. At the bottom of the dialog, there are two buttons: 'OK' and 'Cancel'.

以前のパスワードを 1 回入力し、新しいパスワードを 2 回入力します。次のボタンを使用して、ダイアログボックスが表示されている間、パスワードを可視状態にすることができます。



- [Change user]:現在のユーザーを変更するためのボタン。

[Login]:ユーザーにログインするためのボタン。

ボタンを押した後、[User Login]ダイアログが表示されます。



The image shows a 'User Login' dialog box. The title bar says 'Access to control panel is restricted'. Below the title bar, it says 'Please enter user name and password to gain access:'. There are two input fields: 'Username:' and 'Password:'. The 'Password:' field has an eye icon to its right. At the bottom of the dialog, there are three buttons: 'Login', 'Change password', and 'Cancel'.

希望するログイン名を関連するパスワードと一緒に入力し、[Login]ボタンを使用してログインします。

注記

ログインの試行回数

ログインの試行回数は 19 回です。19 回目試行して失敗した後、次の試行ではユーザーの操作がロックされます。そのユーザーを削除し、再度作成するか、ユーザー管理を HMI デバイスに再ロードする必要があります。

ログイン資格情報を正しく入力していることを確認してください。

または、ユーザーに RFID ログインが割り当てられていれば、RFID カード経由でログインできます。RFID カードを RFID リーダーの直前にかざし、必要に応じて PIN を入力します。

Users

Name	Role	Maximum session tim...	RFID	PIN	Comment
dieter	HMI Administrator;HMI Operator	30 min	YES		
admin	HMI Administrator	30 min	YES	YES	
hans	HMI Operator	30 min			

- 次の機能のある次のようなボタンがユーザーリストの上にあります。

	新規ユーザーを作成します。
	リストで現在選択されているユーザーのデータを編集します。
	リストで現在選択されているユーザーのデータを削除します。
	リストで現在選択されているユーザーに RFID ログインを割り当てます。 ¹
	リストで現在選択されているユーザーの RFID 割り付けを削除します。 ¹
	完全なユーザー管理を外部記憶媒体の「.json」ファイルからインポートします。 ² 注記:インポートすると HMI デバイスのユーザー管理が完全に上書きされます。
	完全なユーザー管理を外部記憶媒体の「.json」ファイルにエクスポートします。 ²

¹ このボタンは、「ユーザー管理」機能権限がある場合のみ使用してください。

² ユーザー管理のインポートおよびエクスポートには、「ユーザー管理」機能権限が必要です。WinCC で設定可能な「ユーザーのインポートおよびエクスポート」機能権限は必要ありません。

- ユーザーリストは、HMI デバイスで使用可能なユーザーを次のユーザー特性を含めて表示します。
 - [Name]:ユーザーのログイン名。
 - [Role]:役割をユーザーに割り付けます。
 - [Maximum session timeout]:この値は、オペレータ操作を実行しない場合にユーザーが自動的にログオフするまでの分数を示します。
値の範囲:0 ~ 600 分 (0 = 自動ログアウト無効)。
 - [RFID]:ユーザーに RFID カードが割り当てられているかどうかの情報。[YES]の意味:RFID カードが割り当てられました。
 - [PIN]:ユーザーに RFID ログイン用の PIN が割り当てられているかどうかの情報。[YES]の意味:PIN が割り当てられました。
 - [Comment]:ユーザーのコメントテキスト。

注記

ユーザーとして自身を編集したり削除したりすることはできません。

「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーを 1 人以上 HMI デバイスに確実に残すため、ユーザーは自身を編集したり削除したりすることはできません。これを行うには、「ユーザー管理」機能権限を持つ 2 人目のユーザーが必要になります。

注記**Maximum session timeout**

エンジニアリングシステムでは、1つの役割および1人のユーザーに対する最大セッション期間を設定できます。これらの値が異なる場合、2つの値のうち小さいほうの値が読み込み中にパネルに転送されます。

ユーザーの作成または編集

編集機能は、設定で「ユーザー管理」機能権限が割り付けられているユーザーのみが使用することができます。

次のボタンを使用して新規ユーザーを作成します。



次のボタンを使用して、ユーザーのデータを編集します。



2つのボタンのいずれかを押すと、[Add user]ダイアログまたは[Edit user]ダイアログが開きます。両方のダイアログボックスの内容は同じです。

下記の図は、[Edit user]ダイアログボックスの例を示しています。

Edit user

Login user name:

Role: ▼

Password: 👁

Confirm password: 👁

Maximum session timeout:

Enable authentication via RFID card

PIN required for authentication with RFID card

PIN:

Comment:

- [Login user name]:ユーザーのログイン名を含むフィールドを表示します。
- [Role]:ユーザーを1つまたは複数の役割に割り付けるためのドロップダウンリスト。役割は、HMI デバイスの WinCC プロジェクトで定義され、該当する機能権限が割り付けられています。

次のシステム定義の役割は常に、HMI デバイ스에 転送されます:

役割の指定	[コントロールパネル]の認証	ランタイムにおける認証
HMI Operator	-	Web アクセス、操作、モニタ
HMI Monitor	-	Web アクセス、モニタ
HMI Monitor Client	-	Web アクセス、コントロール内のプロセスに影響を与えずにモニタ
HMI Administrator	ユーザー管理、ユーザーのインポートとエクスポート、コントロールパネルへのアクセス	リモートアクセス、モニタ、操作、Web アクセス

また、ドロップダウンリストには、WinCC プロジェクトから HMI デバイ스에 転送された設定済みの役割があります。

注記

HMI の役割「HMI Monitor Client」は、他のすべての役割およびその機能権限よりも優先されます。「HMI Monitor Client」の役割が割り当てられている場合、その役割の機能権限のみ取得します。ユーザーに割り当てられている他の役割の上位機能権限はすべて失われます。

TIA Portal 情報システムで、ユーザー、役割および機能権限に関する詳細な情報を参照できます。

- [Password]:ユーザーのパスワード用のテキストボックス。何も入力しないと、ユーザーの既存のパスワードが変更されずそのまま残ります。
- [Confirm password]:パスワードを確認するためのテキストボックス。
- [Maximum session timeout]:この値は、オペレータ操作を実行しない場合にユーザーが自動的にログオフするまでの分数を示します。
値の範囲:0~600分(0=自動ログアウト無効)。
- [Enable authentication via RFID card]:ユーザーの RFID ログインを有効にするオプション。
- [PIN required for authentication with RFID card]:RFID ログイン用の PIN を使用して 2 要素認証を有効にするオプション。
- [PIN]:PIN のテキストボックス。数字のみが許可され、最大長は 6 桁です。
- [Comment]:ユーザーの変更に関する注意事項。
- ユーザーを保存するための[Edit user]または[Add user]ボタン。
- [Cancel]:変更内容を破棄するためのボタン。

RFID ログインの特徴

RFID ログインに関連して、次の注意事項を考慮してください:

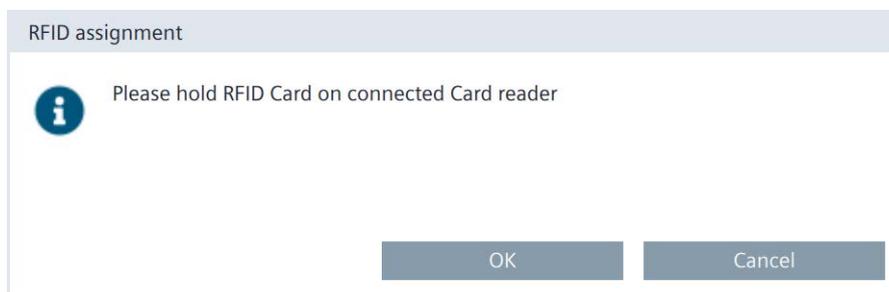
- RFID ログインは、HMI デバイスに直接接続されている RFID リーダーでのみ機能します。
- RFID ログインは、ローカルユーザー管理でのみ機能します。
- RFID ログインは、コントロールパネルとランタイムの両方で使用できます。
- プロジェクトのロード時に既存のユーザーが HMI デバイスに転送されると、オペレーティングシステムが更新された後でも、RFID 割り付けはそのまま残ります。

[Add new user]ダイアログ内の RFID 割り付け

1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. [ユーザーの作成]ボタンを押します。

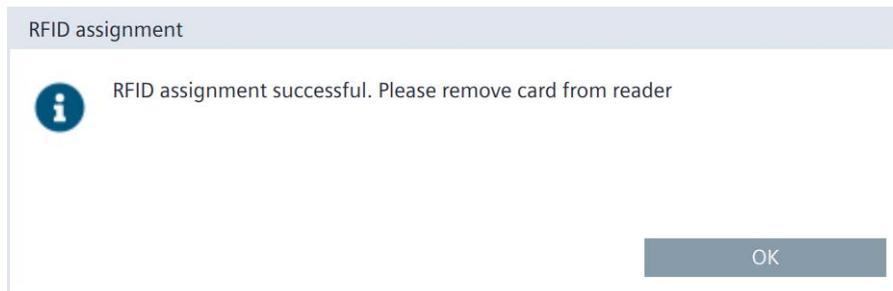


3. [Login user name]にユーザー名を入力します。
4. [Role]で、リストからユーザーの希望する認証を選択します。
5. [Password]および[Confirm password]にユーザーログイン用のパスワードを入力します。
6. 必要に応じて、[Maximum session timeout]で値を変更します。
7. [Enable authentication via RFID card]オプションを選択します。
8. PIN なしで RFID ログインを使用する場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションを無効にしておきます。
2 要素認証の場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションを選択し、1~6 桁のコードを[PIN]に入力します。
9. [OK]を選択します。以下のダイアログが表示されます:



10. [OK]を選択します。[OK]ボタンは色付きの背景で表示されます。
A blue rectangular button with the text 'OK' in white, representing the highlighted OK button in the dialog.
11. まだユーザーに割り当てられていない RFID カードを取得します。

12. 以下のダイアログが表示されるまで RFID カードを RFID リーダーの前にかざします。



13. RFID カードをリーダーから削除し、[OK]を選択します。

新しいユーザーが作成され、RFID ログインがユーザーに割り当てられました。ユーザーは、RFID カードを RFID リーダーの前にかざすだけでログインできます。

[Edit user]ダイアログを使用して RFID 割り付けを変更します。

ユーザーリストからユーザーの RFID 割り付けを変更するには、次の手順に従います：

1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. ユーザーリストでユーザーを選択します。
3. [ユーザーの編集]ボタンを押します。



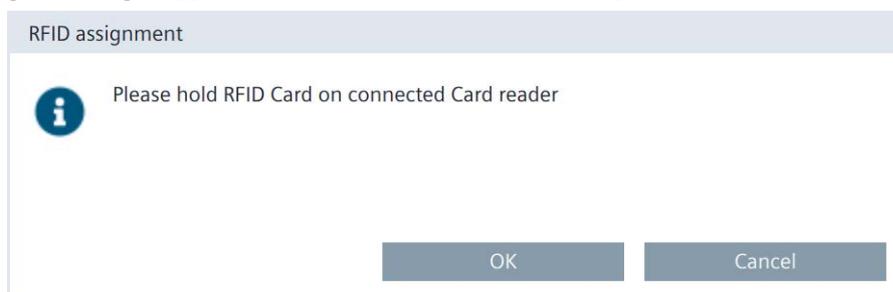
4. [Enable authentication via RFID card]オプションを有効または無効にします。
5. [Enable authentication via RFID card]オプションを有効にし、PIN なしで RFID ログインを使用する場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションは無効になります。2 要素認証の場合は、[PIN required for authentication with RFID card]オプションを選択し、1~6 桁のコードを[PIN]に入力します。

注記

PIN の変更

また、[PIN]テキストボックスを使用して、ユーザーの既存の PIN を変更します。

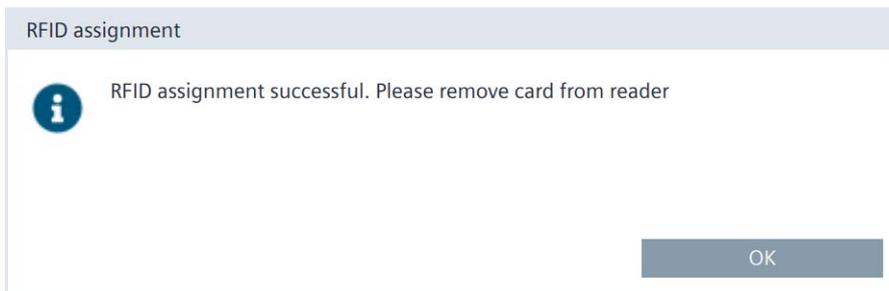
6. [Edit user]を選択します。以下のダイアログが表示されます：



7. [OK]を選択します。[OK]ボタンは色付きの背景で表示されます。



8. ユーザーに RFID ログインがまだ割り当てられていない場合は、まだユーザーに割り当てられていない RFID カードを取得します。
ユーザーに RFID ログインがすでに割り当てられている場合は、このユーザーの以前の RFID カードを取得します。
9. 以下のダイアログが表示されるまで RFID カードを RFID リーダーの前にかざします。



10. RFID カードをリーダーから削除し、[OK]を選択します。
ユーザーの RFID 割り付けが変更されました。

[RFID ログインの割り付け]ボタン

RFID 割り当てには、[RFID ログインの割り付け]ボタンも使用できます。このボタンは、RFID ログインがまだ割り当てられていないユーザーにのみ作動します。

以下のように実行します。

1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. RFID ログインがまだ割り当てられていないユーザーリストでユーザーを選択します。
3. [RFID ログインの割り付け]ボタンを押します。



[RFID assignment]ダイアログが表示されます。

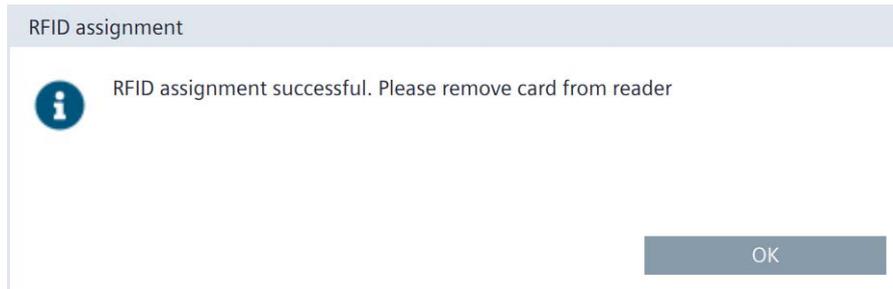


4. PIN なしで RFID ログインを使用する場合は、[PIN]テキストボックスを空白にしておきます。2 要素認証の場合は、1~6 桁のコードを[PIN]に入力します。
5. [OK]を選択します。[OK]ボタンは色付きの背景で表示されます。



6. まだユーザーに割り当てられていない RFID カードを取得します。

7. 以下のダイアログが表示されるまで RFID カードを RFID リーダーの前にかざします。



8. [OK]を選択します。

ユーザーに RFID ログインが割り当てられました。ユーザーは、RFID カードを RFID リーダーの前にかざすだけでログインできます。

「RFID 割り付けの削除」ボタン

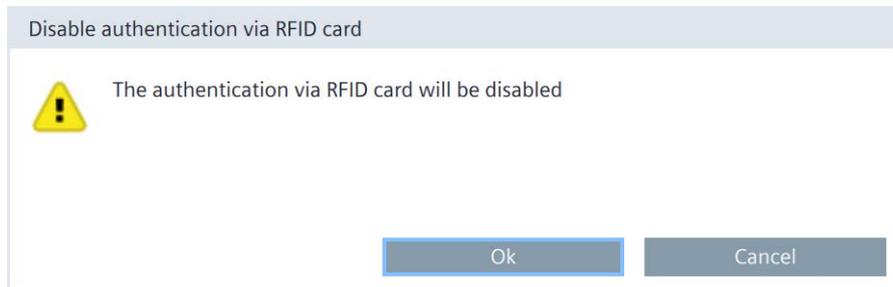
RFID 割り付けを削除するために、[RFID ログインの削除]ボタンも使用できます。このボタンは、RFID ログインが割り当てられたユーザーにのみ作動します。

以下のように実行します。

1. 「ユーザー管理」機能権限を持つユーザーとしてコントロールパネルでログインしていることを確認します。
2. RFID ログインが割り当てられているユーザーリストでユーザーを選択します。
3. [RFID 割り付けの削除]ボタンを押します。



[Disable authentication via RFID card]ダイアログボックスが表示されます。



4. [OK]を選択します。

ユーザーは、RFID カードでログインできなくなります。

5.6.2 Certificates

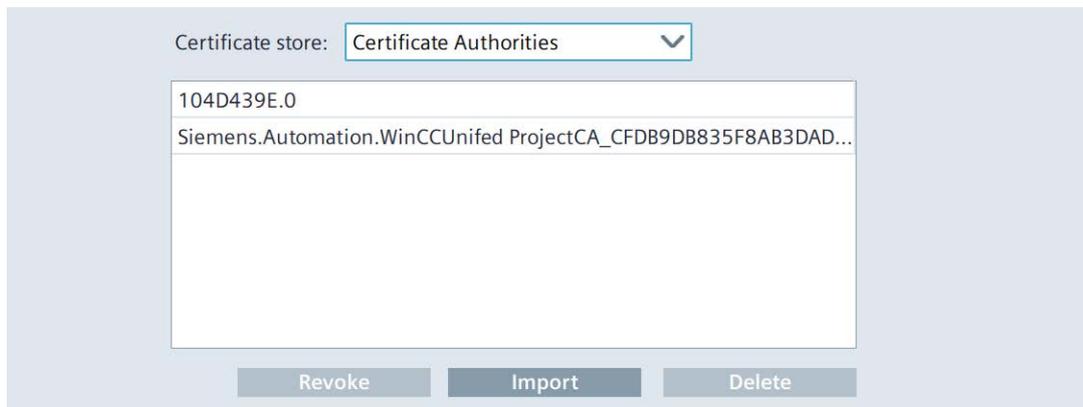
この機能を使用して、証明書および証明書取り消しリストをインポート、表示、および削除できます。



デジタル証明書は、所有権や他の公開鍵のプロパティを確認する構造化データで、構成されます。

証明書を取り扱うとき、産業セキュリティ (ページ 21) の情報に注意してください。

Certificates on the device



- [Certificate store]: 次の証明書カテゴリのドロップダウンリスト:
 - [Certificate Authorities]: 信頼済みのルート証明書機関および中間証明書機関。
 - [My Certificates]: HMI デバイスアプリケーションの証明書。ほとんどの場合、 OPC UA サーバーなどのサーバー証明書。
 - [Other Certificates]: 自己署名エンドエンティティ証明書および信頼済みエンドエンティティ証明書。
 - 証明書取り消しリストの [Certificate Revocation Lists]。
- 証明書リストは、選択されたカテゴリの証明書を表示します。
リストでエントリを選択する場合、証明書の [Certificate details] または証明書取り消しリストの [CRL details] がリストの下に表示されます。
- [Revoke]: 信頼できない証明書としてマークを付けるためのボタン。この機能は、 [Other Certificates] 証明書カテゴリでのみ使用可能です。
[Trust]: 信頼できる証明書としてマークを付けるためのボタン。この機能は、 [Other Certificates] 証明書カテゴリでのみ使用可能です。
- [Import]: データ記憶媒体から 1 つまたは複数の証明書をインポートするためのボタン。

注記

サポートされている証明書ファイル形式

インポート機能は、「.enc」、「.der」、「.crl」、「.pem」のタイプの証明書ファイルをサポートしています。

「.enc」のタイプのファイルは、「WinCC Unified Certificate Manager」からエクスポートされ、キー、証明書、CRL の集合を含んでいます。

個別の暗号ファイルをインポートする場合、CER や CRL のファイルに対してサポートされている形式は「.pem」や「.der」で終わります。個別のファイルには CA 証明書や CRL があり、拡張子「.der」、「.crl」、「.pem」があります。

[Import]ボタンを押した後に、[Import certificate]ダイアログが表示されます。



記憶媒体および証明書ファイルを選択し、[Import]ボタンを使用して証明書ファイルをインポートします。

[.enc]ファイル拡張子の付いた暗号化された証明書をインポートするとき、次の追加データを入力します。

- [Password]:証明書が生成されたときに指定された暗号化パスワード。
- [Iteration]:証明書が生成されたときに指定された反復カウント。
- [Delete]:証明書リストで現在選択されている証明書を削除するためのボタン。

注記

選択された証明書は、確認なしですぐに削除されます。

Certificate details

Certificate name	CA_STEP7
Status:	Trusted
Thumbprint:	43:88:F4:2F:DC:4C:DB:DC:DD:8E 1E:53:0D:76:C4:9E:84:DB:A6:C6
Valid from:	Oct 15 13:41:58 2020 GMT
Valid to:	Oct 12 13:41:58 2029 GMT
Issued to:	SecureHMICommunication
Issued by:	Siemens.Automation.STEP7_CA

- [Certificate name]:証明書の名前。
- [Status]:HMI デバイスの証明書のステータス([Trusted]または[Revoked])。この表示フィールドは、[Other Certificates]証明書カテゴリでのみ使用可能です。
- [Thumbprint]:証明書の信頼性を証明するための文字列。

5.6 Security

- [Valid from]:証明書の有効性の開始日。
- [Valid to]:証明書の有効性の終了日。
- [Issued to]:証明書の受信者。
- [Issued by]:証明書の発行者。

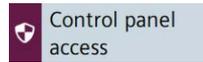
CRL details

CRL name	Siemens_Automation_CA_2019
Issuer:	Siemens Automation CA 2019
CRL number	3
Last update	Mar 29 00:00:00 2020 GMT
Next update	Mar 27 23:59:59 2029 GMT
Thumbprint:	9D:B2:1D:7A:E9:7A:70:29:BD:C3 49:22:7E:F9:0A:27:FC:4C:47:D9
CRL count	16

- [CRL name]:証明書取り消しリストの受信者。
- [Issuer]:証明書取り消しリストの発行者。
- [CRL number]:証明書取り消しリストの連続バージョン番号。
- [Last update]:この証明書取り消しリストの作成時刻。
- [Next update]:次の証明書取り消しリストの作成時刻。
- [Thumbprint]:証明書取り消しリストの信頼性を証明するための文字列。
- [CRL count]:証明書取り消しリストのエントリ数。

5.6.3 Control panel access

[Control panel access]で、[Control Panel]へのアクセスをパスワードで保護します。設定で[コントロールパネルアクセス]機能権限が割り付けられているユーザーのみがパスワード保護を変更することができます。



Control panel access

Enable password protection for control panel

- [Enable password protection for control panel]:[コントロールパネル]のパスワード保護を有効にするためのオプション。

パスワード保護は、設定で[コントロールパネルアクセス]機能権限が割り付けられているユーザーのみが有効化または無効化を行うことができます。

[コントロールパネルアクセス]機能権限を持つユーザーとしてログインしており、[Enable password protection for control panel]オプションを有効にしている場合、[Access to control panel is restricted]ダイアログが表示されます。

Access to control panel is restricted

Please enter user name and password to gain access:

Username:

Password:

[コントロールパネルアクセス]機能権限のあるユーザーとしてログインして、[コントロールパネル]のパスワード保護を有効にします。次のボタンを使用して、ダイアログが表示されている間、パスワードを可視状態で表示されるようにすることができます。



注記

ログインの試行回数

ログインの試行回数は 19 回です。19 回目試行して失敗した後、次の試行ではユーザーの操作がロックされます。そのユーザーを削除し、再度作成するか、ユーザー管理を HMI デバイスに再ロードする必要があります。

ログイン資格情報を正しく入力していることを確認してください。

または、ユーザーに RFID カードが割り当てられていれば、RFID カード経由でログインできます。RFID カードを RFID リーダーの直前にかざし、必要に応じて PIN を入力します。

注記

コントロールパネルのパスワード保護とプロジェクトの転送

コントロールパネルへのアクセスが保護されている場合、プロジェクトを再度転送する前に、ユーザー管理が TIA Portal で正しく設定されていることを確認する必要があります。これは次のことを意味します:

- [コントロールパネルへのアクセス]権限のあるユーザーが設定されています。
- 中央ユーザー管理が使用されていれば、UMC サーバーにアクセスするためのすべてのデータが正しく入力されています。

推奨事項:

- 再度読み込む前に、[Enable password protection for control panel]オプションを無効にしてください。
- 読み込んだ後に、[コントロールパネルへのアクセス]権限のあるユーザーがログインできることを確認してください。ログインできない状態の場合、ユーザー管理の設定を訂正してください。
- [Enable password protection for control panel]オプションを再度有効にします。

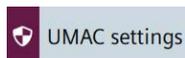
[コントロールパネルアクセス]機能権限を持つユーザーとしてログインしている場合、[Access to control panel is restricted]ダイアログが[コントロールパネル]にアクセスしているときに表示されなくなります。

ログインしていないか、[コントロールパネルアクセス]機能権限を持っていない場合、[Access to control panel is restricted]ダイアログが[コントロールパネル]にアクセスするときに表示されます。

[コントロールパネル]へのアクセスは、[コントロールパネル]で直接トリガするか、ランタイムソフトウェアのシステム機能によってトリガすることができます。

5.6.4 UMAC settings

[UMAC settings]で、HMI デバイスで、ローカルユーザー管理と中央ユーザー管理のいずれが使用されるかを確認できます。



ローカルまたは中央ユーザー管理は、WinCC で設定され、ダウンロードによって HMI に転送されます。

注記

WinCC でのみローカルユーザー管理と中央ユーザー管理を切り替えることができます。中央ユーザー管理を読み込むとき、HMI デバイスのすべてのローカルユーザーが削除されます。

RFID の割り付けは、ローカルユーザー管理の組み合わせの場合のみ使用できます。

Configuration of user management

- [Use local user management (users stored on this device)]:ローカルユーザー管理が使用される情報。このウィンドウのデータは編集できません。ユーザーは、[Security] > [User management]でローカルで管理されます。
- [Use central user management (users taken from server)]:中央ユーザー管理に使用される情報。接続設定は、WinCC で設定され、読み込み中にデバイスに転送されます。HMI デバイスの設定は、必要に応じて調整可能です。

中央ユーザー管理の接続設定の意味:

- [Server address]:UMC サーバーの IP アドレスまたはデバイス名。
- [Server-ID]:UMC サーバーを識別するための一意の文字列。サーバーID を手動で入力したり、接続設定中に自動で指定したりできます。
- [Generate address of identity provider automatically]:UMC サーバー上の ID プロバイダアドレスの自動生成オプション。デフォルト設定は「有効」です。UMC サーバーを使用せず、ID プロバイダとして別のサーバーを使用したい場合、このオプションを選択解除します。これは、例えば、サーバーファームを使用しているときに必要になることがあります。
- [Address of identity provider]:[Generate address of identity provider automatically]オプションで自動的に生成されたか、(必要に応じて)手動で入力された ID プロバイダのアドレス。
- [Connection status]:UMC サーバーへの接続ステータス。可能な値:
 - <空>:UMC サーバーへの接続がまだテストされていません。
 - [Connected]:UMC サーバーへの接続が確立されておらず、テストされていません。
 - [Not connected] - <エラーメッセージ>:UMC サーバーへの接続がありません。<エラーメッセージ>によって、考えられる原因に関する情報が提供されています。
 - [Connection not possible] - <エラーメッセージ>:UMC サーバーへの接続をセットアップできませんでした。<エラーメッセージ>によって、考えられる原因に関する情報が提供されています。

- [Check connection]:UMC サーバーへの接続を確認するためのボタン。
- [Connect to server]:UMC サーバーへの接続をセットアップするためのボタン。
- [Reset configuration]:接続設定を削除するためのボタン。

中央ユーザー管理への接続の確立

すべての接続設定が正しく構成され、プロジェクトと一緒に HMI デバイ스에 転送されると、HMI デバイスは中央ユーザー管理に自動的に接続されます。接続がまだ確認されていないため、[Connection status]で指定されている値はありません。接続を確認するためには、[Check connection]ボタンを押します。

中央ユーザー管理の構成が完了していないか、構成が正しくない場合、HMI デバイスで設定を修正することができます。[Connect to Server]ボタンを押して、デバイスを中央ユーザー管理に接続します。

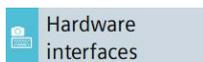
接続のセットアップに成功していると、[Connected]情報が[Connection status]の下に表示されます。[Connect to server]ボタンが[Check connection]に変わります。

詳細情報は、[可視化プロセス(RT Unified)] > [ユーザーおよび役割の設定(RT Unified)]にある TIA 情報システムで参照できます。

5.7 External Devices and Input

5.7.1 Hardware interfaces

[Hardware interfaces]で、記憶媒体インターフェースにアクセスするための設定を変更します。



1 つまたは複数のインターフェースを無効にして、HMI デバイスを未許可の外部アクセスから保護することができます。

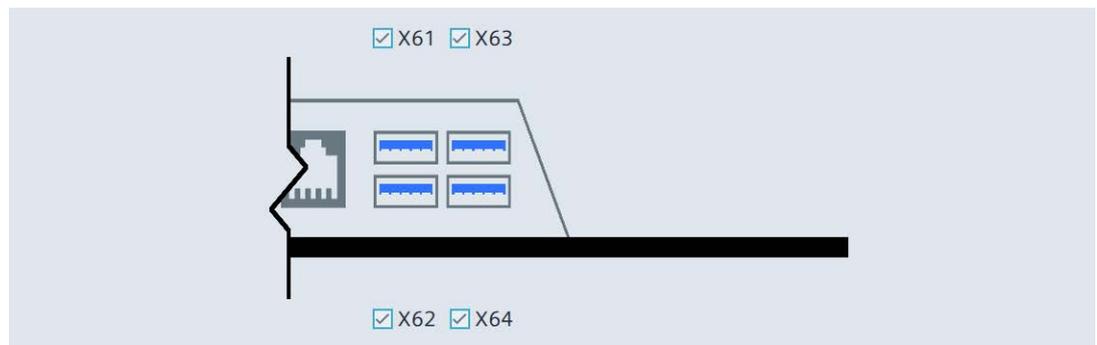
システムメモ리카ードのインターフェースは無効にできません。

Data memory card slot

Activate data memory card slot

- [Activate data memory card slot]:データメモ리카ードのインターフェースを有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は、[有効]です。

Activate USB ports

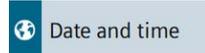


- [X61]:USB ポート X61 を有効化または無効化するオプション。
 - [X62]:USB ポート X62 を有効化または無効化するオプション。
 - [X63]:USB ポート X63 を有効化または無効化するオプション。
 - [X64]:USB ポート X64 を有効化または無効化するオプション。
- すべての USB ポートの初期設定は[有効]です。

5.8 Language, Region and Formats

5.8.1 Date and time

[Date and time]で、HMI デバイスの日付、時刻、およびタイムゾーンを手動で設定するか、ネットワークのタイムサーバーを介して設定します。



通知

日付および時刻を正しく設定する

日付および時刻が正しく設定されていないと、プラントで不具合が発生する可能性があります。不具合を避けるため、HMI デバイスおよび HMI デバイスに接続されているすべてのコントローラの日付と時刻を正しい値に設定するか、時刻同期用に NTP サーバーを使用します。オペレーティングシステムを更新した後は、毎回日付と時刻の設定が正しいか確認します。

通知

時間依存性の応答に必要な時間同期

日付および時刻が同期されていない状態で時間依存性の応答が HMI デバイスのプロセスセルでトリガされると、誤動作がプロセスセルで発生する可能性があります。誤動作を避けるため、1 つまたは複数の NTP サーバーを介して自動時間同期を使用します。

Date and time

Date:

Current Time:

Time zone:

Set date and time manually

Synchronize time with a NTP (Network Time Protocol) server

- [Date]:現在の日付を含むフィールドを表示します。
- [Current Time]:現在のクロック時刻を含むフィールドを表示します。
- [Time zone]:希望するタイムゾーンの選択リスト。

注記

自動夏時間/標準時間の自動切換え

夏時間と標準時間の切り替えが行われるタイムゾーンを選択すると、切り替えが関連の日に自動的に行われます。

- [Set date and time manually](初期設定):HMI デバイス上での手動時間設定のオプション。このオプションを選択すると、次のリストがオプションの下に表示されます。

19	August	2019	06	47
20	September	2020	07	48
21	October	2021	08	49
22	November	2022	09	50
23	December	2023	10	51
24	January	2024	11	52
25	February	2025	12	53

日、月、年および時刻を対応するリスト列をスクロールして設定し、リストの中央のフレーム行に適切な日付と時刻が表示されるようにします。[Set Date and Time]ボタンを使用して設定を保存します。

- [Synchronize time with a NTP (Network Time Protocol) server]:NTP サーバーを介した自動時間同期のためのオプション。このオプションを選択すると、NTP サーバーを介した時間同期を指定するための次のパラメータがオプションの下に表示されます。

Update rate: sec

Server 1

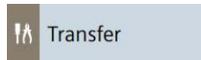
Address: 

希望する同期間隔を[Update rate]に入力します。値範囲は、10～86400 秒(1 日)です。入力後、内部フォーマットに基づいて、値は 2 乗の近似値に丸められます。
[Add Server]ボタンを使用して NTP サーバーを 1 つまたは最大で 4 つ追加します。各 NTP サーバーの IP アドレスを指定し、デバイスが NTP サーバーとしてセットアップされるようにします。

5.9 Service and Commissioning

5.9.1 Transfer

[Transfer]で、設定 PC から HMI デバイスにデータが転送されるか、および転送方法を定義します。



Transfer mode

Enable transfer

- [Enable transfer]:HMI デバイスへのデータ転送を有効化または無効化するオプション。デフォルト設定は[有効]です。
転送を無効にすると、HMI デバイスを、オペレーティングシステムの予期しない更新やプロジェクトデータの上書きから保護することができます。

Encrypted project transfer

A light blue rectangular form. At the top, the text "Password:" is followed by a white rectangular input field. Below the input field, on the right side, is a dark blue button with the text "Set Password" in white.

- [Password]:プロジェクトの暗号化転送用のパスワード。このパスワードは、HMI デバイスのランタイム設定の構成で指定されたパスワードと一致している必要があります。
パスワードを入力するには、エントリフィールドをタップします。
- [Set Password]:暗号化されたプロジェクト転送用のパスワードを保存するためのボタン。
代替オプションとして、プロジェクトの初回読み込み中に、パスワードを暗号化解除して転送することができます。

5.9.2 Update OS

HMI デバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされている WinCC ソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。

[Update OS]を使用して HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新します。オペレーティングシステムは複数のファームウェアファイルに含まれています。マスタファイルには、拡張子「.fwf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

[Update OS]機能は、[System Properties]および[Service and Commissioning]の両方で使用できます。



通知

オペレーティングシステムを更新すると、HMI デバイスのデータが削除されます。プロジェクト、パラメータセットおよびユーザー管理は、HMI デバイスでオペレーティングシステムを更新したときに削除されます。

オペレーティングシステムを更新する前に、必要に応じて、HMI デバイスのデータのバックアップを取ります。

オペレーティングシステムを更新する前に[コントロールパネル]で変更した次の設定以外のすべての設定内容は、オペレーティングシステムの更新後も保持されます。

- 外部インターフェースは再度有効にされます(初期設定)。「Hardware interfaces (ページ 122)」セクションを参照してください。
- タイムゾーンは初期設定[(UTC) Coordinated Universal Time]にリセットされます。「Date and time (ページ 123)」セクションを参照してください。
- 接続されているネットワークドライブの認証情報を再度入力する必要があります。「Network drive (ページ 103)」セクションを参照してください。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMI デバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

1. [自動バックアップ]機能を無効にします。
2. オペレーティングシステムを更新します。
3. [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードを HMI デバイスに挿入されたままにします。

32 GB 以上の SIMATIC SD memory card または工業用 USB フラッシュドライブを使用して、ファームウェアを読み込みます。

HMI デバイスのファームウェアファイルは、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109746530>) からダウンロードできます。ダウンロード内容に含まれている取扱説明書に従います。

注記

ファームウェアファイルの名前を変更しないでください。

ファームウェアファイルの名前を変更すると、オペレーティングシステムをこれらのファームウェアファイルを使用して更新できなくなります。ファームウェアファイルは使用不能になります。ファームウェアファイルの名前を変更しないでおきます。

注記

ファームウェアファイルを完全にコピーする

ファームウェアファイルをコピーする場合、マスタファイル「.fwf」とすべての関連ファームウェアファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

ファイルが欠けていると、オペレーティングシステムを読み込めなくなります。

[コントロールパネル]で[Update OS]機能を使用する別の方法として、WinCCで[Update OS]機能を使用できます。

Panel Information

Device type:	MTP1500 Unified Comfort
Image version:	V18.00.00.01_04.01

- [Device type]:HMI デバイスタイプ名称。
- [Image version]:ファームウェアおよびオペレーティングシステムのバージョン

Select storage media for OS update

X61 (Size:7.6 GB/Free:5.04 GB) ▼

選択リストを使用して、ファームウェアファイルが保存されている記憶媒体を選択します。

Firmware files on external storage

Name	Path	Image Version
UCP_7_22_V18_0.fwf	/media/simatic/data-s...	V18.00.00.00_04.01....

Update OS

- リストは、HMI デバイスに読み込み可能なすべてのファームウェアファイルを示しています。
リストから希望するファームウェアマスタファイル(.fwf)を選択します。
- [Update OS]:読み込みプロセスを開始するためのボタン。
[Update OS]ボタンを押すと、HMI デバイスが再起動されます。その後、読み込みプロセスが開始されます。
各ファームウェアファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが HMI デバイスに表示されます。
HMI デバイスは、読み込みプロセスが完了した後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。HMI デバイス上のオペレーティングシステムが更新されました。

5.9.3 Backup

[Backup]で、オペレーティングシステム、アプリケーションおよびデータを HMI デバイスのフラッシュメモリから外部記憶媒体にバックアップできます。



32 GB 以上の SIMATIC SD memory card または工業グレードの USB スティックを記憶媒体として使用します。

HMI デバイスのデータの量に応じて、バックアップには最大で 20 GB メモリが必要になることがあります。記憶媒体に十分な空き容量があることを確認してください。推奨事項:記憶媒体上に 5 GB 以上の空き容量。

HMI デバイスへのリモートアクセスは、バックアッププロセス中は行うことができません。

バックアッププロセス中は、HMI デバイスの電源を切らないでください。

Select storage media



データをバックアップする記憶媒体を選択します。

Complete backup file



File name:

- [File name]:バックアップの名前。バックアップ内容を最もよく表している名前を選択します。
バックアップには複数のファイルが含まれています。マスタファイルには、拡張子「.brf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。
- [Create backup]:バックアッププロセスを開始するためのボタン。
[Create backup]ボタンが押されると、システムは[File name]で指定された名前のバックアップが記憶媒体に存在するかどうかを確認します。存在する場合、警告が表示されます。[OK]を選択してバックアップを上書きするか、[Cancel]を選択してバックアップに別の名前を指定します。
バックアッププロセスは、HMI デバイスの再起動後に開始され、その後データバックアップが行われます。
データバックアップ中に、バックアップの名前の付いたフォルダが選択された記憶媒体のルートディレクトリに作成されます。バックアップファイルはこのフォルダに保存されます。進捗バーのあるダイアログが、各バックアップファイルに対して表示されます。
HMI デバイスは、バックアッププロセスの完了後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。
HMI デバイスのデータは、記憶媒体に保存されます。

注記

データ記憶媒体のバックアップファイルの名前を変更しないでください。
データ記憶媒体のバックアップファイルの名前を変更すると、これらのバックアップファイルは[Restore]機能を使用して HMI デバイスに読み込むことができなくなります。
データ格納媒体のバックアップファイルの名前を変更せずにそのままにしておきます。

注記

一式のバックアップファイルをすべてコピーする

バックアップファイルをコピーする場合、マスタファイル「.brf」とすべての関連バックアップファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

1 ファイルでも欠けていると、バックアップを読み込めなくなります。

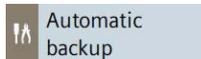
下記も参照

付属品 (ページ 16)

バックアップと復元 (ページ 152)

5.9.4 Automatic backup

[Automatic backup]で、[自動バックアップ]機能を有効化または無効化できます。



[自動バックアップ]機能を有効にするとき、HMI デバイスのデータは、操作中にシステムメモリカードに、ファームウェアを含むバックアップ形式で、自動的にバックアップされます。システムメモリカードのデータは、HMI デバイスのデータと恒久的に同期されます。システムメモリカードは、同じタイプの HMI デバイスであれば挿入できます。データがコピーされ再起動が完了した後、同一タイプの HMI デバイスが操作可能になります。

注記

システムメモリカードとして、**32 GB 以上の SIMATIC SD memory card** を使用します。32 GB 以上の SIMATIC SD memory card がシステムメモリカードとして使用することが許可されています。その他のメモリカードは、HMI デバイスによってシステムメモリカードとして認識されません。

注記

異なるタイプのデバイスに挿入されているシステムメモリカード

HMI デバイスのシステムメモリカードを異なるタイプの HMI デバイスで使用すると、エラーメッセージが表示されます。点検修理を行う場合は、必ず同じタイプの HMI デバイスのシステムメモリカードを使用してください。

通知

「自動バックアップ」用のシステムメモリカードを操作中に取り外さないでください。

[自動バックアップ]機能が有効になっている場合、システムメモリカードは HMI デバイスの電源が切られているときのみ取り外しできます。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMI デバイスが正しく再起動されないことがあります。

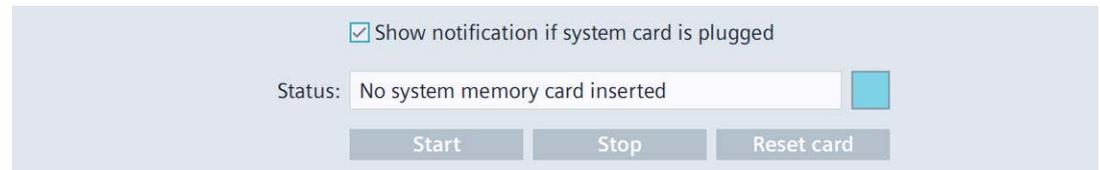
HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

1. [自動バックアップ]機能を無効にします。
2. オペレーティングシステムを更新します。
3. [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードを HMI デバイスに挿入されたままにします。

引渡しの状態のデバイスでは、[自動バックアップ]機能は無効になっています。
メモリカードをシステムメモリカードスロットに挿入すると、すぐに[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。[コントロールパネル]に進むには、[OK]をクリックします。そこで、新しいシステムメモリカードを有効にしたり、準備したシステムメモリカードからデータを復元できます。

Automatic backup



- [Show notification if system card is plugged]:自動メッセージ[System memory card plugged]を有効化または無効化するオプション。
- [Status]:スロット X50 のシステムメモリカードに関するステータス情報。
 - [No system memory card inserted]:スロット X50 にシステムメモリカードがありません。
 - [System memory card is invalid]:スロット X50 のシステムメモリカードがサポートされていないか、間違っってフォーマットされています。
 - [Backup on system memory card is not device compatible]:同一でない HMI デバイスまたは異なる HMI デバイスイメージを使用する HMI デバイスのシステムメモリカードがスロット X50 にあります。
 - [Ready for automatic backup]:スロット X50 に正しくフォーマットされた SIMATIC SD memory card があります。
 - [Starting automatic backup]:[Start]ボタンを押した後のステータスメッセージ。システムメモリカードが準備されます。
 - [Synchronizing data]:システムメモリカードの準備中のステータスメッセージ。
 - [Automatic backup active]:システムメモリカードの準備が完了したときのステータスメッセージ。[自動バックアップ]機能が正常に有効化されました。
 - [Resetting system memory card]:システムメモリカードがフォーマットされました。
- [Start]:[自動バックアップ]機能を有効化するためのボタン。
- [Stop]:[自動バックアップ]機能を無効にするためのボタン。
- [Reset card]:システムメモリカードをフォーマットするためのボタン。

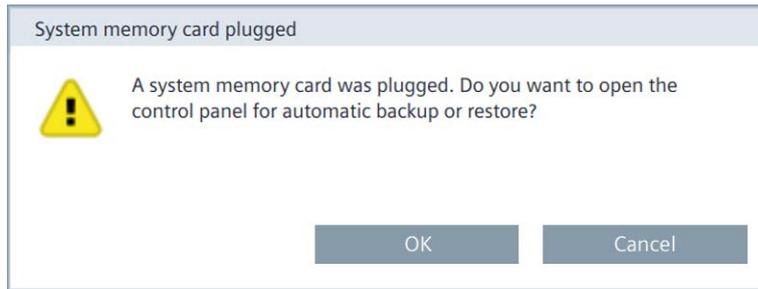
使用例

システムメモリカードが自動バックアップ用に以前に使用されていたかどうかに応じて、下記の使用例を区別しています。

空のシステムメモリカードに対する自動バックアップを有効にする

1. 自動的に保存されたデータの含まれていない SIMATIC SD memory card をスロット X50 に挿入します。

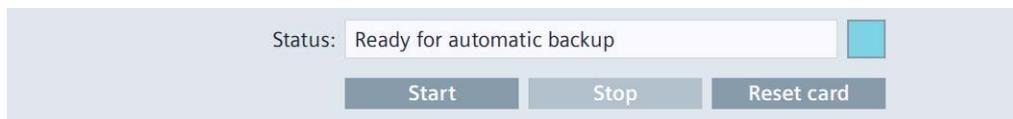
[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。



2. [OK]を押します。

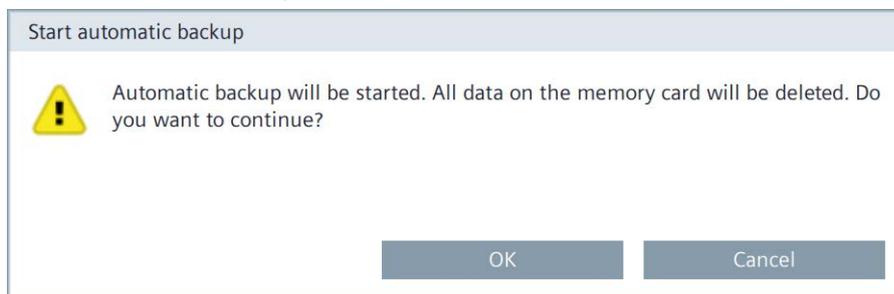
ウィンドウ[Service and Commissioning] > [Automatic backup]がコントロールパネルで開かれます。

[Ready for automatic backup]が[Status]フィールドに表示されます。



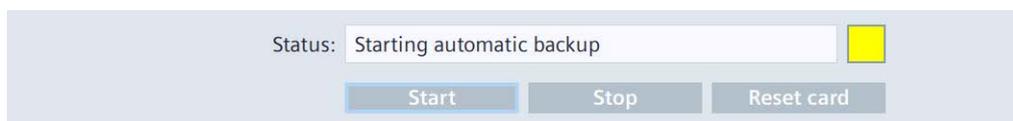
3. [Start]ボタンを押します。

[Start automatic backup]ダイアログボックスが表示されます。



4. [OK]を押します。

ステータスメッセージ[Starting automatic backup]が表示されます。システムメモリカードを準備しています。

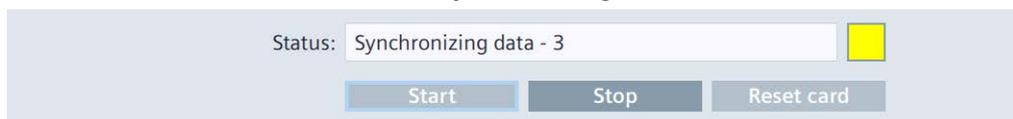


注記

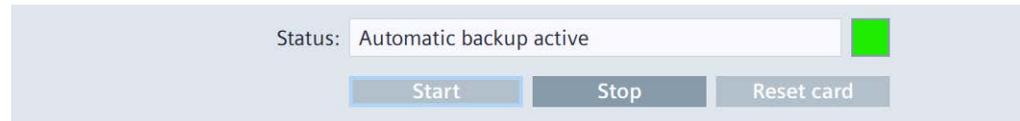
準備中にシステムメモリカードを取り外さないでください。

準備中にシステムメモリカードを HMI デバイスから取り外すと、システムメモリカードを自動バックアップに使用できなくなります。準備プロセス中は、スロットにシステムメモリカードを入れたままにします。

準備中に、ステータスメッセージ[Synchronizing data]が表示されます。



準備が完了すると、ステータスメッセージ[Automatic backup active]が表示されます。



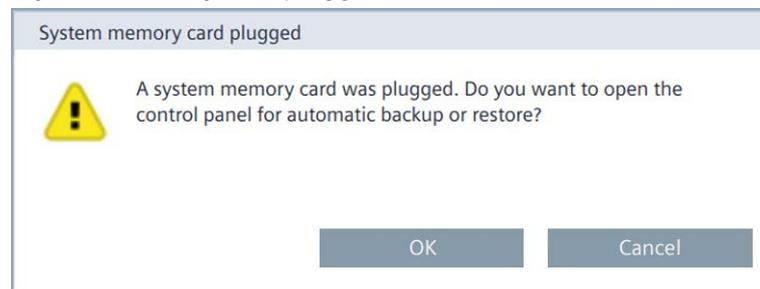
[自動バックアップ]機能が正常に有効化されました。

システムメモリーカードの自動バックアップの使用

システムメモリーカードに自動バックアップされたデータが既に含まれている場合、対応するバックアップをまず読み込む必要があります。その後で、自動バックアップを続行できます。

1. 自動的に保存されたデータが含まれている SIMATIC SD memory card をスロット X50 に挿入します。

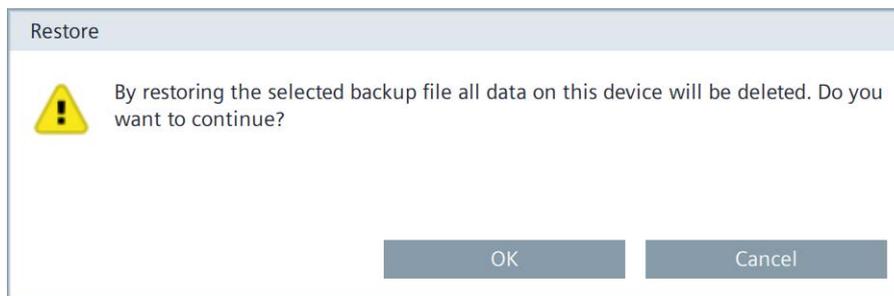
[System memory card plugged]ダイアログボックスが表示されます。



2. [OK]ボタンを押します。
ウィンドウ[Service and Commissioning] > [Restore]が[コントロールパネル]で開かれます。



3. バックアップファイルを選択し、[Restore]ボタンを押します。
次のダイアログボックスは、デバイスのすべてのデータが上書きされることを示しています。



4. [OK]ボタンを押して復元プロセスを開始するか、[Cancel]ボタンを押してプロセスをキャンセルします。

[OK]ボタンを押すと、HMI デバイスが再起動されます。その後、復元プロセスが開始されます。

復元プロセス中に、進捗状況バーがある[Automatic backup restore]ダイアログボックスが表示されます。

HMI デバイスは、復元プロセスの完了後に再度再起動されます。

[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。

データ転送後、HMI デバイスの状態は、自動バックアップを生成するのに使用された HMI デバイスの状態と同一になります。

HMI デバイスでの自動バックアップを続行するには、[コントロールパネル]の [Service and Commissioning] > [Automatic backup]で[自動バックアップ]機能を再度有効にします。

下記も参照

付属品 (ページ 16)

Backup (ページ 128)

メモ리카ードの交換 (ページ 70)

5.9.5 Restore

[Restore]で、記憶媒体から HMI デバイスのバックアップを復元できます。



HMI デバイスへのリモートアクセスは、復元プロセス中は行うことができません。

復元操作は、確認した上で、HMI デバイスのフラッシュメモリを削除します。次いで、記憶媒体にバックアップされたデータを転送します。

通知

データの損失

プロジェクトおよび HMI デバイスパスワードを含む HMI デバイスの全データは、復元操作時に削除されます。セキュリティに関するダイアログが表示された後にのみ、ライセンスキーが削除されます。

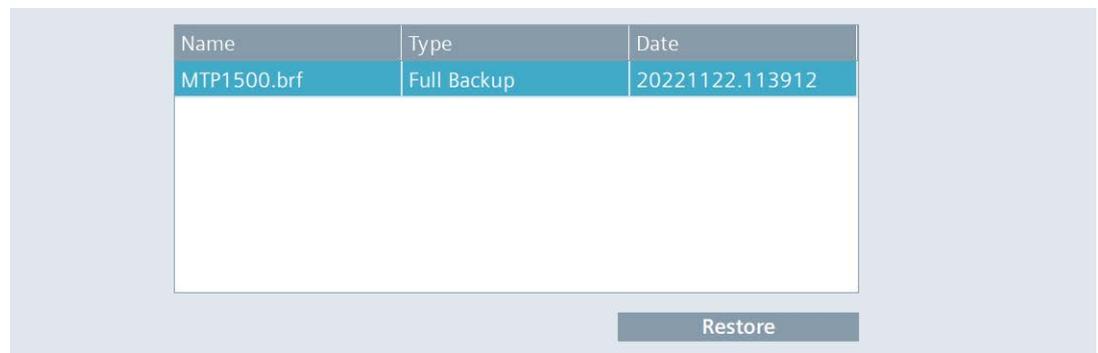
復元操作の前に、必要に応じて、データをバックアップします。

Select storage media



バックアップされたデータが保存されている記憶媒体を選択します。

Backup files



- このリストは、HMI デバイスに読み込み可能なすべてのバックアップを示しています。
このリストから希望するバックアップを選択します。
- [Restore]:復元プロセスを開始するためのボタン。
[Restore]ボタンを押すと、HMI デバイスが再起動されます。その後、復元プロセスが開始されます。
復元プロセス中は HMI デバイスの電源を切らないでください。データソースを HMI デバイスから切断しないでください。
復元プロセス中に、読み込まれている各バックアップファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが表示されます。
HMI デバイスは、復元プロセスの完了後に再度再起動されます。
[コントロールパネル]のメインウィンドウが、再起動後に表示されます。
これで、記憶媒体のデータが HMI デバイスに復元されました。

注記

プロセスが中断されたときのシステム動作

復元プロセスが電源故障やデータ接続の中断が原因を完了できない場合、例えば、HMI デバイスは保守モードで起動され、出荷時設定が復元される必要があります。

下記も参照

ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)

5.9.6 Trace forwarder

[Trace forwarder]で、トレース出力が表示されるかどうか、そして外部記憶媒体にバックアップされるかどうかを指定します。



Trace forwarder

- [Enable Trace forwarder]:[トレース]サービスを有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。
診断目的および整備目的で[トレース]を有効にして、例えば、スクリプトからトレース出力を表示します。保守モードで HMI デバイスを起動する場合、[トレース]機能は自動的に有効にされます。詳細については、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109777593>)のよくある質問エントリ 109777593 で参照できます。
- [Enable Trace logger]:外部記憶媒体に「トレース」情報をバックアップするオプション。初期設定は、[無効]です。
 - [Storage Medium]:「トレース」情報がバックアップされる記憶媒体。
 - [Select Path](オプション):「トレース」情報がバックアップされる場所へのパス。パスの名前は「/」で開始する必要があり、アルファベットのみを使用できません。次の特殊文字はいずれも使用できません
! # \$ % & () * + , ; < = > ? @ [] _ { | } ~ ^

注記

HMI デバイスが再起動すると、セキュリティ上の理由から両方のオプションが無効になります。

下記も参照

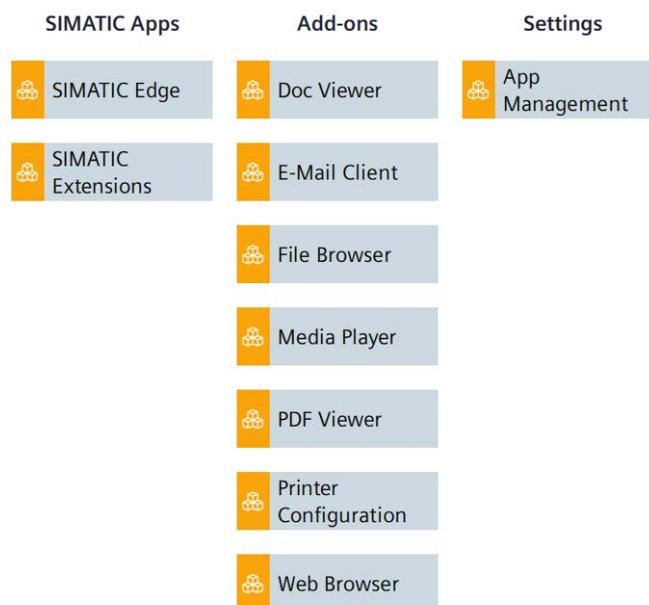
Event Logger (ページ 89)

5.10 Apps

次のオプションは、[Apps]で、HMI デバイスにあるアプリを管理するために使用できます。

- [SIMATIC Apps]にある SIMATIC 用に特別に開発されたアプリを起動するか、それらの設定を調整します。
- [Add-ons]で、プリインストールされているアプリを起動するか、設定を調整します。
- [Settings]の[App management]経由で、プリインストールされているアプリのアンインストールおよび起動および設定を変更します。

次の図は、HMI デバイスの引渡しの状態の例を示しています。



アプリを開く、アプリの設定を変更する、またはアプリをアンインストールするには、[SIMATIC Apps]、[Add-ons]または[Settings]カテゴリの下にあるエントリを選択します。

それらのカテゴリのエントリは、次のセクションで説明されています。

- **SIMATIC Apps** (ページ 138)
- **Add-ons** (ページ 140)
- **Settings** (ページ 144)

注記

ベストパフォーマンス

各アプリは、ある程度の量の作業メモリを占有します。アプリの数や[Web Browser]アプリで開かれるタブの数が増えるほど、使用可能な作業メモリの量が少なくなります。HMI デバイスでベストパフォーマンスを実現するため、下記の推奨事項に留意してください。

- 同時に開くアプリの数は、できるだけ少なくしてください。
- 使用しなくなったアプリは閉じてください。
- 可能な場合、[Web Browser]アプリでは、1つのタブのみを開いてください。

5.10.1 SIMATIC Apps

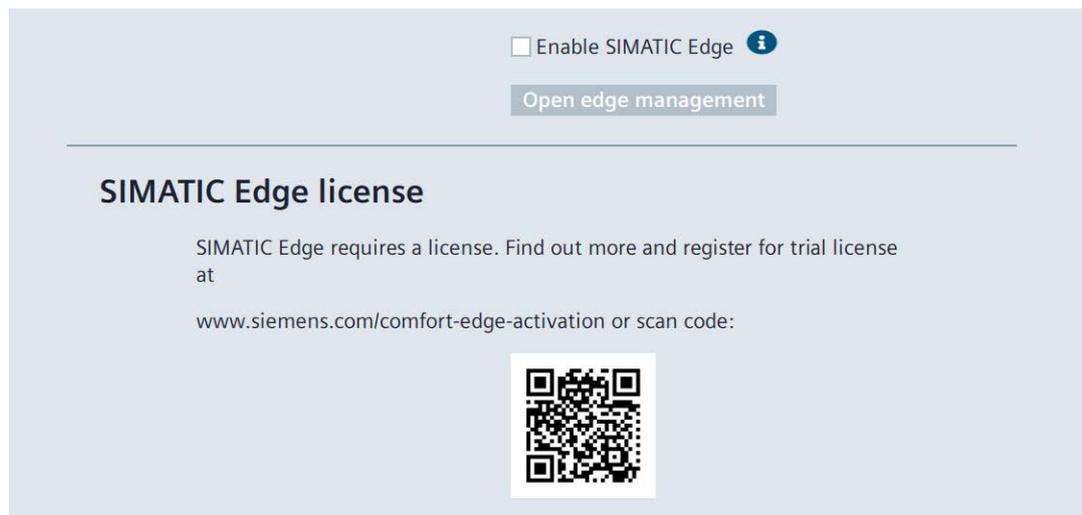
[SIMATIC Apps]では、[SIMATIC Edge]や[SIMATIC Extensions]など、SIMATIC 環境用に特別に開発されたアプリを確認することができます。



SIMATIC アプリの Web ページでのデータ入力中にスクリーンキーボードが自動的に開かない場合、タスクバーの次のアイコンを使用してスクリーンキーボードを開きます。



SIMATIC Edge



- [Enable SIMATIC Edge]:Edge Management を有効または無効にするオプション。初期設定は、[無効]です。「操作に関する注意 (ページ 76)」セクションに従ってください。

- [Open edge management]:HMI デバイスで「Web Browser」アプリの Edge Management Web ページを開くボタン。

初めてこのボタンを押すと、[Activate Edge Device]ダイアログが表示されます。このダイアログでは、ローカル Edge Management または中央 Edge Management のどちらを将来使用するかを決定します。



ローカル Edge Management に対して[Standalone]を選択するか、中央 Edge Management IEM に対して[Central Managed]を選択します。

必要に応じて、Edge Management のために、[Settings]でネットワーク設定を行います。

ローカル Edge Management または中央 Edge Management のどちらを使用するかを決定すると、[Activate Edge Device]ダイアログが今後表示されなくなります。

Edge Management にログインするために、[Sign in]ダイアログが表示されます。



必要な権限のあるユーザーとして Edge Management にログインします。

Edge Management の Web サイトが[Web Browser]アプリで開きます。

代替オプションとして、Web アクセスを介して[SIMATIC Edge]を開くことができます。

「HMI デバイスへの Web アクセス (ページ 71)」を参照してください。

Unified コンフォートパネルの Edge Management に関する詳細は、次のドキュメントで確認できます: 操作説明書「Unified コンフォートパネルの産業用エッジデバイス - 操作」(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109804671>)

SIMATIC Extensions



- [Enable SIMATIC Extensions]:SIMATIC Extensions を有効化または無効化するオプション。初期設定は、[無効]です。
- [Open SIMATIC Extensions]:HMI デバイスの[SIMATIC Extensions]アプリで Web Browser を開くためのボタン。

SIMATIC Extensions は、Web ベースのアプリケーションで、これを使用して、ランタイム中に Unified コンフォートパネルで実行されているプロジェクトの設定を変更することができます。

SIMATIC Extensions の設定をローカルに変更するには、[Enable SIMATIC Extensions]オプションを有効にし、[Open SIMATIC Extensions]を選択します。

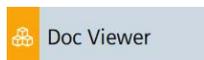
代替オプションとして、Web アクセスを介して[SIMATIC Extensions]を開くことができます。「HMI デバイスへの Web アクセス (ページ 71)」を参照してください。

[Sign in]ウィンドウと一緒に SIMATIC Extensions の Web サイトが表示されます。「HMI 管理者」権限を持つユーザーでログインします。

SIMATIC Extensions の使用に関する詳細な情報は、SIMATIC Extensions ウェブサイトのヘッダーの左上にある[UserManual]リンクを使用して参照できます。

5.10.2 Add-ons

[Add-ons]で、[Doc Viewer]、[E-Mail Client]、[File Browser]、[Media Player]、[PDF Viewer]、[Printer Configuration]および[Web Browser]などのプリインストールされているアプリを参照できます。下記の図は、例として、「Doc Viewer」のシンボルを示しています。



[Add-ons]にあるすべてのプリインストールされているアプリには[Start]ボタンがあり、ほとんどのアプリで[自動起動]機能も使用できます。

<アプリ名>



- [Start app automatically at panel start]:対応するアプリの[自動起動]機能を有効化または無効化するオプション(すべてのアプリで使用できるわけではありません)。このオプションが選択されている場合、アプリは、[コントロールパネル]が起動された後すぐに起動されます。このアプリは、[コントロールパネル]の前面に表示されます。
- [Start]:対応するアプリを手動で起動するためのボタン。

下記の表は、プリインストールされているアプリの短い説明を示しています。

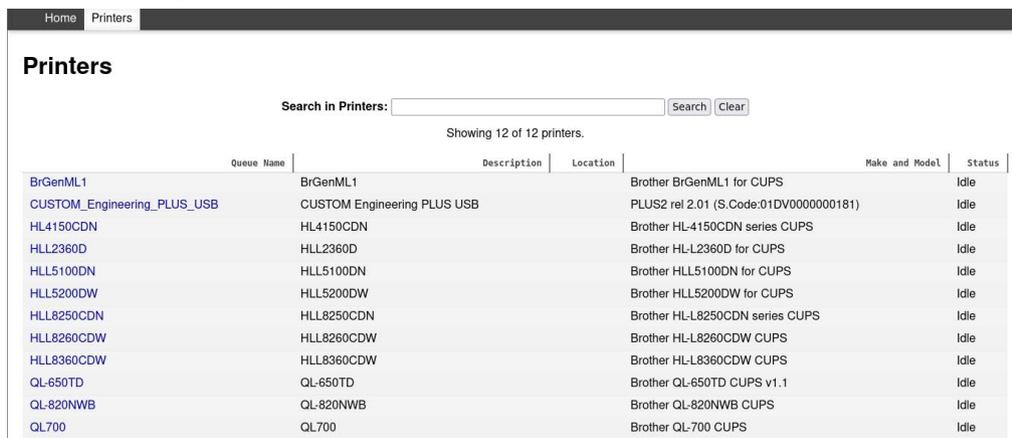
アプリ	説明	[自動起動]が使用可能
Doc Viewer	「Doc Viewer」では、テキストや Word ファイルなどのドキュメントを表示および編集できます。 注記:ランタイムソフトウェアやシステム機能を使用して保存されたファイルを編集するために[Doc Viewer]は使用しないでください。これらのファイルには、例えば、.tsv ファイルにエクスポートされたパラメータセットが含まれます。 ファイルを印刷するとき、ファイルタイプの初期設定 [Portable Document Format] (.pdf)をそのまま変えないでおきます。	はい
E-Mail Client	「E-Mail Client」では、電子メールアカウントを接続して電子メールを送受信したり、別のアプリからメールファイルをインポートすることができます。 初めて[E-Mail Client]が呼び出されたとき、設定ウィザードが起動されます。設定中、電子メールを送受信に対して SSL 暗号化を有効にします。	はい
File Browser	[File Browser]を使用して、内部メモリおよび HMI デバイスの記憶媒体にあるファイルを検索および管理できます。 注記:[記憶媒体をイジェクト]機能は、[File Browser]ではサポートされていません。代わりに [EjectStorageMedium]システム機能を使用します。	はい
Media Player	「Media Player」を使用して音声と動画ファイルを再生できます。	はい
PDF Viewer	「PDF Viewer」を使用して PDF ドキュメントを表示できます。	はい
Printer Configuration	[Printer Configuration]を介したプリンタ管理のために、ローカルウェブページ「CUPS」を開きます。	いいえ
Web Browser	「Web Browser」はインターネットへのアクセスを提供します。	はい

プリンタの管理

HMI デバイスのプリンタ設定は、「localhost:631」の下にあるローカル Web ページ「CUPS」(Common Unix Printing System)から管理できます。

プリンタ管理を開くには、次の手順にしたがってください。

1. 「Apps」 > 「Printer Configuration」 > 「Start」を介してプリンタ管理を開きます。
2. ヘッダーで、[Printers]を選択します。



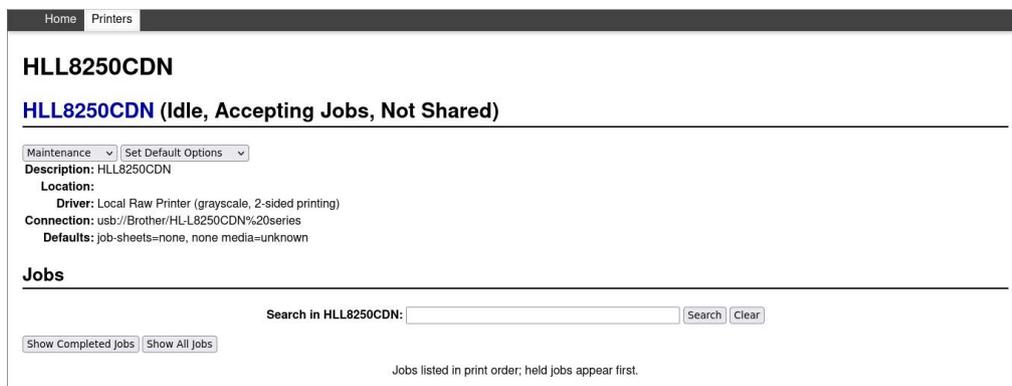
The screenshot shows the 'Printers' page in the CUPS web interface. It features a search bar at the top, a table listing 12 printers, and a 'Showing 12 of 12 printers.' indicator. The table has columns for Queue Name, Description, Location, Make and Model, and Status.

Queue Name	Description	Location	Make and Model	Status
BrGenML1	BrGenML1		Brother BrGenML1 for CUPS	Idle
CUSTOM_Engineering_PLUS_USB	CUSTOM Engineering PLUS USB		PLUS2 rel 2.01 (S.Code:01DV000000181)	Idle
HLL4150CDN	HLL4150CDN		Brother HL-4150CDN series CUPS	Idle
HLL2360D	HLL2360D		Brother HL-L2360D for CUPS	Idle
HLL5100DN	HLL5100DN		Brother HLL5100DN for CUPS	Idle
HLL5200DW	HLL5200DW		Brother HLL5200DW for CUPS	Idle
HLL8250CDN	HLL8250CDN		Brother HLL8250CDN series CUPS	Idle
HLL8260CDW	HLL8260CDW		Brother HL-L8260CDW CUPS	Idle
HLL8360CDW	HLL8360CDW		Brother HL-L8360CDW CUPS	Idle
QL-650TD	QL-650TD		Brother QL-650TD CUPS v1.1	Idle
QL-820NWB	QL-820NWB		Brother QL-820NWB CUPS	Idle
QL700	QL700		Brother QL-700 CUPS	Idle

[Printers]ページに事前にインストールされているプリンタが表示されます。

プリンタのプロパティを変更するかそのプリントジョブを表示するには、[Queue Name]欄にあるプリンタ名をクリックします。

下の図は、[HLL8250CDN]プリンタのプロパティを示します。



The screenshot shows the configuration page for the 'HLL8250CDN' printer. It includes a title, a status indicator, a maintenance dropdown, and a jobs section.

HLL8250CDN
HLL8250CDN (Idle, Accepting Jobs, Not Shared)

Maintenance: [Maintenance] Set Default Options

Description: HLL8250CDN

Location: Idle

Driver: Local Raw Printer (grayscale, 2-sided printing)

Connection: usb://Brother/HLL8250CDN%20series

Defaults: job-sheets=none, none media=unknown

Jobs

Search in HLL8250CDN: [Search] [Clear]

Show Completed Jobs Show All Jobs

Jobs listed in print order; held jobs appear first.

以下の機能は、以下の2つの選択リストで使用可能です:

- [Maintenance]: テストページの印刷、プリンタの一時停止、印刷ジョブのキャンセル、すべての印刷ジョブのキャンセル
- [Administration]:
 - [Set Default Options]: プリントアウトの設定の指定
 - [Set As Server Default]: プリンタをデフォルトのプリンタとして定義

[Jobs]リストに印刷ジョブが表示されます。

プロジェクトからプリインストールされているアプリを起動する

ただし、プロジェクトの操作エレメントから、プリインストールされているアプリを起動することもできます。このようにするためには、設定で[StartProgram]システム機能を使用します。

次のコマンドを[プログラム名]に入力します: 「/opt/siemens/App_Restriction/<起動スクリプトの名前>」

希望するアプリに応じて、「<起動スクリプトの名前>」に次のスクリプトを使用します。

起動対象のアプリ	関連付けられた起動スクリプト
Doc Viewer	runLibreoffice.sh
E-Mail Client	runEvolution.sh
File Browser	runThunar.sh
Media Player	runVLC.sh
PDF Viewer	runEvince.sh
Web Browser	runFirefox.sh

[プログラムパラメータ]で、どのファイルを開くかなど、アプリの呼び出しに許可されるすべてのパラメータを指定できます。インターネットで許可されているパラメータは、[Help] > [About ...]で指定されている名前を検索して確認できます。

例

- [MyPDFfile.pdf]を、インターフェース X61 に接続されている USB スティックから開きます。
 - [プログラム名]: 「/opt/siemens/App_Restriction/runEvince.sh」
 - [パラメータ]: 「/media/simatic/X61/MyPDFfile.pdf」
- [Doc Viewer]アプリを使用して、ランタイムから「.odt」ファイルを PDF ファイルに出力します

「/home/industrial」フォルダのすべての[.odt]ファイルを[Doc Viewer]を使用して PDF ファイルに出力するには、次の値と一緒に[StartProgram]システム機能を使用します。

 - [プログラム名]: /opt/siemens/App_Restriction/runLibreoffice.sh
 - [プログラムパラメータ]: --convert-to pdf --outdir /home/industrial /home/industrial/*.odt -headless

下記も参照

App Management (ページ 144)

5.10.3 App Management

[App Management]で、プリインストールされているアプリのアンインストールや設定の変更を行うことができます。



Manage Apps



- このリストは、[アドオン]でインストールされているすべてのアプリを示しています。
- [Uninstall]: 選択されたアプリをアンインストールするためのボタン。推奨事項: 必要なくなったアプリをインストールします。

注記

アンインストールを取り消すことはできません

アンインストールしたアプリを再インストールすることはできません。引渡しの状態でプリインストールされていたすべてのアプリを戻すには、HMI デバイスの出荷時設定を復元する必要があります。

- [Configure]: 選択したアプリの設定を変更するためのボタン(「Add-ons (ページ 140)」セクションを参照)。

下記も参照

ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)

データの転送

6.1 概要

設定フェーズ

設定フェーズで、自動化プロセスは、プロジェクトの形式で設定ソフトウェアと一緒に視覚化されています。プロジェクトのプロセスセル画面には、プロセスのステータスに関する情報を提供する値とアラームの操作エレメントとディスプレイコントロールが含まれています。設定段階の後、プロジェクトは、プロセス制御フェーズの後に、HMI デバイスに転送されます。

プロジェクトの HMI デバイスへの転送

プロジェクトは、プロセス制御で使用される HMI デバイスに転送される必要があります。転送には次のオプションがあります。

- プロジェクトを設定 PC から HMI デバイスに転送します(「WinCC を使用したプロジェクトの転送 (ページ 149)」セクションを参照)。
- 外部記憶媒体からプロジェクトを転送します。「Load project from storage (ページ 94)」セクションを参照してください。
- 同一の HMI デバイスで準備したシステムメモリカードを挿入します(「Automatic backup (ページ 130)」セクションを参照)。
- 同一の HMI デバイスのバックアップファイルを外部記憶媒体から復元します(「Restore (ページ 134)」セクションを参照)。

HMI デバイスのオペレーティングシステムの更新

HMI デバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされている WinCC ソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、転送前にエラーメッセージが出力されます。

HMI デバイスのオペレーティングシステムを次の方法で更新できます。

- オペレーティングシステムをプロジェクトと一緒に設定 PC から HMI デバイスに転送します(「WinCC を使用したプロジェクトの転送 (ページ 149)」セクションを参照)。
- オペレーティングシステムを設定 PC から HMI デバイスに転送します(「WinCC によるオペレーティングシステムの更新 (ページ 156)」セクションを参照)。
- オペレーティングシステムをデータ記憶媒体から HMI デバイスに転送します(「Update OS (ページ 125)」セクションを参照)。
- 同一の HMI デバイスで準備したシステムメモリカードを挿入します(「Automatic backup (ページ 130)」セクションを参照)。
- 同一の HMI デバイスのバックアップファイルを外部記憶媒体から復元します(「Restore (ページ 134)」セクションを参照)。

オペレーティングシステムを上記のオプションで更新できなかった場合、HMI デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

6.2 操作モード

次の方法で HMI デバイスを出荷時設定にリセットすることができます。

- HMI デバイスを起動し、[コントロールパネル]へのアクセス権を持っている場合、「ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)」セクションの説明に従って進めます。
- HMI デバイスを起動しておらず、HMI デバイスの[コントロールパネル]へのアクセス権がない場合、保守モードで HMI デバイスを起動します(「メンテナンスモードの使用 (ページ 162)」を参照)。

プロセスコントロールフェーズ

プロセスコントロールフェーズで、HMI デバイスはコントローラにオンラインで接続されており、プロセスセルの操作とモニタを行うことができます。

コミッショニングと再コミッショニング

初期コミッショニングおよび再コミッショニングは次の点で異なります。

- 初期コミッショニング中、HMI デバイスには使用可能なプロジェクトはありません。
引渡し時およびオペレーティングシステムの更新後、HMI デバイスはこの状態になります。
- 再コミッショニング時は、HMI デバイスに既に存在するプロジェクトが置換されません。

6.2 操作モード

操作モード

HMI デバイスは、次の操作モードにすることができます。

- オフライン
- オンライン
- 転送

操作モードの変更

操作の進行中に HMI デバイスの操作モードを変更できるようにするには、設定エンジニアによって適切なオペレータコントロールが設定されている必要があります。

必要な場合には、プロセスセルのマニュアルで追加情報を参照できます。

[オフライン]操作モード

このモードでは、HMI デバイスとコントローラ間の通信はありません。HMI デバイスを操作できますが、コントローラとデータを交換することはできません。

[オンライン]操作モード

この操作モードでは、HMI デバイスとコントローラ間または HMI デバイスと設定 PC 間に通信接続があります。

- HMI デバイスとコントローラ間のオンライン操作では、設定に応じて、HMI デバイスと一緒にプロセスセルを操作します。
- HMI デバイスと設定 PC 間のオンライン操作では、[オンラインおよび診断]などの拡張機能が使用可能です。

[転送]モード

このモードでは、設定 PC から HMI デバイスにプロジェクトを転送することや、HMI デバイスデータのバックアップと復元をすることができます。

6.3 既存プロジェクトの使用

既存のプロジェクトの移行に関する情報およびサポートは、次から利用可能です。

- [プロジェクトの編集] > [プロジェクトの互換性] > [プロジェクトの更新]にある TIA 情報システム。
- コンフォートパネルから Unified コンフォートパネルへの切り換えに関するインターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109768002>)にあるガイドライン。
- SIMATIC WinCC Unified への切り換えに関するインターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109770510>)にある [Data2Unified Add-in] エントリ。

6.4 データ送信オプション

次の表に、HMI デバイスと設定 PC 間のデータ転送のオプションを示します。

インターフェース	PROFINET (LAN)			USB	SD
	プロトコル	X1	X2	X61 ~ X64	X51
バックアップと復元	PN/IE	-	-	x	x
	Ethernet	x ¹	x		
オペレーティングシステムの更新	PN/IE	-	-	x	x
	Ethernet	x ¹	x		
オペレーティングシステムの更新および出荷時設定へのリセット	PN/IE	-	-	-	-
	Ethernet	-	x		
プロジェクトの転送	PN/IE	x	x	x	x
	Ethernet	x	x		
S7 通信	PN/IE	x	x	-	-
NTP、Web クライアント、インターネットアクセス、Unified コラボレーション、SmartServer/SmartClient、Industrial Edge	Ethernet	x	x	-	-

- ¹ 次の機能バージョンを使用するデバイスのみ([F-State]、銘板を参照):
- MTP700/1000/1200 Unified Comfort: F-State ≥ 7
 - MTP1500/1900/2200 Unified Comfort: F-State ≥ 5

6.5 PG/PC インターフェースの設定

データ転送に関する注意事項

可能な場合は、データ転送には PN/IE よりも高速の「Ethernet」プロトコルを使用してください。

「WinCC によるオペレーティングシステムの更新」機能には、必ず「Ethernet」プロトコルを使用してください。

可能な場合は、以下の機能のある最高帯域幅の X2 インターフェースを使用します。

- バックアップと復元
- オペレーティングシステムの更新
- プロジェクトの転送

X20 RS422/485 インターフェースは、他のメーカーのコントローラを接続するために設計されています。設定 PC と HMI デバイス間のデータ転送には X20 インターフェースを使用しないでください。

6.5 PG/PC インターフェースの設定

設定 PC と HMI デバイス間の Ethernet 接続を確立するには、PG/PC インターフェースを正しく設定する必要があります。

手順

1. 設定 PC の[コントロールパネル]を開きます。
2. [PG/PC インターフェースの設定]をクリックします。
3. [アプリケーションアクセスポイント]の最初のタブで、[S7ONLINE (STEP 7)]エントリを選択します。
4. [使用済みのインターフェースパラメータ]にある、名前の接尾辞が「.TCPIP.Auto.1」である Ethernet アダプタを選択します。

結果

PG/PC インターフェースが設定されました。設定 PC を、Ethernet 経由で HMI デバイスに接続し、データを転送できるようになりました。

6.6 WinCC を使用したプロジェクトの転送

このセクションでは、設定ソフトウェア WinCC 経由でプロジェクトを HMI デバイスに転送する方法を説明しています。転送前に、このソフトウェアはプロジェクトを HMI デバイスに読み込み可能かどうかを確認します。チェックの結果が、[ロードプレビュー]ダイアログボックスに表示されます。プロジェクトを読み込むことができない場合、[ロードプレビュー]ダイアログボックスで転送設定を変更できます。プロジェクトを読み込むためには、HMI デバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを使用します。

注記

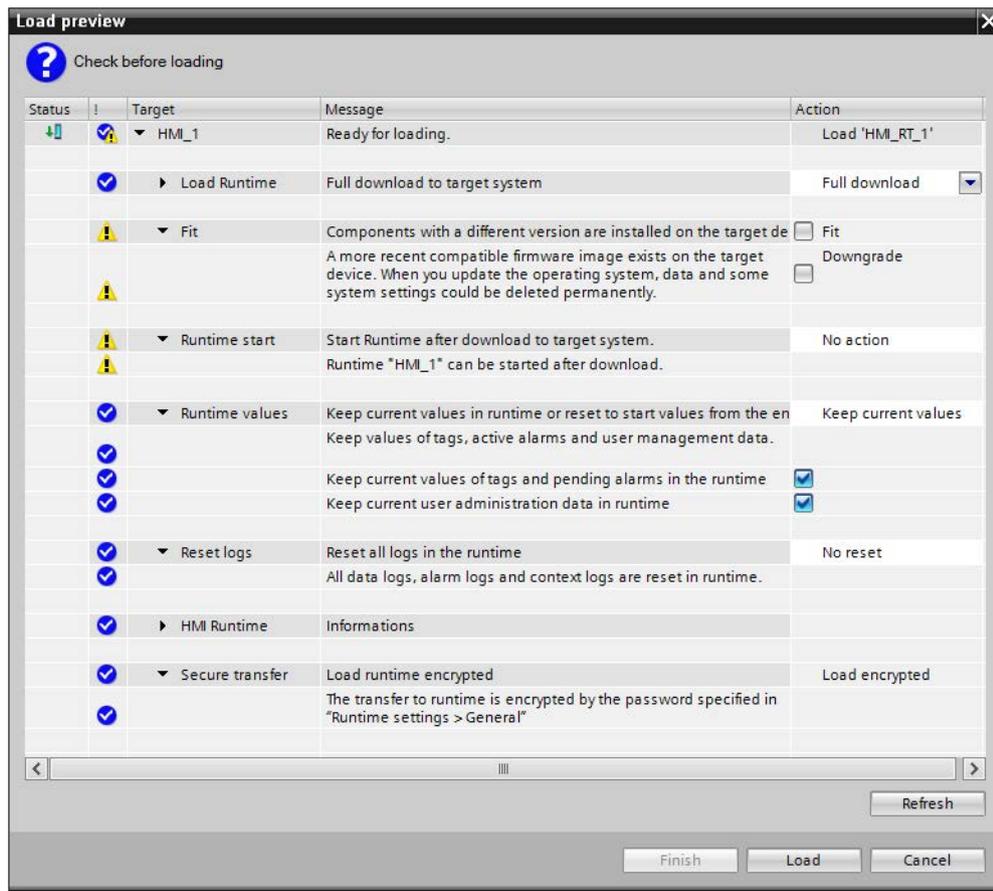
読み込み中に既存のパラメータセットが削除される

プロジェクトを HMI デバイスに読み込むとき、以前のプロジェクトからの、内部メモリや外部記憶媒体に保存されたすべてのパラメータセットが削除されます。プロジェクトを読み込む前に、以前のプロジェクトから入力されたパラメータセットを保存しておきます。

手順

1. HMI デバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMI デバイスを X1 または X2 インターフェースで設定 PC に接続します。可能な場合は、最高帯域幅の X2 インターフェースを使用します。
3. HMI デバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMI デバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMI デバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. HMI デバイスに転送したいプロジェクトを開きます。
データ転送用に使用されるインターフェースのポートがプロジェクト設定で有効化されていることを確認します。デバイス設定のインターフェースパラメータの詳細なオプションで、この設定を確認できます。
8. プロジェクトツリーで、転送したいプロジェクトがある HMI デバイスを選択します。
9. HMI デバイスのショートカットメニューで[デバイスへのダウンロード] > [ソフトウェア]コマンドを選択します。
10. HMI デバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、HMI デバイスの接続設定を入力します。[接続]ボタンをクリックしてから、[読み込み]をクリックします。
接続の確立に成功すると、[ロードプレビュー]ダイアログボックスが表示されます。次の図に、例を示します。

6.6 WinCC を使用したプロジェクトの転送



[ロードプレビュー]ダイアログボックスには、[情報]および[警告]タイプのアラームが含まれます。

	情報	この設定に互換性があります。プロジェクトを読み込むことができます。
	警告 [アラーム]列の設定を変更することができません。	HMI デバイスの設定は、設定ソフトウェアの設定とは異なります。プロジェクトは、依然として、この設定を使用して読み込むことができます。
	警告 [操作]列の設定を変更することができます。	HMI デバイスの設定は、設定ソフトウェアの設定とは異なることに注意してください。[操作]列の設定を変更した後に、このプロジェクトを読み込むことができます。
	エラー [アラーム]列の設定を変更することができません。	プロジェクトを読み込むことができません。設定または HMI デバイスの設定を調整します。
	エラー [操作]列の設定を変更することができます。	プロジェクトを読み込むことができません。[操作]列の設定を変更した後に、このプロジェクトを読み込むことができます。

11. [ロードプレビュー]ダイアログボックスで、読み込みプロセスに対してオプションを指定します。
 - [ランタイムの読み込み]:HMI デバイスのランタイムソフトウェアを上書きまたは保持するための選択リスト。
 - [適合]:この領域で、設定のコンポーネントのバージョンが HMI デバイスのコンポーネントのバージョンと異なる場合に、個別コンポーネントを調整すべきかどうかを定義します。HMI デバイスのバージョンがより新しい場合、[Downgrade]を選択します。そうでない場合は、[Upgrade]を選択します。

[Upgrade]によりオペレーティングシステムを更新する場合、「オペレーティングシステムを更新する際の重要な注意 (ページ 155)」に従ってください。
 - [ランタイムの開始]:読み込み後にランタイムソフトウェアが HMI デバイスで起動されるかどうかを指定してできるようにする選択リスト。
 - [ランタイム値]:この領域で、タグのデータ、アラームおよびユーザー管理が HMI デバイスで保持されるべきかどうかを定義します。対応するオプションが選択されている場合、HMI デバイスのデータが保持されます。対応するオプションが選択解除されている場合、HMI デバイスのデータが削除されるか、設定のデータによって上書きされます。HMI デバイスのユーザー管理を更新したい場合、[ランタイム時に現在のユーザー管理を保持]オプションを選択解除しておく必要があります。
 - [ログのリセット]:すべてのログをリセットまたは保持するための選択リスト。[すべてをリセット]を選択した場合、HMI デバイスにあるすべてのデータログのデータ、アラームログおよびコンテキストログが削除されます。
 - [HMI ランタイム]:この領域には、HMI デバイスのランタイムおよびファームウェア/オペレーティングシステムのバージョンに関する情報が含まれています。
 - [安全な転送]:この領域で、プロジェクトが暗号化されて転送されるかどうかを決定します。その他の情報は「Transfer (ページ 125)」セクションを参照してください。

明るい赤色のテキストがある警告が表示されなくなったら、[ロードプレビュー]の左側の[ステータス]列にある[ダウンロード]アイコンが緑色に表示され、[読み込み]ボタンが有効になります。
12. [読み込み]をクリックして、プロジェクトを HMI デバイスに転送します。

プロジェクトが HMI デバイスに転送されます。転送中にエラーまたは警告が発生した場合は、[調査官]ウィンドウの[情報] > [ダウンロード]の下にアラームが表示されます。転送に成功すると、アラーム[ロード完了(エラー:0、警告:0)]が表示されます。
13. HMI デバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
14. [Enable Transfer]オプションを選択解除して、HMI デバイスを未許可の転送から保護します。

結果

プロジェクトが HMI デバイ스에配置され、開始可能です。転送後、[オフライン]モードで操作エレメントおよび画面変更をテストします。すべての操作エレメントおよび画面変更が正常に機能する場合、HMI デバイスを[オンライン]モードに切り替えることができます。

6.7 バックアップと復元

データバックアップ中、内部メモリのコンテンツが設定 PC または外部記憶媒体でバックアップに保存します。アラームログおよびプロセス値アーカイブはバックアップには含まれません。これらのアーカイブは、外部記憶媒体に個別に保存されます。必要に応じて、これらのログを手動でバックアップします。HMI デバイスがネットワークに統合されている場合は、ネットワークドライブにデータをバックアップすることもできます。

以下のデータはバックアップに保存されます。

- オペレーティングシステム
- [コントロールパネル]設定
- インストールされているアプリ
- SIMATIC Edge データ
- プロジェクトおよびパラメータセット
- ユーザー管理

バックアップには複数のファイルが含まれます。マスタファイルには、拡張子「.brf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

設定 PC へのバックアップ

HMI デバイスのデータをバックアップするには、次のステップを実行します。

1. HMI デバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMI デバイスを X1 または X2 インターフェースで設定 PC に接続します。可能な場合は、最高帯域幅の X2 インターフェースを使用します。
3. HMI デバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMI デバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMI デバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. プロジェクトツリーで、バックアップしたいデータがある HMI デバイスを選択します。
8. [オンライン] > [HMI デバイスマンテナンス]メニューで[バックアップ]コマンドを選択します。

9. HMI デバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、HMI デバイスの接続設定を入力します。[接続]ボタンをクリックしてから、[作成]をクリックします。

接続が正常に確立されると、[バックアップの完了]ダイアログボックスが、プロジェクトおよび HMI デバイスに関する情報と一緒に表示されます。

10. [バックアップ]ボタンをクリックします。
[SIMATIC ProSave [バックアップ]]ダイアログボックスが表示されます。
11. [データタイプ]の下で、保存すべき HMI デバイスのデータを選択します。
12. [名前を付けて保存]フィールドで、バックアップのファイル名を入力します。
13. [バックアップの開始]をクリックします。

バックアッププロセスを開始します。ProSave と HMI デバイスの両方で、各バックアップファイルについて進捗状況バーがあるダイアログが表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。

注記

データ記憶媒体のバックアップファイルの名前を変更しないでください。

保存されたバックアップファイルの名前を変更すると、これらのバックアップファイルは[復元]機能を使用して HMI デバイスに読み込むことができなくなります。バックアップファイルは使用不能になります。

データ格納媒体のバックアップファイルの名前を変更せずにそのままにしておきます。

注記

一式のバックアップファイルをすべてコピーする

バックアップファイルをコピーする場合、マスタファイル「.brf」とすべての関連バックアップファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

1 ファイルでも欠けていると、バックアップを読み込めなくなります。

HMI デバイスのデータ記憶媒体へのバックアップ

設定 PC の代替として、HMI デバイスに直接接続されたデータ記憶媒体に、HMI デバイスの[コントロールパネル]経由で、データを保存することもできます(「Backup (ページ 128)」セクションも参照)。

設定 PC からの復元

HMI デバイスのデータを復元するには、次のステップを実行します。

1. HMI デバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMI デバイスを X1 または X2 インターフェースで設定 PC に接続します。可能な場合は、最高帯域幅の X2 インターフェースを使用します。

6.7 バックアップと復元

3. HMI デバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMI デバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMI デバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. データツリーで、復元したいデータがある HMI デバイスを選択します。
8. [オンライン] > [HMI デバイスマンテナンス]メニューで[復元]コマンドを選択します。
9. HMI デバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、HMI デバイスの接続設定を入力します。[接続]ボタンをクリックしてから、[読み込み]をクリックします。
接続が正常に確立されると、[復元の完了]ダイアログボックスが、プロジェクトおよび HMI デバイスに関する情報と一緒に表示されます。
10. [復元]ボタンをクリックします。
[SIMATIC ProSave [Restore]]ダイアログが表示されます。
11. [開く...]で、バックアップのパスとファイル名を入力します。
12. [復元の開始]をクリックします。

復元プロセスが開始されます。ProSave と HMI デバイスの両方で、読み込まれる各バックアップファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。

復元プロセス中は HMI デバイスの電源を切らないでください。データソースを HMI デバイスから切断しないでください。

注記

プロセスが中断されたときのシステム動作

復元プロセスが電源故障やデータ接続の中断が原因を完了できない場合、例えば、HMI デバイスは保守モードで起動され、出荷時設定が復元される必要があります。

この場合、「ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)」セクションのステップ 6 からの手順に従います。

HMI デバイスのデータ記憶媒体からの復元

設定 PC の代替として、HMI デバイスに直接接続されたデータ記憶媒体から、HMI デバイスの[コントロールパネル]経由で、データを復元することもできます(「Restore (ページ 134)」セクションも参照)。

6.8 オペレーティングシステムの更新

6.8.1 概要および重要な注意事項

HMI デバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされている WinCC ソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。HMI デバイスのオペレーティングシステムがもはや機能しない場合は、HMI デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

通知

オペレーティングシステムを更新すると、HMI デバイスのデータが削除されます。プロジェクト、パラメータセットおよびユーザー管理は、HMI デバイスでオペレーティングシステムを更新したときに削除されます。

オペレーティングシステムを更新する前に、必要に応じて、HMI デバイスのデータのバックアップを取ります。

オペレーティングシステムを更新する前に[コントロールパネル]で変更した次の設定以外のすべての設定内容は、オペレーティングシステムの更新後も保持されます。

- 外部インターフェースは再度有効にされます(初期設定)。「Hardware interfaces (ページ 122)」セクションを参照してください。
- タイムゾーンは初期設定[(UTC) Coordinated Universal Time]にリセットされます。「Date and time (ページ 123)」セクションを参照してください。

オペレーティングシステムを出荷時設定にリセットするとき、HMI デバイスのすべてのデータが削除され、[コントロールパネル]のすべての設定が出荷時設定にリセットされます。

通知

自動バックアップとオペレーティングシステムの更新

オペレーティングシステムの更新中に[自動バックアップ]機能が有効にされると、HMI デバイスが正しく再起動されないことがあります。

HMI デバイスのオペレーティングシステムを更新する場合、そして[自動バックアップ]機能を有効にした場合、次の手順に従ってください:

1. [自動バックアップ]機能を無効にします。
2. オペレーティングシステムを更新します。
3. [自動バックアップ]機能を有効にします。

更新前や更新中は、システムメモリカードを HMI デバイスに挿入されたままにします。

オペレーティングシステムは複数のファームウェアファイルに含まれています。マスタファイルには、拡張子「.fwf」が付きます。追加ファイルの番号は異なります。これらのファイルには、マスタファイルのファイル名に連番(「.0」、「.1」、「.2」など)が拡張子として付きます。

6.8 オペレーティングシステムの更新

HMI デバイスのファームウェアファイルは、インターネット (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109746530>) からダウンロードできます。ダウンロード内容に含まれている取扱説明書に従います。

注記

ファームウェアファイルの名前を変更しないでください。

ファームウェアファイルの名前を変更すると、オペレーティングシステムをこれらのファームウェアファイルを使用して更新できなくなります。ファームウェアファイルは使用不能になります。ファームウェアファイルの名前を変更しないでおきます。

注記

ファームウェアファイルを完全にコピーする

ファームウェアファイルをコピーする場合、マスタファイル「.fwf」とすべての関連ファームウェアファイル(「.0」、「.1」、「.2」など)も一緒に確実にコピーするようにしてください。

ファイルが欠けていると、オペレーティングシステムを読み込めなくなります。

HMI デバイスの[コントロールパネル]へのアクセスが可能な場合は、オペレーティングシステムの更新または HMI デバイスの出荷時設定の復元に関する次のオプションがあります。

- WinCC によるオペレーティングシステムの更新 (ページ 156)
- 外部記憶媒体経由のオペレーティングシステムの更新 (ページ 125)
- ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)

HMI デバイスの[コントロールパネル]へおアクセスが機能しなくなった場合、「メンテナンスモードの使用 (ページ 162)」セクションで説明されている手順に従います。

6.8.2 WinCC によるオペレーティングシステムの更新

HMI デバイスのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンは、インストールされている WinCC ソフトウェアのファームウェアおよびオペレーティングシステムバージョンとの互換性がある必要があります。互換性がない場合、オペレーティングシステムを更新する必要があります。

通知

データの転送中に HMI デバイスの電源を切らないでください。

HMI デバイスのオペレーティングシステムの更新中に HMI デバイスの電源を切ると、HMI デバイスは起動しなくなります。この手順を繰り返す必要があります。

データの転送中に HMI デバイスの電源を切らないでください。

手順

オペレーティングシステムを更新するには、次のステップを実行します。

1. HMI デバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMI デバイスを X1 または X2 インターフェースで設定 PC に接続します。可能な場合は、最高帯域幅の X2 インターフェースを使用します。
3. HMI デバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMI デバイスのコントロールパネルで、[Service and Commissioning] > [Transfer]を選択します。
5. [Enable transfer]オプションが有効にされていることを確認します。
6. HMI デバイスを使用して設定された設定ソフトウェアを開きます。
7. プロジェクトツリーで、オペレーティングシステムが更新しようとしている HMI デバイスを選択します。
8. [オンライン] > [HMI デバイスマンテナンス]メニューで[オペレーティングシステムの更新]コマンドを選択します。
9. HMI デバイスへの接続がない場合、接続ダイアログボックスが表示されます。この場合、[Ethernet]インターフェースプロトコルを選択し、対象デバイスの IP アドレスまたは名前を入力し、[接続]ボタン、[更新]の順にクリックします。
接続が正しく確立されると、[オペレーティングシステムの更新]ダイアログボックスが表示されます。
10. [ファームウェアのファイルパス...]に、必要なオペレーティングシステムを含むファームウェアマスタファイル(.fwf)のパスとファイル名を入力します。
11. [OS の更新]をクリックします。

オペレーティングシステムの更新が開始されます。各ファームウェアファイルについて、進捗状況バーがあるダイアログが HMI デバイスに表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。

結果

これで、HMI デバイスのオペレーティングシステムが選択したファームウェアのバージョンに更新されました。

下記も参照

概要および重要な注意事項 (ページ 155)

Update OS (ページ 125)

6.8.3 ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット

HMI デバイスのオペレーティングシステムがもはや機能しない場合は、HMI デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。

通知
データの転送中に HMI デバイスの電源を切らないでください。 HMI デバイスが出荷時設定にリセットされているときに、HMI デバイスの電源を切ると、HMI デバイスは起動しなくなります。この手順を繰り返す必要があります。 データの転送中に HMI デバイスの電源を切らないでください。

手順

HMI デバイスを出荷時設定にリセットするには、以下のステップを実行します。

1. HMI デバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMI デバイスを X2 インターフェースにより設定 PC に接続します。
3. HMI デバイスの[コントロールパネル]で、[Network and Internet]を選択します。
データ転送用に選択されたポートが使用されるインターフェース用に有効にされていることを確認します([Activate this port for use])。
4. HMI デバイスのコントロールパネルで、[System Properties] > [Reboot]を選択します。
5. [Reboot in maintenance mode]ボタンを押します。HMI デバイスが起動します。
[Maintenance Mode]ダイアログボックスが 10 分間表示されます。この期間中、HMI デバイスを設定 PC に接続し、ProSave ソフトウェアを使用して HMI デバイスを出荷時設定にリセットできます。[Maintenance Mode]ダイアログが表示されない場合は、[メンテナンス]ボタンを押しながら HMI デバイスを起動してください。「メンテナンスモードの使用 (ページ 162)」のセクションを参照してください。
6. 設定 PC で、WinCC インストールディレクトリにある「ProSave」ソフトウェアを開きます。
7. 次のデータを[全般]タブに入力します。
 - [装置タイプ]:お使いの HMI デバイスのデバイスタイプを選択します。
 - [接続]:[Ethernet]を選択します。
 - [接続パラメータ]:HMI デバイスの IP アドレスまたはコンピュータ名を指定します。IP アドレスは設定 PC のサブネットにあります。

8. 次のデータを[OS 更新]タブに入力します。
 - [開く...]で、必要なオペレーティングシステムを含むファームウェアマスタファイル(.fwf)のパスとファイル名を選択します。
 - オプション[出荷時設定へのリセット]を選択します。
 - [MAC]に、HMI デバイスのディスプレイの右上に表示されている MAC アドレスを入力します。
 - [デバイスのステータス]ボタンを使ってデバイスおよび選択したファームウェアに関する情報を表示します。
9. [OS の更新]をクリックします。HMI デバイスのすべてのデータが上書きされるという警告を含むダイアログボックスが表示されます。
10. ダイアログボックスを確認します。

[出荷時設定へのリセット]でのオペレーティングシステムの更新が開始されます。ProSave と HMI デバイスの両方で、更新の進捗状況が表示されます。選択した接続によっては、更新操作に時間がかかります。このプロセスの最後に HMI デバイスが再起動されます。

結果

これで、HMI デバイスのオペレーティングシステムが選択したファームウェアのバージョンに更新され、HMI デバイスは工場出荷設定にリセットされました。

下記も参照

概要および重要な注意事項 (ページ 155)

装置の保守と修理

7.1 保守とサービスに関する一般情報

アース回路または過電圧保護の構成部分など、保護継電装置の保守と修理を行う際は、次の内容に従ってください。

- メーカーが指定したメンテナンスと交換の期間を順守してください。
- 外部ケーブル、ヒューズ、バッテリーを含むプラント構成部品を、各メーカーが承認している同等の構成部品で交換してください。

7.2 HMI デバイスの前面ガラスをきれいにします。

HMI デバイスは、わずかな保守で動作するように設計されています。ただし、前面ガラスは定期的に掃除する必要があります。

化学耐性 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/39718396>)に関する情報に従います。

重要な注意事項

注記

掃除中に意図しない反応を回避すること

電源が入った状態で前面ガラスを掃除すると、タッチスクリーンの不注意な操作が発生する場合があります。

掃除中は HMI デバイスをオフにします。

注記

前面に対する損傷を回避

圧縮空気やスチームジェット、および腐食性の溶剤または研磨剤を使用すると、前面ガラスが損傷する場合があります。

圧縮空気やスチームクリーナーで前面ガラスを掃除しないでください。腐食性の溶剤や精練剤は、使用しないでください。

7.3 メンテナンスモードの使用

必要条件

- 湿った清掃布
- 食器洗剤または発泡性のスクリーン清掃剤

手順

以下のように実行します。

1. HMI デバイスでプロジェクトを実行する場合、プロジェクトを閉じます。
2. HMI デバイスをオフにします。
3. 洗剤を清掃布にスプレーします。
HMI デバイスに直接吹き付けしないでください。
4. 前面ガラスを清掃します。
前面ガラスを清掃するときは、内側から外側にかけて拭いてください。

7.3 メンテナンスモードの使用

メンテナンスモードは、HMI を出荷時設定にリセットするのに使用します。

HMI デバイスの電源を入れた後にオペレーティングシステムが起動し、コントロールパネルが表示されたとき、[Reboot in maintenance mode]ボタンをクリックすると、HMI デバイスをメンテナンスモードで起動できます。「ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)」セクションの説明に従います。

ブートスプラッシュ画面で HMI を起動し、破損したオペレーティングシステムが検出されると、HMI は自動的にメンテナンスモードに切り替わります。[Maintenance Mode]ダイアログボックスが表示されます。この場合、「ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)」のセクションのステップ 6 の手順に従ってください。

ブートスプラッシュ画面で HMI デバイスを起動、破損したオペレーティングシステムが検出されないと、HMI デバイスはメンテナンスモードに切り替わりません。

[Maintenance Mode]ダイアログは表示されません。HMI デバイスを出荷時設定にリセットする必要があります。この場合、このセクションで説明したとおり、[メンテナンス]ボタンを押しながら HMI デバイスを起動します。

通知

オペレーティングシステムはメンテナンスモードで更新する必要があります。

[メンテナンス]ボタンを押しながら HMI デバイスを起動すると、HMI デバイスはメンテナンスモードになります。メンテナンスモードで、[Maintenance Mode]ダイアログが表示されます。オペレーティングシステムを更新する必要があります。

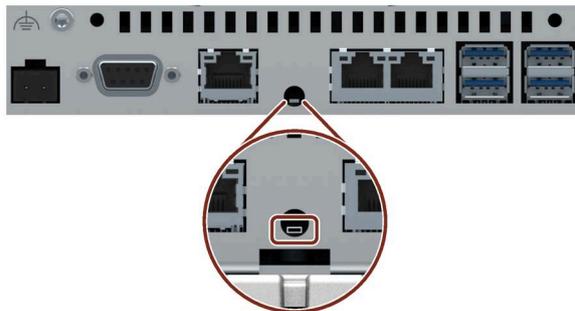
オペレーティングシステムを確実に更新する場合のみ、[メンテナンス]ボタンを押しながら HMI デバイスを起動してください。

手順

以下のように実行します。

1. HMI デバイスの電源を切ります。
2. [メンテナンス]ボタンを押します。直径約 5 mm の十分に硬く、鋭利ではない非導電性素材のツールを使用します。

[メンテナンス]ボタンは、X1 および X2 インターフェースの間の開口部にあります。



ボタンは正確に押し、ツールがボタンからスライドして外れないようにしてください。

3. HMI デバイスの電源を入れ、ブートスプラッシュ画面が表示されるまで[メンテナンス]ボタンを押し続けます。

HMI デバイスが再起動し、[Maintenance Mode]ダイアログボックスが表示されます。HMI デバイスを設定 PC に接続し、ProSave ソフトウェアを使って HMI デバイスを出荷時設定にリセットします。「ProSave による HMI デバイスの出荷時設定へのリセット (ページ 158)」のセクションのステップ 6 の手順に従ってください。

7.4 スペアパーツと修理

修理

担当の Siemens 代理店 (<https://www.siemens.com/aspa>)にお問い合わせください。専門知識、製品、地域によりフィルタリングしてください。

お客様の担当者は、製品が修理可能か、そしてどのように返却するのかを教えてください。

製品を返却する前に担当の Siemens 代理店に連絡してください。優先順位付きの修理の取り扱い、コストの見積り、修理レポート、検査レポートをいつリクエストするかが含まれます。

担当の Siemens 代理店は、スペア部品がある場合はそれに関する情報も提供できません。

スペア部品

HMI デバイスのスペア部品と付属品は、「付属品 (ページ 16)」のセクションで確認できます。

7.5 リサイクルと廃棄処分

この操作説明書で説明されている HMI デバイスに含まれる汚染物質は微量であるため、デバイスをリサイクル利用できます。

環境上持続可能である旧型機のリサイクルや処分については、承認された電子機器スクラップ廃棄物処理センターにお問合せください。デバイスの廃棄はお客様の国の関連規則に従って行ってください。

技術情報

8.1 ソフトウェア使用許諾契約

オープンソースソフトウェア

提供された「Open Source Software License Conditions」データメディアのオープンソースソフトウェアのソフトウェア使用許諾契約書を順守してください。

8.2 ラベル、認証、および承認

注記

銘板上の承認事項

次の概要に、対象となる承認事項を示します。

銘板に指定されている承認のみがデバイスに適用されます。

CE マーク



デバイスは、以下の EU 指令の一般必要条件と安全関連の必要条件に対応しています。また、欧州連合の公報で公開され、EU 適合宣言書で確認された対応統一欧州標準(EN)にも準拠しています。

- 2014/30/EU「電磁環境両立性指令」(EMC 指令)
- 2011/65/EU「電気電子機器中の特定有害物質の使用の制限に関する 2011 年 6 月 8 日付欧州議会および理事会指令」(RoHS 指令)

デバイスに Ex 承認がある場合、以下が適用されます。

- 2014/34/EU「Equipment and protective systems intended for use in potentially explosive atmospheres」(防爆指令)

EU 適合性宣言

EU 適合性宣言は、次の住所の関係当局から入手できます。

Siemens AG
Digital Industries
Factory Automation
DI FA TI COS
P.O.Box 1963
D-92209 Amberg

次のアドレスで、キーワード「適合性宣言」を使用して、インターネットでこれらをダウンロードすることもできます: Unified Comfort Panels 認証

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)

UKCA マーキング



本デバイスは、次の規制と関連の修正事項の一般的かつ安全に関する要件を満たし、英国政府の公式な統合リストで公開された指定済みの英国規格(BS)に準拠しています。

- 電磁環境適合性規制 2016 (EMC)
 - 電気・電子機器における特定有害物質の使用制限に関する規制 2012 (RoHS)
- デバイスに Ex 承認がある場合、以下が適用されます。
- 爆発的雰囲気での使用を目的とした機器および保護システム 2016 (爆発保護)

UK 適合性宣言

UK 適合性宣言は、次の住所の関係当局から入手できます：

Siemens AG
Digital Industries
Factory Automation
DI FA TI COS
P.O.Box 1963
D-92209 Amberg

次のアドレスで、キーワード「適合性宣言」を使用して、インターネットでこれらをダウンロードすることもできます: Unified Comfort Panels 認証
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)

UL 承認



次の注記に従ってください。

- The device shall be supplied from an isolating source.
- Only for use in LAN, not for connection to telecommunication circuits.

Underwriters Laboratories Inc. (E116536) (次に準拠)

- UL 61010-1 and UL 61010-2-201
- CAN/CSA C22.2 No. 61010-1 and 61010-2-201

または

Underwriters Laboratories Inc. (E222109) (次に準拠)

- UL 61010-1 and UL 61010-2-201
- CAN/CSA C22.2 No. 61010-1 and 61010-2-201
- UL 121201 (Hazardous Location)
- CAN/CSA C22.2 No. 213 (Hazardous Location)

Approved for use in

- Class I, II, III, Division 2, Group A, B, C, D, E, F, G; T4
- Class I, Zone 2, Group IIC T4
- Class II, Zone 22, Group IIIA, IIIB, IIIC T135
- non-hazardous locations

FM 承認



Factory Mutual Research (FM) 適応規格

- Approval Standard Class number 3611, 3600, 3810
- ANSI/ISA 61010-1
- ANSI/UL 121201
- ANSI/NEMA 250
- CAN/CSA C22.2 No. 213
- CAN/CSA C22.2 No. 61010-1

pproved for use in

- Class I, II, III, Division 2, Group A, B, C, D, E, F, G; T4
- Class I, Zone 2, Group IIC T4
- Class II, Zone 22, Group IIIA, IIIB, IIIC T135

Installation Instructions for cFMus:

WARNING – Do not remove or replace while circuit is live when a flammable or combustible atmosphere is present.

WARNING – Substitution of components may impair suitability of the equipment.

CAUTION – To prevent injury, read the manual before use.

WARNING – The equipment is intended to be installed within an enclosure/control cabinet. The inner service temperature of the enclosure/control cabinet corresponds to the ambient temperature of the module. Use cables with a maximum permitted operating temperature of at least 20 °C higher than the maximum ambient temperature.

ATEX/UKEX/IECEX 承認**危険領域での使用に関する注意事項**

HMI デバイスの危険区域での使用については、以下の FAQ に従ってください。FAQ 291285 (<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/291285>)

デバイスを危険区域で使用するには、デバイスに接続されたすべてのプラグが係留方法で固定されていることを確認してください。「危険領域で使用するケーブルの固定 (ページ 53)」のセクションを参照してください。

爆発保護、EU/UK 適合性宣言およびその他の認証に関する詳細情報は、インターネットの以下のアドレスから参照できます:

Unified Comfort Panels 認証

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)

8.2 ラベル、認証、および承認

ATEX/UKEX 承認

「Ex」マークの付いた HMI デバイスは、以下の規格にしたがって、次の認証が適用されます。

- 規格:
 - EN IEC 60079-0
 - EN IEC 60079-7
 - EN 60079-31
- 承認:

	II 3 G	Ex ec IIC T4 Gc
	II 3 D	Ex tc IIIC T 70 °C Dc

IECEX 承認

「IECEX」マークの付いた HMI デバイスは、以下の規格にしたがって、次の認証が適用されます。

- 規格:
 - IEC 60079-0
 - IEC 60079-7
 - IEC 60079-31
- 承認:

	Ex ec IIC T4 Gc
	Ex tc IIIC T70°C Dc

CCCEX 承認



「CCC」マークの付いたデバイスは、以下の規格にしたがった次の認証が有効です。

- 規格:
 - GB/T 3836.1 (爆発性雰囲気 - パート 1:装置 - 一般要件)
 - GB/T 3836.3 (爆発性雰囲気 - パート 3:強化された安全性「e」による装置の保護)
 - GB/T 3836.31 (爆発性雰囲気 - パート 31:筐体「t」による装置の粉塵着火防止)
- 承認:
 - Ex ec IIC T4 Gc
 - Ex tc IIIC T70°C Dc

特別な使用条件

- HMI デバイスの前面は少なくとも IP65 の保護等級を提供します。
HMI デバイスの前面は、少なくとも GB 3836.1 for Group II に準拠した IP54、GB/T 3836.1 for Group IIIA と IIIB に準拠した IP54、GB/T 3836.1 for Group IIIC に準拠した IP6X の保護等級を提供する認定筐体で設置する必要があります。
使用中には周囲条件に合わせた処置を行ってください。
- HMI デバイスを > 7 J の機械的負荷から、表示領域では > 4 J の機械的負荷から保護するものとします。
- 帯電を防止するために、筐体の表面は湿った布だけで拭いてください。
- 「Ratings」の設計審査証明書に指定されている筐体内の周囲温度は、デバイスから 25 mm 離れたところで測定し、監視する必要があります。
- EPL Gc を備えた装置を使用する必要がある領域で使う場合、次の追加の条件が適用されます。
 - 装置は、GB/T 16935.1 で定義されている汚染度 2 以下の領域においてのみ使用される必要があります。
 - 119 V を超える過渡妨害によって定格電圧を超えないように対策を講じる必要があります。
- デバイスがオプションの 15 インチ、19 インチ、22 インチの付属品アダプタフレームと共に使用される場合、次の追加の条件が適用されます：
 - デバイスは、機械的危険のリスクが低くなるように設置する必要があります。

IEC 61010-2-201

この装置は、IEC 61010 規格の要件と基準、『測定、制御および実験用電気機器の安全規制』のパート 2-201:制御機器の特別要件を満たします。

IEC 61131

HMI デバイスは、次に基づく必要条件および規準に適合しています: IEC 61131-2、『プログラマブルロジックコントローラ』のパート 2:「操作リソース要件とテスト」の要件および規準に適合しています。

RCM (オーストラリア/ニュージーランド)

この製品は標準 EN 61000-6-4 『一般規格 – 工業地域の環境に対する排出基準』の要件を満たしています。

This product meets the requirements of the standard EN 61000-6-4 Generic standards – Emission standard for industrial environments.

8.2 ラベル、認証、および承認

韓国



この製品は、韓国認定の要件に適合しています。

This product satisfies the requirement of the Korean Certification (KC Mark).

이 기기는 업무용(A 급) 전자파 적합기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기
바라며 가정 외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다.

このデバイスは、無線妨害の放射に関する制限クラス A に適合していることに注意して
ください。このデバイスは、住居領域を除く、すべての領域で使用することができます。

ユーラシア関税同盟の識別情報



EAC (Eurasian Conformity)

- ロシア、ベラルーシおよびカザフスタンの関税同盟
- 関税同盟の技術規則(TR CU)に準拠する適合性宣言

WEEE ラベル (欧州連合)



廃棄の手順は、地域の規制およびセクション「リサイクルと廃棄処分 (ページ 164)」を
遵守してください。

海洋承認

装置には、次の海洋に関する承認が適用されています。

- ABS (American Bureau of Shipping: アメリカ船級協会)
- BV (Bureau Veritas: フランス船級協会)
- DNV (Det Norske Veritas: ノルウェー船級協会)
- LRS (Lloyds Register of Shipping: 英国ロイズ協会)
- クラス NK (日本海事協会)
- KR (韓国船級協会)
- CCS (中国船級協会)
- RINA (Registro Italiano Navale)

合格後、証明書はインターネット

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26033/cert>)から参照できます。

8.3 電磁環境適合性

このデバイスは、他の指令に加えて、欧州国内市場の EMC 指令の要件を満たしていません。

EMC 指令に従ったデバイスの設置

EMC に準拠してデバイスを装着し、干渉防止ケーブルを使用することが、干渉電波のない操作を行うための基本です。

これらの操作説明書に加えて次のマニュアルに従っています。

- 無干渉コントローラの設計
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/59193566>)
- Industrial Ethernet/PROFINET – 受動回路網の構成部分
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/84922825>)

パルス型妨害

パルス型妨害に関するモジュールの電磁環境適合性は、次の表のとおりです。デバイスが電気装置の設置に関する仕様と指令に準拠していることが、電磁環境適合性の必要条件になります。

パルス型妨害	テスト法	Test level 相当
静電気放電 IEC 61000-4-2 に準拠	空中放電:8 kV	3
	接触放電:6 kV (前面)	
	接触放電:4 kV (背面)	2
バースト (高速過渡電圧妨害) IEC 61000-4-4 に準拠	2 kV 電源ケーブル 1 kV 信号ライン、< 30 m	3
	2 kV 信号ライン、> 30 m	4
高エネルギー単一パルス(サージ)、IEC 61000-4-5 に準拠	非対称のカップリング(線路接地):	
	• 1 kV 電源ライン、DC 電圧	2
	• 1 kV 信号ライン/データケーブル、> 30 m	
	対称のカップリング(ライン間):	
	• 0.5 kV 電源ケーブル、DC 電圧	2
• 1 kV 信号ライン、> 30 m	3	

8.3 電磁環境適合性

正弦波妨害

正弦波妨害に関するモジュールの EMC 特性は、次の表のとおりです。これは、デバイスが、電氣的設置に関する仕様と指令に適合するために必要です。

正弦波妨害	テスト値
IEC 61000-4-3 に準拠した HF 放射(電磁界)	1 kHz での 80%振幅変調 <ul style="list-style-type: none"> • 10 V/m まで(80 MHz ~ 1 GHz) • 3 V/m まで(1.4 GHz ~ 6 GHz)
IEC 61000-4-6 に準拠したケーブルおよびケーブルシールドへの HF 電流フィード	150 kHz ~ 80 MHz の範囲で、1 kHz の 80%振幅変調で 10 V のテスト電圧
IEC 61000-4-8 に準拠した磁界強度	50/60 Hz、30 A/m RMS

無線妨害の放射

次の表は、以下の距離で測定した、EN 61000-6-4 に準拠している電磁界から放射される妨害電波放射を示しています。

放射妨害波(放射された妨害電波)

周波数範囲	測定距離	妨害電波放射
30 MHz ~ 230 MHz	10 m	40 dB ($\mu\text{V}/\text{m}$)未満、擬似ピーク
230 MHz ~ 1000 MHz	10 m	47 dB ($\mu\text{V}/\text{m}$)未満、擬似ピーク
1 GHz ~ 3 GHz	3 m	< 76 dB (ピーク時)、< 56 dB (平均)
3 GHz ~ 6 GHz	3 m	< 80 dB (ピーク時)、< 60 dB (平均)

無線妨害電圧の放射

周波数範囲	妨害電波放射
0.150 MHz ~ 0.5 MHz	< 79 dB (擬似ピーク時)、< 66 dB (平均)
0.5 MHz ~ 30 MHz	< 73 dB (擬似ピーク時)、< 60 dB (平均)

参照項目

「使用についての注記事項 (ページ 24)」セクションの EMC 情報。

8.4 機械的環境条件

8.4.1 保管条件

次の情報は、元のパッケージで輸送および保管されるデバイスで有効な情報です。
このデバイスは、IEC 60721-3-2:2018 クラス 2M4 に基づいてテストされており、以下の修正事項と制限が付属しています。

条件の種類	許容範囲
自然落下	≤ 0.3 m
IEC 60068-2-6 に準拠した振動	5 ~ 8.4 Hz、偏差 3.5 mm 8.4 ~ 500 Hz、加速 1 g
IEC 60068-2-27 に準拠した衝撃	250 m/s ² 、6 ms、衝撃回数 1000 回

8.4.2 動作条件

次の情報は、本取扱説明書の使用に従って設置されたデバイスに適用されます。
このデバイスは、IEC 60721-3-3:2002 クラス 3M3 に基づいてテストされており、以下の修正事項と制限が付属しています。

条件の種類	許容範囲
IEC 60068-2-6 に準拠した振動	5 ~ 8.4 Hz、偏差 3.5 mm 8.4 ~ 200 Hz、加速 1 g
IEC 60068-2-27 に準拠した衝撃	150 m/s ² 、11 ms、衝撃回数 3 回

指定された範囲内の衝撃パルスは、ディスプレイに伝達されますが、デバイスの機能には影響は与えません。

8.5 周囲の気候条件

8.5.1 長期保管

次の情報は、2 週間以上元のパッケージで保管されるデバイスに適用されます。
デバイスは、IEC 60721-3-1:2018 クラス 1K21 の要件を満たしています。

8.5.2 輸送および短期保管

次の情報は、元のパッケージおよび防水パッケージで輸送され、ある期間保管されるデバイスに適用されます。

このデバイスは、IEC 60721-3-2:2018 クラス 2K11 に基づいてテストされており、以下の修正事項と制限が付属しています。

条件の種類	許容範囲
温度	-20 ~ 60 °C
大気圧	1140 ~ 660 hPa、対応高度-1000 m ~ 3500 m
相対湿度	10 ~ 90 %
汚染濃度	ANSI/ISA-71.04-2013 severity level G3 に準拠

注記

結露が発生した場合、HMI デバイスが完全に乾くまで待ってから電源を入れます。
ヒーターの直射熱に HMI デバイスを露出しないでください。

8.5.3 動作条件

次の情報は、本取扱説明書の使用に従って設置されたデバイスに適用されます。

HMI デバイスは、IEC 60721-3-3 に準拠して、防水および定置運転用に設計されています。

このデバイスは、IEC 60721-3-3:2019 クラス 3K22 に基づいてテストされており、以下の修正事項と制限が付属しています。

条件の種類	取り付け位置	MTP700-1500	MTP1900-2200
温度、 横フォーマット取り付け	垂直	0 ~ 50 °C	0 ~ 45 °C
	傾斜、最大 35°	0 ~ 40 °C	
温度、 縦フォーマット取り付け	垂直	0 ~ 40 °C	
	傾斜、最大 35°	0 ~ 35 °C	
空気圧 ¹ 、運転高度	1140 ~ 795 hPa、対応高度-1000 m ~ 2000 m		
相対湿度	10 ~ 90 %、デバイスの背面で結露なし		
汚染濃度	ANSI/ISA-71.04-2013 severity level G3 に準拠		

¹ 筐体/制御キャビネットの内部と外部の圧力差は許容されません。

「使用上の注意 (ページ 24)」と「許容取り付け位置 (ページ 28)」のセクションを参照してください。

また、次のセクションの気候ダイアグラムを順守してください。

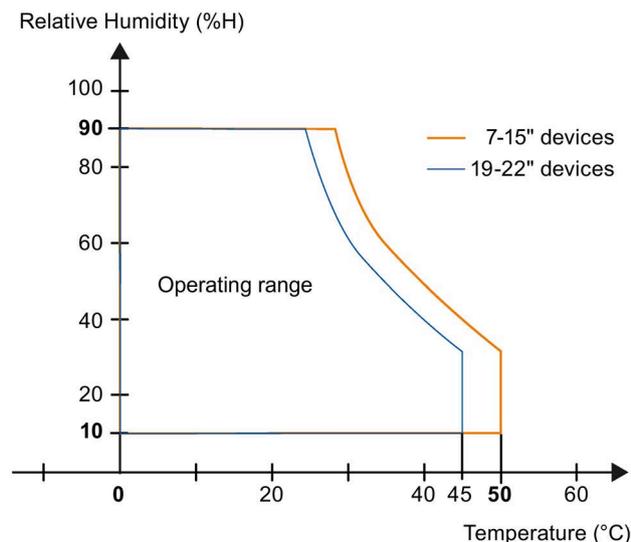
注記

HMI デバイスに接続されたシステムコンポーネント、例えば電源についても、それぞれの動作条件に適していなければなりません。

8.5.4 天候図

以下の図は、IEC 60721-3-3:2019 クラス 3K22 に基づく連続動作時の温度と湿度に対する拡張された範囲を示します。

この情報は、傾斜なしの横フォーマットで設置されているデバイスに適用されます。



8.6 絶縁テスト、保護クラス、および保護等級に関する情報

絶縁テスト

絶縁強度は、IEC 61010-2-201 に準拠して、以下のテスト電圧を使ったタイプテストで実証します。

回路	絶縁テスト済み(タイプテスト)
定格電圧 U_e 24 V	他の回路/接地への 707 V DC
Ethernet コネクタ	1500 V AC

汚染レベルおよび過電圧カテゴリ

デバイスは IEC 61010-2-201 に準拠して次の要件を満たす必要があります:

汚染レベル	3 (前面) 1 (背面)
過電圧カテゴリ	II

8.7 寸法図

保護クラス

IEC 61010-2-201 に準拠した保護クラス III。

異物や水からの保護

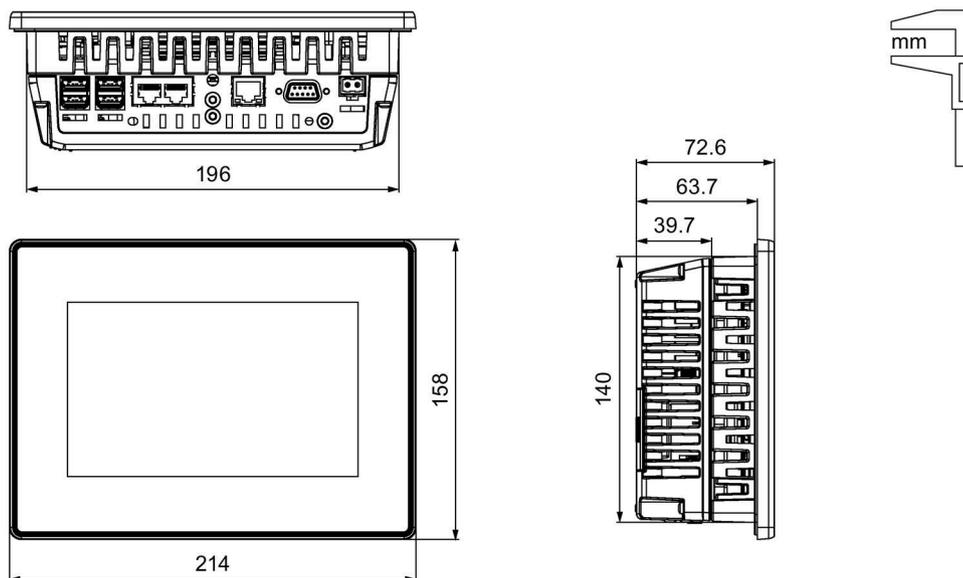
このデバイスは、IEC 60529 および UL50 に準拠する要件を満たしています。

デバイス側	保護等級
前面	取り付け状態: ・ IEC 60529 に準拠した IP65 ・ UL50 に準拠した Type 4X/Type 12 (indoor use only, front face only)
背面	IP20 標準テストプローブとの接触に対する保護。水、ホコリ、有害ガスの侵入に対する保護はありません。

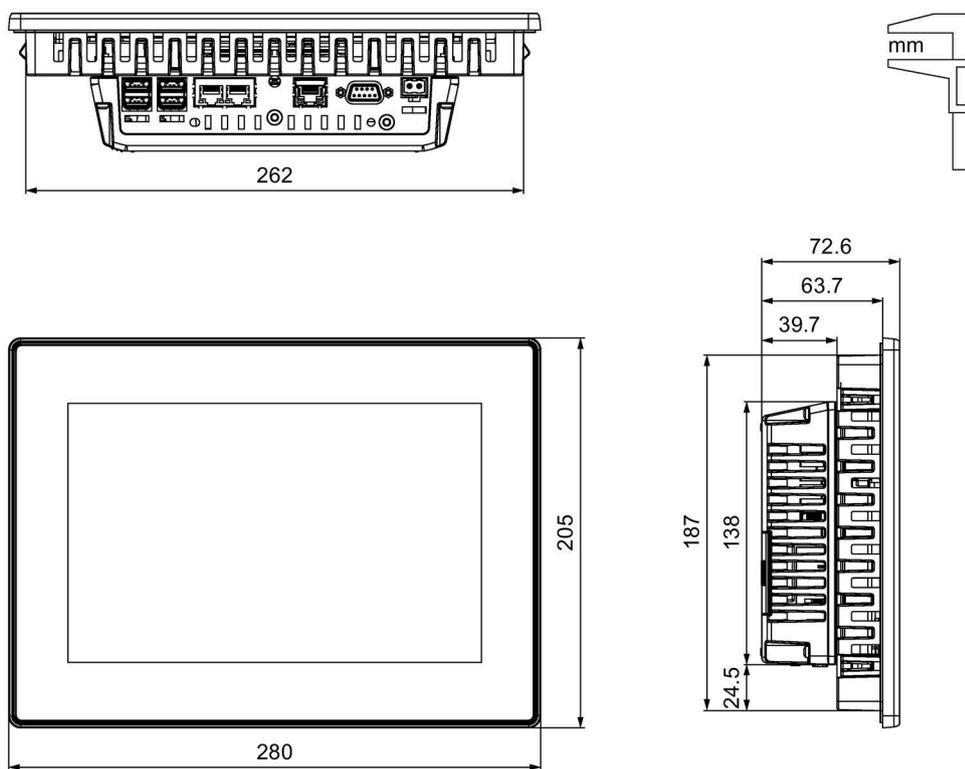
前面の保護等級は、取り付けシールが取り付けカットアウトと同一面に取り付けられている場合に限り、保証されます。「取り付けカットアウトの準備 (ページ 31)」のセクションの対応する情報を順守してください。

8.7 寸法図

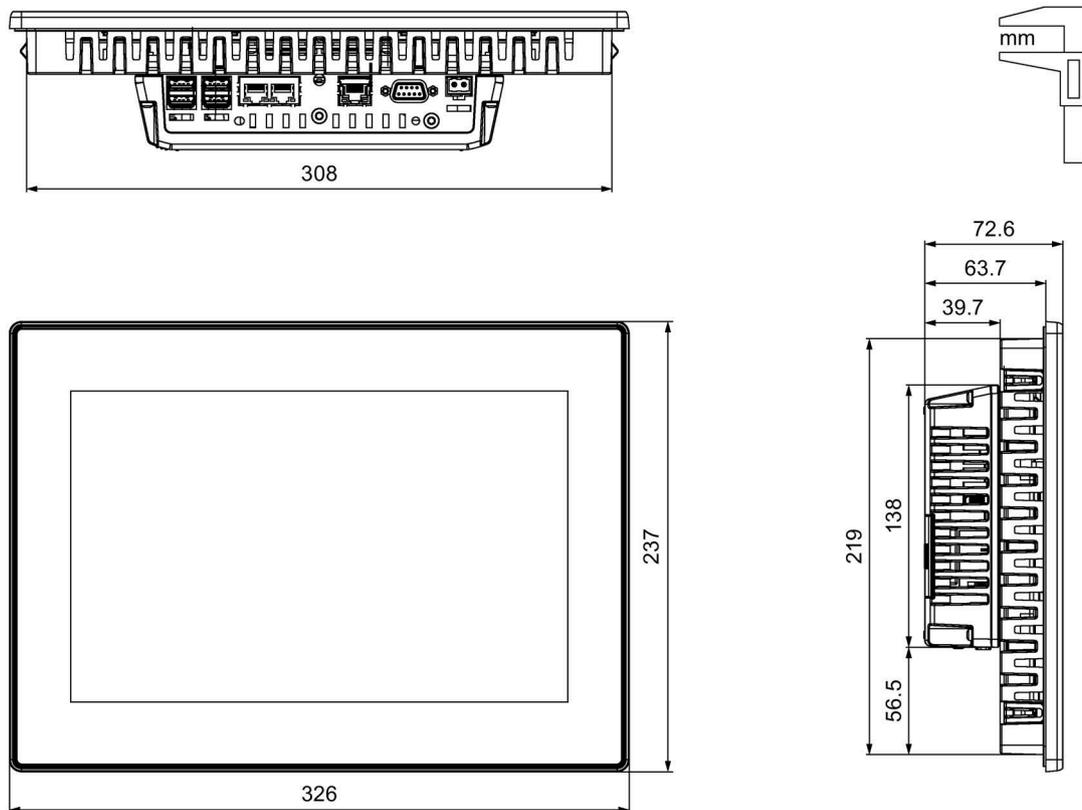
8.7.1 MTP700 Unified Comfort の寸法図



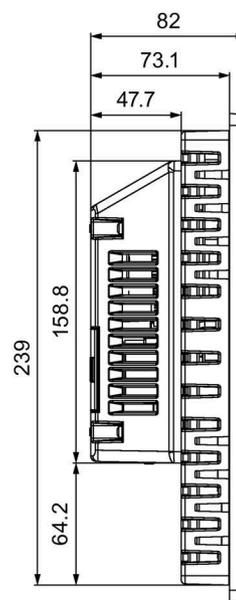
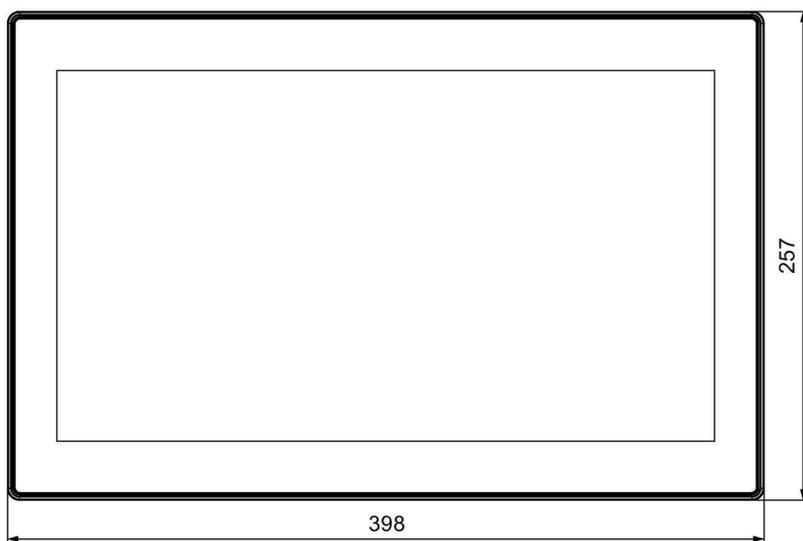
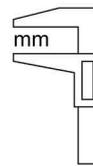
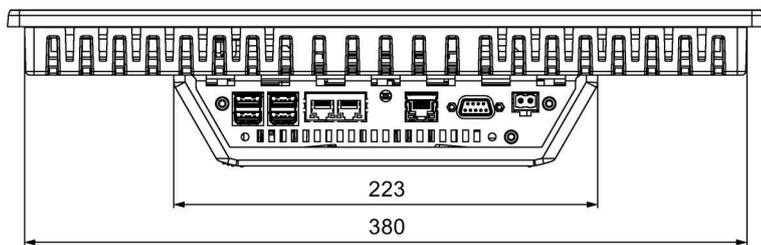
8.7.2 MTP1000 Unified Comfort の寸法図



8.7.3 MTP1200 Unified Comfort の寸法図

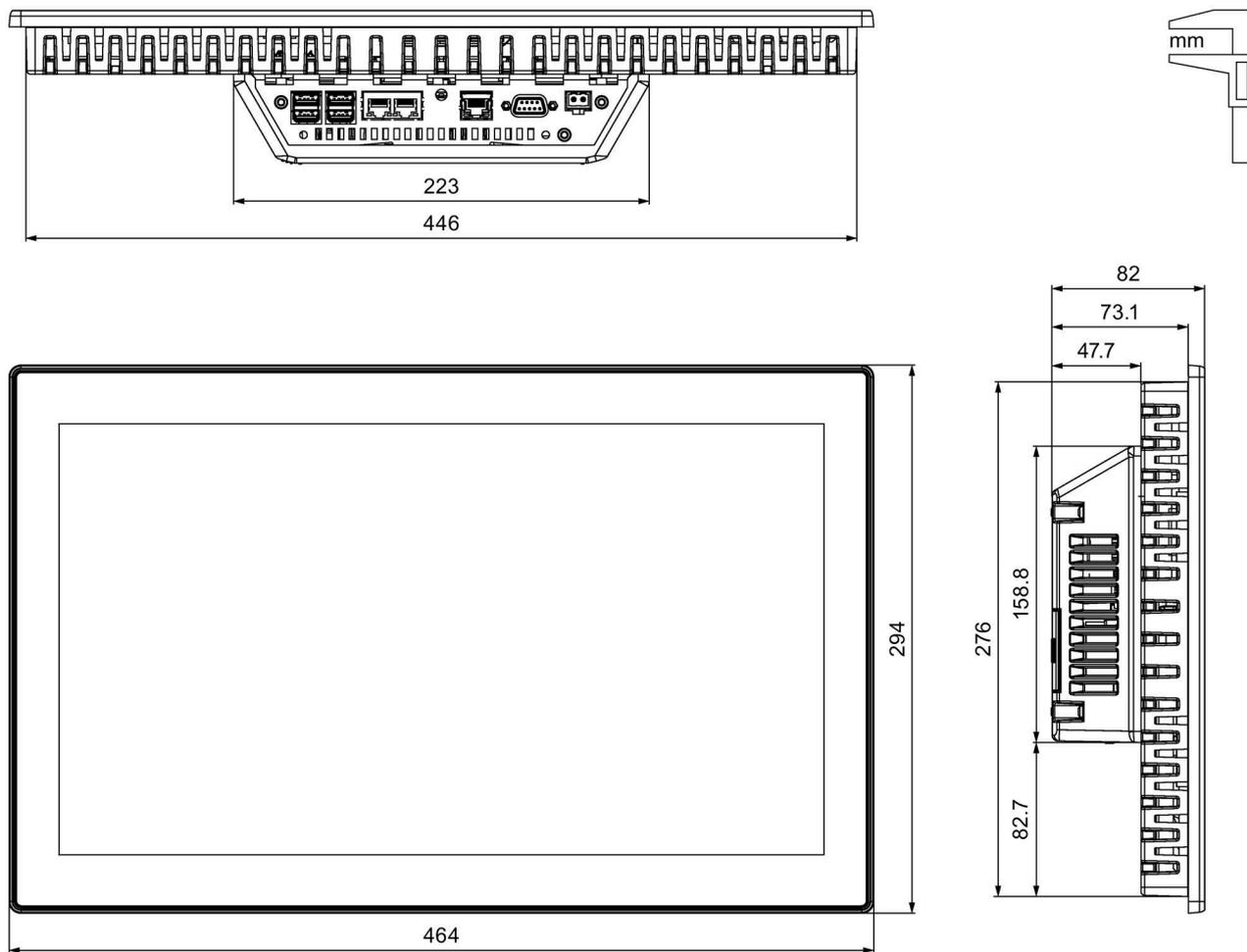


8.7.4 MTP1500 Unified Comfort の寸法図

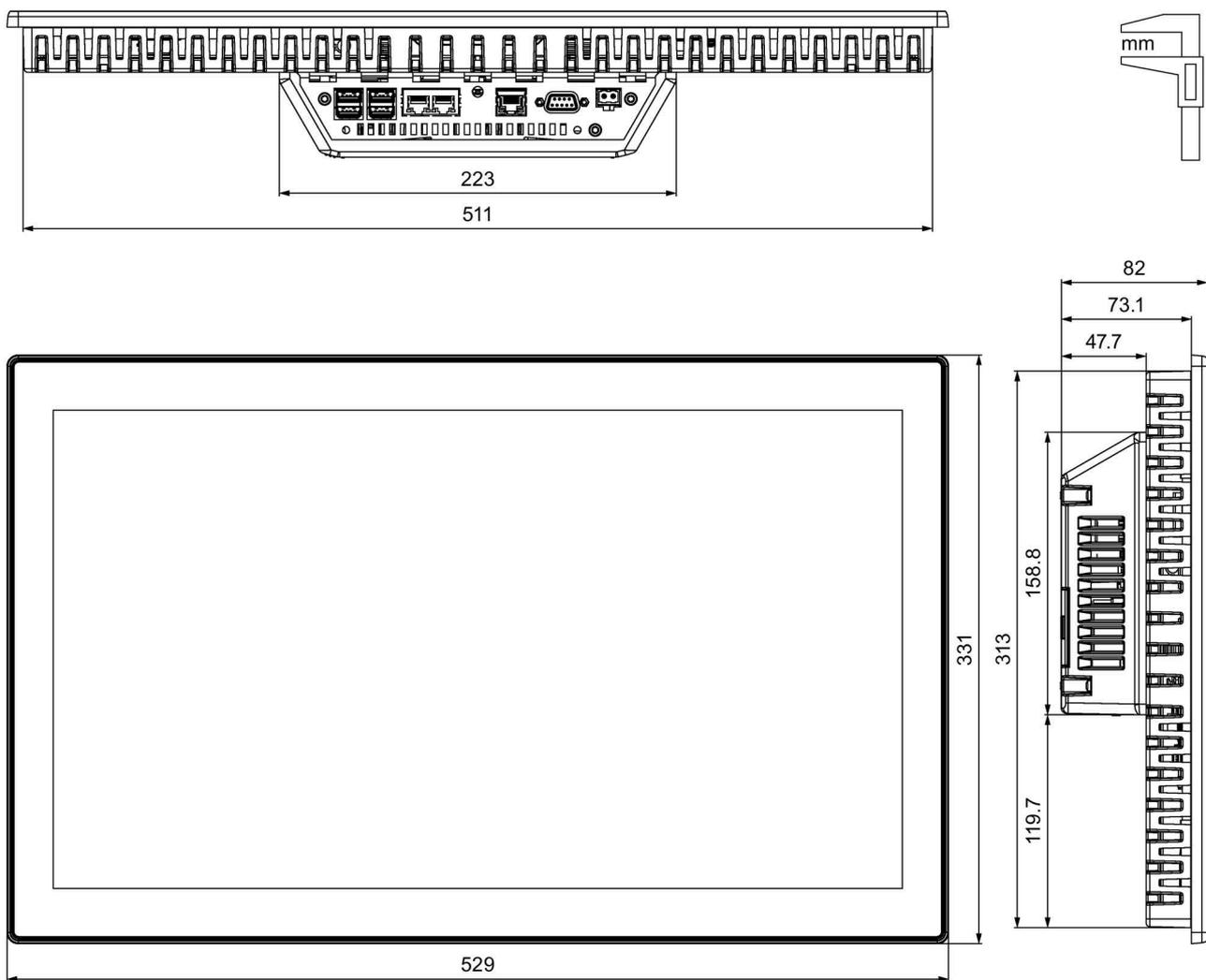


8.7 寸法図

8.7.5 MTP1900 Unified Comfort の寸法図



8.7.6 MTP2200 Unified Comfort の寸法図



8.8 技術仕様

8.8.1 MTP700、MTP1000、MTP1200 Unified Comfort

重量

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
梱包部分を含まない重量	1.4 kg	2.1 kg	2.8 kg

ディスプレイ

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
タイプ	LCD TFT		
ディスプレイサイズ	7.0 インチ	10.1 インチ	12.1 インチ
有効表示エリア	152 x 91 mm	217 x 136 mm	261 x 163 mm
解像度/ピクセル	800 x 480	1280 x 800	
表示可能な色	最高 1670 万		
コントロールパネルによる輝度の制御、値の範囲	5 ~ 100 %		
WinCC による輝度の制御、値の範囲	0 ~ 100%、5%を下回る値は 5%に設定されます		
バックライト	LED		
半輝度寿命(MTBF ¹)	50000 時間		
ISO 9241-307 に準拠したピクセルエラークラス	I		

¹ MTBF:最大輝度が元の値の半分に減少するまでの動作時間。例えば、スクリーンセイバーによる時間コントロールや PROFlenergy による集中管理などの統合的調光機能を使用すると MTBF は長くなります。

入力デバイス

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
マルチタッチスクリーン(容量性)	はい		

メモリ

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
ランダムアクセスメモリ	4 GB LPDDR4-SDRAM		
内部フラッシュメモリ	32 GB eMMC pSLC		
アプリケーションデータに使用可能なメモリ	1 GB RAM、2 GB フラッシュメモリ		
インターネットパラメータセットメモリ ¹	12 MB		
データメモリカードカードおよびシステムメモリカード ²	2 x SD/SDHC/SDXC コンビネーションスロット		

¹ スロット X51 のメモリーカードまたはインターフェース X61 または X62 の USB フラッシュドライブにより拡張可能

² メモリカードは、SIMATIC HMI 付属品として入手可能

インターフェース

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
RS 422/485	1 x SUB-D		
PROFINET (LAN)	2 x RJ45 10/100 Mbps ¹		
	1 x RJ45 10/100/1000 Mbps		
USB 3.1 Gen 1 (タイプ A)	4 x ホスト ²		

¹ 内蔵スイッチを使用(IP アドレスは 1 つのみ)

² USB タイプ A、インターフェースごとの最大負荷:900 mA、すべてのインターフェースの最大総負荷:1.2 A

電源

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
定格電圧	24 V DC		
許容電圧範囲	+19.2 V ~ +28.8 V		
主電源および電圧バッファリング時間	20 ms、IEC 61131-2 に準拠した PS2 に対応		
24 V DC での定格電流、負荷なし	0.45 A	0.5 A	0.6 A
定格電流(最小~最大)、負荷により異なる	0.45 ~ 1.0 A	0.52 ~ 1.1 A	0.6 ~ 1.3 A
電力消費、負荷なし ¹	10.8 W	12.5 W	14.5 W
突入電流 I _t	0.5 A ² s		
最大許容過渡電圧	35 V (500 ms)		
2 つの過渡電圧間の最短時間	50 秒		
内部保護	はい		

¹ 電力損失は、通常、電力消費の指定値に対応しています。

電流および電力の仕様は、アプリによる高い永久プロセッサの負荷がない状態で適用されます。

その他

Unified Comfort HMI デバイス	MTP700	MTP1000	MTP1200
バッファ付きリアルタイムクロック ¹	はい		

¹ バッファリング期間は通常 6 週間

8.8 技術仕様

8.8.2 MTP1500、MTP1900、MTP2200 Unified Comfort

重量

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
梱包部分を含まない重量	4.3 kg	5.5 kg	6.9 kg

ディスプレイ

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
タイプ	LCD TFT		
ディスプレイサイズ	15.6 インチ	18.5 インチ	21.5 インチ
有効表示エリア	344 x 193 mm	409 x 230 mm	476 x 268 mm
解像度/ピクセル	1366 x 768	1920 x 1080	
表示可能な色	最高 1670 万		
コントロールパネルによる輝度の制御、値の範囲	10 ~ 100%		
WinCC による輝度の制御、値の範囲	0 ~ 100%、10%を下回る値は 10%に設定されます		
バックライト	LED		
半輝度寿命(MTBF ¹)	50000 時間	30000 時間	
ISO 9241-307 に準拠したピクセルエラークラス	I		

¹ MTBF:最大輝度が元の値の半分に減少するまでの動作時間。例えば、スクリーンセイバーによる時間コントロールや PROFIenergy による集中管理などの統合的調光機能を使用すると MTBF は長くなります。

入力デバイス

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
マルチタッチスクリーン(容量性)	はい		

メモリ

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
ランダムアクセスメモリ	4 GB LPDDR4-SDRAM		
内部フラッシュメモリ	32 GB eMMC pSLC		
アプリケーションデータに使用可能なメモリ	1 GB RAM、2 GB フラッシュメモリ		
インターネットパラメータセットメモリ ¹	12 MB		
データメモリカードカードおよびシステムメモリカード ²	2 x SD/SDHC/SDXC コンビネーションスロット		

¹ スロット X51 のメモリーカードまたはインターフェース X61 または X62 の USB フラッシュドライブにより拡張可能

² メモリカードは、SIMATIC HMI 付属品として入手可能

インターフェース

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
RS 422/485	1 x SUB-D		
PROFINET (LAN)	2 x RJ45 10/100 Mbps ¹		
	1 x RJ45 10/100/1000 Mbps		
USB 3.1 Gen 1 (タイプ A)	4 x ホスト ²		

¹ 内蔵スイッチを使用(IP アドレスは 1 つのみ)

² USB タイプ A、インターフェースごとの最大負荷:900 mA、すべてのインターフェースの最大総負荷:1.2 A

電源

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
定格電圧	24 V DC		
許容電圧範囲	+19.2 V ~ +28.8 V		
主電源および電圧バッファリング時間	20 ms、IEC 61131-2 に準拠した PS2 に対応		
24 V DC での定格電流、負荷なし	0.7 A	1.2 A	1.0 A
定格電流(最小~最大)、負荷により異なる	0.7 ~ 1.3 A	1.2 A ~ 1.7 A	1.0 ~ 1.5 A
電力消費、負荷なし ¹	16.8 W	28.8 W	24.0 W
突入電流 I _t	0.5 A ² s		
最大許容過渡電圧	35 V (500 ms)		
2 つの過渡電圧間の最短時間	50 秒		
内部保護	はい		

¹ 電力損失は、通常、電力消費の指定値に対応しています。

電流および電力の仕様は、アプリによる高い永久プロセッサの負荷がない状態で適用されます。

その他

Unified Comfort HMI デバイス	MTP1500	MTP1900	MTP2200
バッファ付きリアルタイムクロック ¹	はい		

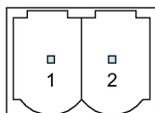
¹ バッファリング期間は通常 6 週間

8.9 インターフェースの説明

8.9 インターフェースの説明

8.9.1 DC24V X80

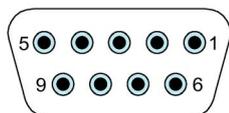
電源 24 V DC 2 ピン



ピン	意味
1	+24 V DC
2	接地

8.9.2 RS422/485 X20

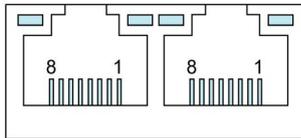
シリアルインターフェース、9 ピン sub-D ソケット、メス



ピン	RS422 の割り付け	RS485 の割り付け
1	NC	NC
2	NC	NC
3	TxD+	データ信号 B (+)
4	RxD+	RTS
5	GND 5 V、フローティング	GND 5 V、フローティング
6	+5 VDC、フローティング	+5 VDC、フローティング
7	NC	NC
8	TxD-	データ信号 A (-)
9	RxD-	NC

8.9.3 PROFINET (LAN) X1

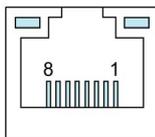
PROFINET (LAN) 10/100 Mbps、RJ45 ソケット



ピン	名称	意味
1	TX+	データ出力+
2	Tx-	データ出力-
3	RX+	データ入力+
4	NC	割り付けなし
5	NC	割り付けなし
6	Rx-	データ入力-
7	NC	割り付けなし
8	NC	割り付けなし

8.9.4 PROFINET (LAN) X2

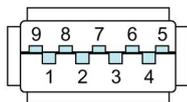
PROFINET (LAN) 10/100/1000 Mbps、RJ45 ソケット



ピン	名称	意味
1	D1+	双方向データ 1+
2	D1-	双方向データ 1-
3	D2+	双方向データ 2+
4	D3+	双方向データ 3+
5	D3-	双方向データ 3-
6	D2-	双方向データ 2-
7	D4+	双方向データ 4+
8	D4-	双方向データ 4-

8.9.5 USB X61/X62/X63/X64

USB タイプ A



ピン	名称	意味
1	VBUS	+5 V、ヒューズ付き
2	D-	データチャネル USB 2.0、双方向
3	D+	データチャネル USB 2.0、双方向
4	GND	接地
5	RX-	データ入力 USB 3.1 Gen. 1
6	RX+	データ入力 USB 3.1 Gen. 1
7	GND	接地
8	TX-	データ出力 USB 3.1 Gen. 1
9	TX+	データ出力 USB 3.1 Gen. 1

8.10 コントローラによる通信

接続数

Unified コンフォートパネルは、S7 コントローラへ最大 16 接続に対応しています。

コントローラ

HMI デバイスでは、次のコントローラと通信ドライバがサポートされています。

- SIMATIC S7-1200/1500
- SIMATIC S7-300/400
- OPC UA サーバー
- OPC UA クライアント

また、TIA 統合 CSP を通して次のコントローラと通信ドライバがサポートされます。

- Allen Bradley Ethernet/IP
- Mitsubishi iQR/iQF
- Mitsubishi MC TCP/IP
- OMRON Ethernet/IP
- 標準的な Modbus TCP/IP
- 標準的な Modbus RTU

追加の CSP は、インターネット

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109739698>)からダウンロードできます。それぞれのダウンロードについては、マニュアルを順守してください。

安全な HMI 通信の使用

HMI デバイスは、安全な HMI 通信もサポートするコントローラと併用することで、安全な HMI 通信をサポートしています。

安全な HMI 通信に関する詳細情報は、次で参照できます。

- [デバイスおよびネットワークの編集] > [デバイスおよびネットワークの設定] > [ネットワークの設定] > [安全な通信]にある TIA 情報システム
- S7-1500、ET200 通信マニュアル
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/59192925>)

次のセクションは、HMI デバイス上で安全な HMI 通信を使用するための最も重要な手順について説明しています。

安全な HMI 通信の設定

1. アラーム表示を使用する HMI デバイスを設定します。

注記

アラーム表示なしで接続を確立すると、エラーを検出できません。

2. 必要なセキュリティ設定を使用して CPU を設定します。PLC 通信証明書を選択して HMI 通信を安全にするか、TIA Portal によって PLC 通信証明書を生成します。
3. CPU と HMI デバイス間の HMI 通信を設定します。
4. プロジェクトを CPU と HMI デバイスに読み込みます。プロジェクトの転送中、PLC 通信証明書および(必要な場合は)必須の CA 証明書(証明書機関)が CPU および HMI デバイスに転送されます。

注記

CPU の設定の更新や読み込みを行う場合は、HMI デバイスを新たにダウンロードする必要があります。

CPU の設定が変更され、コントローラにダウンロードされると、コントローラの PLC 通信証明書が更新されます。この場合、HMI デバイスの PLC 通信証明書も、新しいプロジェクトのダウンロードにより、更新する必要があります。

PLC 通信証明書を信頼する

接続のセットアップ中、CPU は PLC 通信証明書を HMI デバイスに転送します。次の状況を識別します。

- HMI デバイスで PLC 通信証明書が既に「信頼済み」ステータスになっている場合、CPU と HMI デバイス間の安全な HMI 通信が自動的に確立されます。
- HMI デバイスの PLC 通信証明書が「信頼済み」ステータスでまだ使用可能になっていない場合、HMI デバイスのアラーム表示は CPU が信頼されておらず、エラーコードが出されていることを示します。

この場合、HMI デバイスで PLC 通信証明書を「信頼済み」としてマークする必要があります。

8.11 WinCC との機能範囲

PLC 通信証明書を「信頼済み」としてマークするには、次を実行する必要があります。

1. コントロールパネルを開きます。
2. [Security] > [Certificates] を選択します。
3. [Other Certificates] エントリを [Certificate store] ドロップダウンリストから選択します。
4. CPU の PLC 通信証明書を [Other certificates] リストから選択します。
5. [Trust] ボタンを押します。
6. HMI ランタイムソフトウェアを再起動します。

HMI デバイスで PLC 通信証明書が既に「信頼済み」ステータスになっている場合、安全な HMI 通信が確立されます。

下記も参照

Certificates (ページ 115)

8.11 WinCC との機能範囲

パフォーマンス特性

以下のパフォーマンス特性の表は、プロジェクトが使用する HMI デバイスのシステム制限内に収まっているかを評価するのに役立ちます。

指定された最大値は、加算されません。システム限界で稼働するデバイスの設定が正しく機能するという保証はありません。

さらに、画面ごとのオブジェクト数、タグ接続数、サイクル時間とスクリプトなど、画像設定における複雑さが、画像を開く時間やランタイムのパフォーマンスに決定的な影響を及ぼします。

指定された制限に加えて、設定メモリリソースによって課される制約も順守する必要があります。

パフォーマンス機能に関する詳細情報は、[可視化プロセス(RT Unified)] > [情報機能] > [SIMATIC Unified コンフォートパネル]にある情報システムで参照できます。

タグ

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
プロジェクト内のタグ数	8000	
配列ごとのエレメント数	1600	

アラーム

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
アラームクラス数	32	
ディスクリートアラーム数	9000	
アナログアラーム数	300	
アラームの文字長	512	
中断ごとのアラームテキスト数	10	
アラームごとのプロセス値の数	10	
キューにあるアラームイベント数	750	
アラームバッファ	アラームログとして設定されています	

注記

内部メモリの使用に関する注意事項を順守してください

短い時間間隔でアラームバッファに大量のアラームが書き込まれると、内部メモリの寿命、つまりは HMI デバイスの耐用年数が短くなります。

アラームを設定する際には、セクション「メモリコンセプト (ページ 67)」の内部メモリの注意事項に従ってください。

画面

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
画面数	1200	
低レベル画面ウィンドウ数	10	
画面ごとのオブジェクト数	800	1200
画面ごとの「コントロール」領域からのオブジェクト数	40	80
画面ごとのタグ数	600	800

パラメータセット

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
パラメータセットタイプの数	750	
パラメータセットタイプエレメントの数	1000	
パラメータセットの数	2000	
内部フラッシュ内のデータレコード専用メモリ ¹	12 MB	

¹ スロット X51 のメモリーカードまたはインターフェース X61 または X62 の USB フラッシュドライブによる拡張

ログ

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
ログの数	50	
ロギングタグの数、SQLite	5000	
ロギングタグの数、Microsoft SQL	--	

「メモリコンセプト (ページ 67)」のセクションのログの使用に関する注意事項を順守してください。

トレンド

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
トレンド数	600	
トレンド表示ごとのトレンド数	20	
トレンド表示ごとのトレンドエリア数	2	5

テキストリストとグラフィックリスト

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
グラフィックリスト数	750	
テキストリスト数	750	
テキストまたはグラフィックリストごとのエントリ数	750	
グラフィックオブジェクト数	6000	
テキストエレメント数	60000	

スクリプト

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
Java スクリプト数	600	
機能リストごとの機能数	25	

スケジューラ

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
時間またはイベントによってトリガされたタスク数	70	

通信

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
S7 接続数	16	

言語

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
ランタイム言語数	32	

8.11 WinCC との機能範囲

ユーザー管理

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
役割数	50	
事前定義された機能権限数	20	
ユーザー数	200	

プロジェクト

Unified Comfort HMI デバイス	12 インチ以下のディスプレイサイズ	15 インチ以上のディスプレイサイズ
装置のプロジェクトファイルのサイズ	100 MB 未満	

技術サポート

A.1 サービスおよびサポート

製品に関する追加情報やサポートはインターネットの次のアドレスにあります:

- 技術サポート (<https://support.industry.siemens.com>)
- サポートリクエストフォーム (<https://www.siemens.com/supportrequest>)
- アフターサービス情報システム SIMATIC IPC/PG (<https://www.siemens.com/asis>)
- SIMATIC マニュアルセット (<https://www.siemens.com/simatic-tech-doku-portal>)
- 最寄りの担当代理店 (https://www.automation.siemens.com/aspa_app)
- トレーニングセンター (<https://siemens.com/sitrain>)
- Industry Mall (<https://mall.industry.siemens.com>)
- TIA Selection Tool (<https://www.siemens.com/tia-selection-tool>)

最寄りの担当代理店またはテクニカルサポートにお問い合わせの際は、以下の技術情報をご用意ください:

- デバイスの MLFB
- 産業用 PC の BIOS のバージョンまたはデバイスのイメージバージョン
- 他の取り付けられているハードウェア
- 他のインストールされているソフトウェア

ファームウェアとソフトウェア

HMI デバイス用のファームウェアとソフトウェアは、今後も継続的に開発されています。お使いの HMI デバイス用のソフトウェアアップデートやパッチが利用可能かどうかを定期的に確認し、最新バージョンをインストールしてください。

お使いの HMI デバイスの最新のアップデートおよびパッチは、インターネットの次のアドレスを参照してください。

- HMI パネルファームウェア
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/view/109746530>)
- WinCC (TIA Portal)ダウンロード
(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/24212/dl>)

現在の文書

製品に対して現在の文書を常に使用できるようにしてください。インターネット (<https://support.industry.siemens.com>) でデバイスの記事番号を入力することにより、本マニュアルの最新版や他の重要な文書を確認できます。必要に応じて、入力タイプ[マニュアル]の入力項目をフィルタします。

A.2 トラブルシューティング

このセクションでは、発生する可能性がある障害の特定および調整の情報を説明しています。

エラーメッセージ	考えられる原因	対処法
[Reset system memory card failed] [Start automatic backup failed]	システムメモリカードに欠陥があるか、誤ったシステムメモリカードが挿入されています。	欠陥があるシステムメモリカードを新しい 32 GB 以上の SIMATIC SD memory card と交換します。
[System card error]	異なるタイプのデバイスのシステムメモリカードが挿入されています。	システムメモリカードを同じタイプのデバイスのシステムメモリカードと交換します。 システムメモリカードのデータを使用していないデバイスで、システムメモリカードを使用できます。この場合、 [!System Card!SIMATIC.HMIActive] フォルダ内のすべてのデータが削除されます。

A.3 適用例と FAQ

適用例

適用例については、インターネットの次のアドレスで参照できます。

Unified コンフォートパネルの適用例

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26032/ae>)。

FAQ

Unified コンフォートパネルの FAQ は、インターネットの次のアドレスから入手できます: Unified コンフォートパネルの FAQ

(<https://support.industry.siemens.com/cs/ww/en/ps/26032/faq>)

A.4 システムアラーム

HMI デバイスのシステムアラームには、HMI デバイスおよびコントローラの内部状態に関する情報が表示されます。

注記

システムアラームが表示されるのは、アラームウィンドウが設定されている場合に限り
ます。システムアラームは、HMI デバイスで現在設定されている言語で出力されます。

システムアラームパラメータ

システムアラームは、トラブルシューティングに関連する暗号化パラメータを含んでい
る場合があります。これは、ランタイムソフトウェアのソースコードを参照するために
役立つためです。これらのパラメータは、[エラーコード]テキストの後に出力されま
す。

「メモリコンセプト (ページ 67)」のセクションのシステムアラームの設定とアラーム
バッファの使用の注意事項を順守してください。

システムアラームの説明

HMI デバイスのシステムイベントリストについては、TIA Portal 情報システムを参照し
てください。

A.5 製造元に関する情報

Siemens AG は本書に記載された HMI デバイスの製造元です。

製造元の住所は以下の通りです。

Siemens AG
Digital Industries
Postfach 48 48
90026 NÜRNBERG
GERMANY

マークおよびシンボル

B.1 安全関連シンボル

次の表は、マニュアルに記載のシンボルに加えて、SIMATIC デバイス、そのパッケージ、または同封のドキュメントに付け加えることのできるシンボルを説明しています。

シンボル	意味	参照
	一般的な危険の表示/注意 操作説明書に従ってください。操作説明書には潜在的な危険の種類に関する情報が含まれており、危険を特定して対策を実施することができます。	ISO 7000 No. 0434B, DIN ISO 7000 No. 0434B
	Ex 承認のモジュールにのみ関連する注意	
	指示に従う	ISO 7010 M002
	認定された電気技師のみが設置可能	IEC 60417 No. 6182
 F<2N DISPLAY F<4N HOUSING	HMI デバイスの機械的負荷	
 CABLE SPEC.	接続ケーブルは周囲温度に合わせて設計する	
 EMC	EMC に適合した設置	
 U = 0V	電圧がかかった状態で、設置しない、着脱しない	
 230V MODULES	230V モジュールの危険な電圧	ANSI Z535.2
 24V MODULES	保護クラス III、保護低電圧 (SELV/PELV) のみを供給	IEC 60417-1-5180 の 「クラス III 装置」

B.1 安全関連シンボル

シンボル	意味	参照
 <p>INDOOR USE ONLY INDUSTRIAL USE ONLY</p>	産業用途および屋内エリアのみ（制御キャビネット）	
	デバイスは制御キャビネットに統合されているか設置されていること	
 <p>ZONE 2 USE CABINET IP54</p>	最低 IP54 の制御キャビネット内に Ex Zone 2 承認デバイスを統合するか設置すること	
 <p>ZONE 22 USE CABINET IP6x</p>	最低 IP6x の制御キャビネット内に Ex Zone 22 承認デバイスを統合するか設置すること	

略語

C

ANSI	米国規格協会
CA	認証局
CER	インターネットセキュリティ証明書
CPU	中央演算処理装置
CRL	証明書取り消しリスト
CSP	通信サービスパック
CSV	カンマ区切りの値
CTS	送信可
CUPS	Common Unix Printing System
DC	直流
DCD	データキャリア検出
DHCP	動的ホスト設定プロトコル
DIL	デュアルインライン(電子チップハウジングデザイン)
DNS	ドメインネームシステム
DP	分散 I/O
DSN	データソース名
DSR	データセットレディ
DTR	データ端末レディ
IO	入出力
ESD	静電気放電によって破損の危険があるコンポーネントとモジュール
EMC	電磁環境適合性
EN	ヨーロッパ規格
ES	エンジニアリングシステム
ESD	静電気放電によって破損の危険があるコンポーネントとモジュール
GND	接地
HF	高周波
HMI	マンマシンインターフェース
IEC	国際電気標準会議
IEM	Industrial Edge Management
IF	インターフェース
IP	インターネット プロトコル
LED	発光ダイオード
MAC	ディアアクセスコントロール
MOS	金属酸化膜半導体

MPI	マルチポイントインターフェース(SIMATIC S7)
MS	マイクロソフト
MTBF	平均故障間隔
n. c.	接続されていません
OP	オペレータパネル
PC	パーソナルコンピュータ
PG	プログラミングデバイス
PPI	ポイントツーポイントインターフェース(SIMATIC S7)
RAM	ランダムアクセスメモリ
PELV	保護特別低電圧
RJ45	登録済み Jack Type 45
RTS	送信要求
RxD	受信データ
SD Memory Card	Secure Digital Memory Card の略語
SMB	サーバーメッセージブロック
SELV	安全特別低電圧
SP	サービスパック
SUB-D	Sub-D コネクタ(プラグ)
タブ	タブレータ
TCP/IP	伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル
TFT	薄膜トランジスタ
TxD	送信データ
UL	UL 規格
UMAC	ユーザー管理およびアクセス制御
UMC	ユーザー管理コンポーネント
USB	ユニバーサル シリアル バス
UPS	無停電電源装置
WINS	Windows インターネット ネーミング サービス

用語集

EMC

電磁環境適合性(EMC)は、技術装置が互いに不必要な電気または電磁効果で干渉しない、通常あるべき状態のことを示します。電磁環境適合性は、電気設計における不適切かつ相互的な影響に関する技術上および規制上の問題に対処するものです。

HMI デバイス

HMI デバイスは、マシンおよびプラントの操作およびモニタリングに使用するデバイスです。機械やプラントの状態は HMI デバイス上でグラフィックオブジェクトによって視覚化されます。オペレータは、HMI デバイスのオペレータコントロールを使用して、マシンやプラントのプロセスに介入できます。

HMI デバイスイメージ

HMI デバイスイメージは設定コンピュータまたは外部ストレージメディアから HMI デバイスに転送可能なファイルです。HMI デバイスイメージは、HMI デバイス用のオペレーティングシステムおよびプロジェクトファイルの開始および視覚化に必要なランタイムソフトウェアの要素を含んでいます。

WinCC

WinCC (TIA Portal)は、SIMATIC HMI デバイスを設定するエンジニアリングソフトウェアです。

アラーム

アラームにはシステムアラームまたはユーザー定義のアラームがあります。ユーザー定義のアラームは通常、プラントの特定の稼働状態を示す一方、システムアラームには一般に HMI デバイスの状態に関する情報が含まれます。

イベント

ファンクションは、定義された着信イベントによってトリガされます。イベントを設定できます。ボタンには、[押す]や[放す]などのイベントを割り付けることができます。

オブジェクト

オブジェクトは、画面やアラームなどプロジェクト要素です。オブジェクトは HMI デバイス上でテキストや値を表示、入力するために使用されます。

コントローラ

コントローラは、HMI デバイスの通信に使用する SIMATIC S7 などのデバイスやシステムの一般用語です。

ジョブメール

ジョブメールは、HMI デバイスでコントローラのファンクションをトリガします。

タグ

タグは定義済みのメモリロケーションで、そこに値を書き込み、そこから値を読み取ることができます。これはコントローラまたは HMI デバイスから実行できます。タグをコントローラと相互接続させるかさせないかによって、外部タグ(プロセスタグ)と内部タグに区別します。

パラメータセット

パラメータセットは、固定データ構造を形成するタグの組合せです。設定されたデータ構造は、設定ソフトウェアや HMI デバイス上のデータに割り付けることができ、レコードとして参照されます。パラメータセットを使用すると、特定のデータレコードをダウンロードするときに、そのデータレコードに割り付けられた、すべてのデータが同期してコントローラへ確実に転送されます。

フィールド

入力値および出力値用の設定画面に確保されたエリア。

ブートルoader

ブートルoaderは HMI デバイスの電源投入後に自動的に起動して、起動したブートルoaderを使用してオペレーティングシステムが起動されます。オペレーティングシステムがロードされると、コントロールパネルが開きます。

フラッシュメモリ

フラッシュメモリは EEPROM チップを使用した不揮発性メモリで、モバイルの記憶媒体やマザーボードの常駐メモリモジュールとして実装されます。

プラント

HMI デバイス上で操作、モニタされる機械、プロセッシングセンター、システムおよびプロセスを指す一般的用語。

プロジェクト

プロジェクトには自動化プロセスの視覚化に関する情報が含まれ、設定ソフトウェアにより作成されます。プロジェクトは、プラント固有のオブジェクト、基本設定、およびアラームを組み込んだ複数の画面を通常含んでいます。WinCC で設定されたプロジェクトは、「*.ap1x」拡張子(ここで「x」はバージョンキー)のあるファイルに保存されません。例:WinCC V16 プロジェクトの場合は「MyProject.ap16」。

プロセスの視覚化

プロセスの視覚化は、テキストエレメントおよびグラフィックエレメントによる、テクニカルプロセスの表示です。設定されたプラントの画面で、オペレーターは入力/出力情報を使用して、アクティブなプラントのプロセスに介入できます。

ランタイムソフトウェア

プロジェクトは、ランタイムソフトウェアにより、HMI デバイスで開始および可視化されます。

画面

画面はプラントの論理的に関連するすべてのプロセスデータの表示形式です。プロセスデータの表示は、グラフィックオブジェクトでサポートされます。

画面オブジェクト

画面オブジェクトは、矩形、入力ボックスまたはアラーム表示などのオブジェクトで、プラントの表示や動作のために設定されているものです。

設定 PC

設定 PC は、エンジニアリングソフトウェアを使用してプラントプロジェクトを作成する、プログラミングデバイスまたは PC です。

設定ソフトウェア

プロセスを視覚化するためにプロジェクトの作成に使用される設定ソフトウェアです。WinCC は、たとえば、こうした設定ソフトウェアを表します。

操作エレメント

操作エレメントは値やトリガ関クションの入力に使用されるプロジェクトコンポーネントです。たとえば、ボタンは操作エレメントです。

他社の商品

Siemens AG は、独自の付属品に加えて、有名メーカーの高品質の付属品も商品として提供しています。他社の商品は簡単なパワーアップテストで認定されていますが、Siemens AG のシステムテストは受けていません。他社の商品の技術プロパティは、Siemens AG の同等の製品によって保証されているプロパティと異なる可能性があります。他社の商品は、Siemens AG のオンラインカタログで適宜そのように指定されています。技術仕様、ドライバ、証明書、テスト検証文書などは、各メーカーにより Siemens AG に提供され、オンラインカタログまたは Siemens AG の技術サポートからもダウンロードできます。

転送

「転送」モードでは、データが設定 PC から HMI デバイスへ転送されます。

入力ボックス

入力ボックスを使って HMI デバイスに保存された、またはコントローラに転送された文字と値を入力します。

半輝度寿命

輝度が元の値の 50%に低減するまでの期間。指定値は運転温度に依ります。

表示時間

表示時間は、HMI デバイスにメッセージまたはダイアログボックスが表示されるかどうか、および表示される時間を定義します。

保護クラス

保護クラスは電気設計で使用され、電気ショックを防ぐために設計された既存の安全対策に基づいて電気装置を分類および識別します。電気装置には 3 つの保護クラスがあります。

保護等級

保護等級はさまざまな周囲の条件のために電子機器の基準を定義します。そしてこの機器を使用するとき、起こりうる危険に対して人間を保護するためのものです。

IP が分類する保護等級は、保護クラスと異なります。両者とも危険な電圧に触れたときの保護に関するものです。IP 保護等級は汚れと湿度に対する装置の保護も分類します。